

THE MITSUBISHI FOUNDATION ANNUAL REPORT

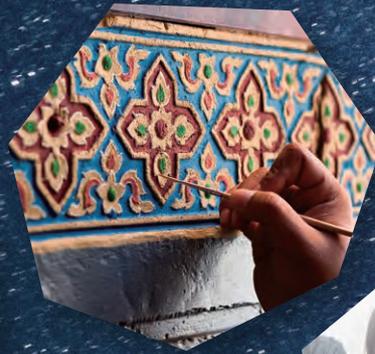
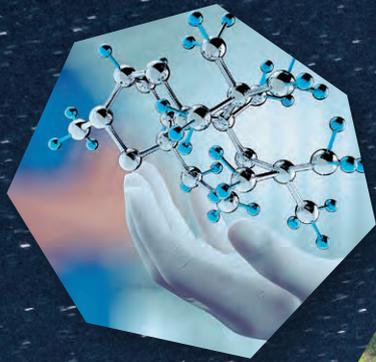
2021

三菱財団年次報告書



公益財団法人 三菱財団

THE MITSUBISHI FOUNDATION



私たちは、学術研究、社会福祉、文化財等に関する事業等に援助を行なうことで日本の学術、教育、文化、福祉の向上に貢献しています。



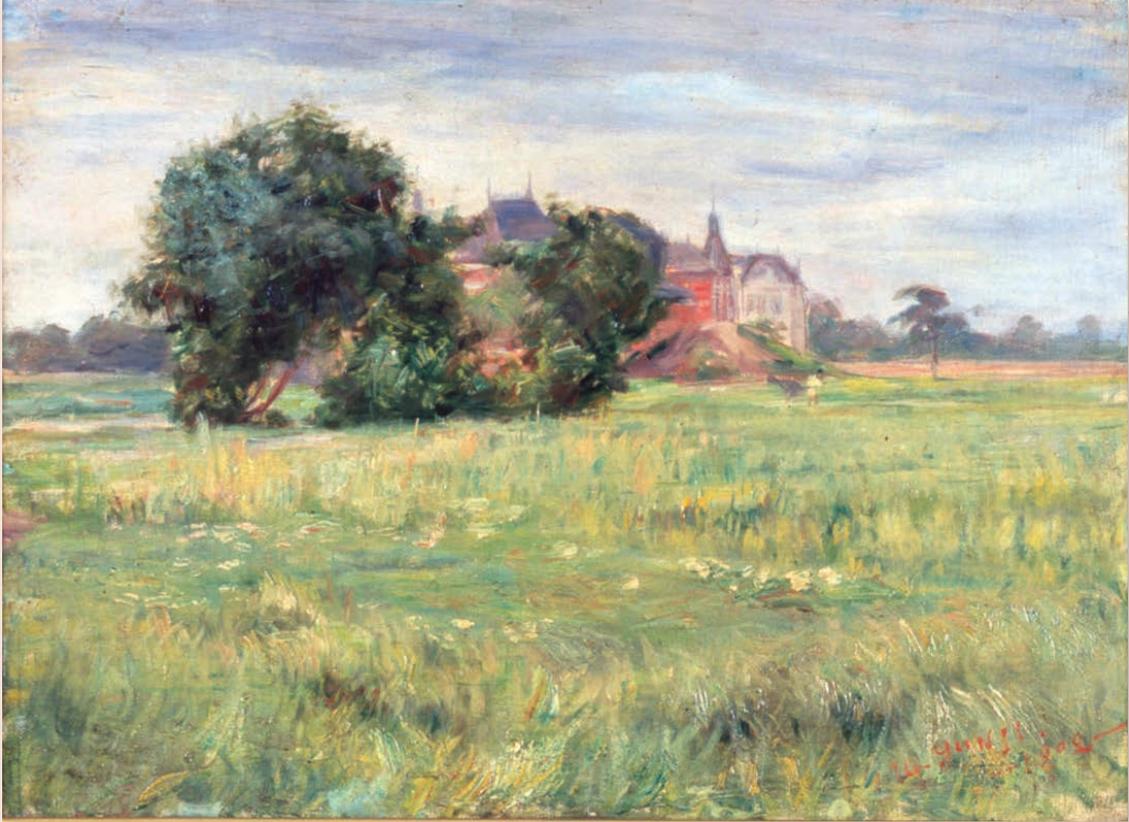
THE MITSUBISHI FOUNDATION ANNUAL REPORT

2021

第52回三菱財団年次報告書

目次

ご挨拶	3
未来につながる研究・事業助成	4
助成報告	13
1 自然科学研究助成先一覧	14
2 人文科学研究助成先一覧	34
3 社会福祉事業・研究助成先一覧	43
4 文化財保存修復事業助成先一覧	56
新型コロナ関連特別助成 社会福祉分野特別助成先一覧	60
三菱財団のあらまし	63



明治32年頃の丸の内 通称「三菱ヶ原」
画像提供：三菱地所株式会社

ご挨拶

2021年度年次報告書の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当財団は、三菱創業100周年を記念し、創業以来の社会貢献の精神を形とすべく1969年に設立されました。2010年に公益財団法人に移行し、2019年には設立50周年を迎え、今日まで一貫して研究助成、事業助成を続けてきました。今後も日本社会に貢献していくというその使命を、引き続きしっかり果たしていきたいと考えております。

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、前年に続き助成金贈呈式の開催を見合わせましたが、自然科学（一般助成及び若手助成）、人文科学、社会福祉の各分野で通常助成を実施するとともに、人文科学分野の中で50周年記念特別助成として開始した文化財修復事業助成を独立させ、“文化財保存修復事業助成”として継続していくこととしました。また、社会福祉分野では、昨年度に続き、新型コロナ関連特別助成（第2回）を中央共同募金会との共同助成で実施しました（昨年度は、三菱創業150周年記念事業の一環として実施）。

2021年度助成実績としましては、通常助成において、自然科学研究助成、人文科学研究助成、社会福祉事業・研究助成、文化財保存修復事業助成合計で1,455件と非常に多数の応募を頂き、厳正かつ慎重な審査・選考の結果、137件・514百万円の助成を行いました。また、社会福祉分野の新型コロナ関連特別助成（中央共同募金会との共同助成）では、43件・40百万円（当財団拠出分）の助成を行いました。2021年度助成実績は、180件・554百万円となりました。また、当財団設立以来の助成実績累計では、件数4,545件、助成金額19,737百万円となりました。これまで長年に亘り、多方面の皆様より賜りましたご支援、ご指導に対し、心より厚く御礼申し上げます。

皆さまにおかれましては、引き続き幅広いご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、財団の諸活動につきまして、忌憚ないご意見およびご指導を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 三菱財団
理事長

小林 健



未来につながる研究・事業助成

2021年度の助成について

2021年度は、自然科学（一般助成及び若手助成）、人文科学、社会福祉の各分野で通常助成を実施するとともに、50周年記念特別助成の位置付けで人文科学分野の中で開始した文化財修復事業助成を独立させ、“文化財保存修復事業助成”として継続しました。また、社会福祉分野では、昨年度に続き、新型コロナ関連特別助成（第2回）を中央共同募金会との共同助成で実施しました。

内訳としましては、通常助成において、自然科学分野1,095件7,790百万円、人文科学分野196件497百万円、社会福祉分野126件512百万円、文化財保存修復分野38件101百万円の応募に対し、自然科学分野61件340百万円（うち若手助成15件60百万円）、人文科学分野28件59百万円、社会福祉分野37件90百万円、文化財保存修復分野11件25百万円、合計137件514百万円の助成を行いました。また、社会福祉分野の新型コロナ関連特別助成では、56件111百万円の応募に対し43件40百万円（当財団拠出分。中央共同募金会拠出分を合わせた助成総額は76,050千円）の助成を行いました。2021年度の助成実績合計は、180件554百万円となりました。

助成金贈呈について

2021年度贈呈式は、昨年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実開催を見合わせることにしましたが、助成金受領者の皆様へは贈呈書と助成金贈呈パンフレットをお贈りしました。



自然科学 審査報告

自然科学選考委員長
佐藤 勝彦

ここに2021年度の自然科学部門研究助成贈呈先の選考結果をご報告申し上げます。

本年度の応募総数は一般助成725件、若手助成370件、合わせて1,095件と昨年より300件減少となりました。昨年、一昨年と50周年記念特別年度として助成金を増額し、また、若手助成を実施しましたが、今年度は若手助成は継続したものの、記念年度が終了したことに加え、コロナによる研究環境の悪化もあり、減少したものとと思われます。それでも応募件数は1,100件近くと高水準で、引き続き約18倍と高倍率となり、かつ高いクオリティを維持しております。

選考にあたっては、引き続き、応募された研究計画のユニークさや既成概念にとらわれない研究かどうかを重視し、研究者のこれまでの業績に加え、若手については若手らしいチャレンジングな研究か等についても考慮するように心がけました。審査にあたっては、コロナによる厳しい状況が続く中、オンラインをフルに活用した選考委員会、面接により、審査手続きは当初予定通り実施でき、クオリティの高い助成先を選定いたしました。その結果、助成件数は一般46件、若手15件、合計61件を採択候補と致しました。

次に選考された課題を医学・生物系1件、理工系1件ご紹介申し上げます。

まず初めは、一般助成20番 筑波大学 櫻井武さんの「冬眠様の能動的な低体温状態を誘導する神経機構の解明」です。

櫻井さんは、近年、マウスの視床下部前腹側脳室周囲核において QRFP 遺伝子を発現するわずか800個あまりのQニューロンを特異的に興奮させることで、低体温と代謝の著しい低下が誘導され冬眠に酷似した状態が誘導されるという、驚くべき発見（発表：Nature, 2020）をされています。これに基づいて、その神経回路・作用機序を探ることにより冬眠様状態を誘導するメカニズムを探るとともに Q ニューロンの生理的役割をあきらかにし、さらにはQ ニューロンを興奮させるための低分子化合物を探索するための分子の同定を目指しておられます。大変独創的かつ新規性の高い研究であります。櫻井さんらは、睡眠の研

究において世界をリードするグループであり、近年の顕著な実績を考えるならば、この研究が結実する可能性が高く、また目的の低分子が同定されれば、その応用範囲は計り知れません。研究計画も堅実かつユニークであります。

次に若手助成3番 高エネルギー加速器研究機構 大谷将士さんの「革新的な透過イメージングを可能にするミュオン加速技術の実証」を紹介いたします。近年、破損原子炉内の燃料デブリのイメージングなどが宇宙線ミュオンにより行われ、この技術が注目されております。本研究は、現行の全長 40 メートルのミュオン線型加速器を 10 分の 1 以下程度にまで縮小し、持ち運び可能な大型コンテナサイズにし、数 GeV 級のミュオンビームの実現を目指しております。これにより、これまで宇宙線ミュオンで行われてきた透視イメージングを凌駕する高精度且つ短時間でのミュオンイメージング分野の開拓をしようとチャレンジされております。

本研究では大谷さんは数メートルでミュオン加速を実現するための新技術であるサイクロトロン共鳴という加速スキームの基礎研究を行おうとしており、シミュレーションで数テスラのソレノイド磁石、長さ約 0.3 メートルの加速空洞によって 28 ナノ秒で 20MeV まで加速できることを確認しております。大谷さんはミュオン加速器開発については、国際共同研究など通じ、ミュオンの高周波加速に成功するなどの研究実績を有しており、成果が期待されます。

三菱財団の研究助成は、公募制を貫き、将来に向かって大きく羽ばたく可能性を秘めた研究者を選んできたことでもよく知られております。本年度もこの伝統にそった選考を行うべく努力いたしました。

ご報告を終るにあたり、三菱関連企業各社に感謝申し上げます。財団50周年に新たに設定した若手助成を記念年度終了後も継続させて頂き、一般、若手合わせて総額 3 億 4 千万円の自然科学研究助成により、61件の研究を支援することができました。心からお礼申し上げ、ご報告を終らせて頂きます。



人文科学 審査報告

人文科学選考委員長
谷本 雅之

2021年度における人文科学部門の研究助成選考結果についてご報告申し上げます。

昨年度、一昨年度と50周年記念年度における特別助成として文化財修復助成と大型連携研究助成（大型助成）を実施しましたが、今年度より通常年度に戻り、それに伴い文化財修復助成は人文科学より独立しました。また大型助成につきましては、一般助成の枠の中で応募を実施しました。

今年度の応募件数は昨年度と比べて減少しております。その主たる原因はコロナ禍の中での研究環境の激変であり、特に国内外の出張・現地調査が大幅に制限されていることが、新たな研究計画を企画・立案する際に制約として働いたことが推測されます。中でも大型助成の応募数は4件にとどまり、申請内容を勘案の上、大型助成案件の今年度の採択は見送りとしました。一方、一般助成は200件近い応募件数が確保されており、引続き人文科学分野助成への強いニーズが伺えました。コロナ禍のもと、人間や社会の在り方の問い直しをモチーフとする研究計画など、内容的にも人文科学・社会科学の垣根を超え、現代の社会的課題の解決へむけたインパクトある案件も多かったように思います。

審査にあたっては、コロナ感染への対応として、オンラインをフルに活用したWeb審査を実施しました。選考委員会も当初の予定通りの内容でオンラインにて実施し、バラエティに富んだ内容の濃い案件の助成先29件を選定することができました。そのうち、女性は8人27.6%（前年比△2人、△0.1%）でほぼ例年通りの比率となりました。また、ここ2年50歳を超えていた採択先の平均年齢は46.7歳と前年比3.4歳若返りました。

深い人間理解に資する人文科学と、現代的課題にも直接かかわる社会科学の双方から、広範な領域の研究者の応募を得ることは、大変よろこばしいことであり、多彩な研究をバランスよく助成できるよう、今後も努力してゆきたいと思っております。なお、助成決定後に辞退のお申し出が1件ありましたので、最終的に28件、助成金の総額は5,870万円となりました。

全体の動向は以上の通りですが、今回の助成先のな

かで、特徴的な研究をご紹介します。19番 慶應義塾大学 鄭浩瀾氏の「毛沢東時代の中国における革命と『親密圏』－民間史料と口述史が語る恋愛、婚姻と子育て」は、「階級」が人間のもっとも基本的、中核的属性であった毛沢東時代の中国で、人々がどのような人間関係のなかで、社会活動を繰り広げていたのか、という当たり前に見えてなかなか解明しきれない課題に対する、周到な研究組織の編成に裏打ちされた野心的な取り組みです。恋愛・結婚・家庭生活の実相と公的な理念との絡み合いが再現できれば、中国社会の考察において、画期的なブレイクスルーへと繋がっていく可能性があるとして、高い評価を受けました。

23番 奈良女子大学 宮路淳子氏による「弥生・古墳時代の動物飼養と人畜共通感染症の研究」は、日本列島における人畜共通感染症の出現が、弥生・古墳時代に始まるブタ・ウシなどの動物飼養と深く関わっているのではないかという仮説を、動物考古学と分析化学の方法を用いて検証することを企図する、文理融合型の挑戦的な研究計画です。農耕社会が人々の生活様式を変え、それが日本列島に新たな感染症を出現させたことを実証的に明らかにすることは、コロナ感染症のもと、現代的な関心にも繋がる計画として注目されました。

最後に、選考委員会を代表して、感謝の言葉を申し上げますと存じます。日本の人文科学研究は、その実証性や緻密さにおいて、国際的にも高い評価を得ている分野が少なくなく、国際的な発信も積み重ねられつつあります。しかしながら、必ずしもすぐに見え社会的効果があがるものではないこの分野の研究活動は、競争的資金の獲得などにおいて不利な面があることは否めません。そのなかで、三菱財団と三菱関連諸企業は、長期的な視野にたって、人文科学研究に対し多方面にわたる助成を続けられており、その取り組みの姿勢は、未曾有のコロナ禍の下でも堅持されております。そのご尽力に厚く御礼申し上げますと共に、日本の人文科学研究がその潜在力を発揮できますよう、適切な選考に努力してゆきたいと存じます。今後よろしくご支援のほどをお願い申し上げます次第です。



社会福祉 審査報告

社会福祉選考委員長
水田 邦雄

2021年度における社会福祉部門の事業及び研究助成の選考経過について、簡潔にご報告申し上げます。

今年度の応募総数は126件で、昨年度に比べ48件の大幅減となっております。特に、コロナ禍による活動制限の影響からか、個人の応募が減少しています。しかしながら、内容的には的確な問題意識の下、意欲的な研究や事業もあり、採択に値する良質な案件も数多くありました。

応募案件を分野別に見ますと、内容が重なるものもありますが、例年同様、地域・在宅支援44件を筆頭に高齢者40件、身体障害23件と続き、その他では児童・青少年や精神・発達障害が多くを占めています。なお、採択ベースで見た分野別でも、環境福祉が7件と多かったほかは、構成比はやや異なりますが、やはり応募件数に応じた傾向となっております。

審査の経過ですが、今年度も新型コロナ感染症対策のため、オンラインをフルに活用し、予定通りの審査を行うことができました。まず、書類選考につきましては、これまで同様、選考委員5名全員がそれぞれ応募案件すべてについて行い、合議により絞り込んだ案件について、5日間かけてリモートで個別面接を実施し、最終的に昨年度に比べ2件減の37件を採択することと致しました。なお、助成金額は財団50周年記念年度前の水準である90百万円とさせて頂いております。因みに、競争倍率は、応募件数の減により3.4倍に低下しました。査定率は、昨年とほぼ同様の80.1%となっております。なお、個人に対する助成は31件と昨年度比4件減となっておりますが、うち女性は15件と昨年度比6件増となっております。また、平均年齢は46.9歳と昨年度に比し約2歳半上昇しております。

次に、助成案件のうちから、今回は、コロナ禍に立ち向かう現場の取組みに関する調査研究事業を2件ご紹介させていただきます。

まず、8番 東京医科歯科大学 緒方泰子さんの「看護職が医療を支え続けるために必要な組織及び個人特

性の解明と応用：心理的安全性とレジリエンスの可能性」です。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、医療現場のひっ迫が続く中、燃え尽きや社会からの差別や偏見を乗り越えて、看護職の就業継続を可能とする条件整備が大きな課題となっております。本研究においては、看護職を対象とする調査により、コロナ患者受入れ病棟や感染管理部署担当者が直面する課題及び看護職を職場に留める要因となる組織と個人の特性を明らかにすることとしています。得られる知見は、今後の感染症対策のみならず病院マネジメントに寄与することが期待されるほか、今回の緊急事態に看護職がいかに対応したかの貴重な記録にもなると考えられます。

次に、15番 上智大学 錦木奈津子さんの「コロナ禍における生活困窮者自立支援の実態と今後の方策－全国調査と歴史的考察を踏まえて－」です。コロナ禍により仕事を失い、生活困窮に陥る人が全国で急増しています。リーマンショックを機に創設された生活困窮者自立支援制度を核にして、さまざまな支援が実施されていますが、本研究はその実態を、できていないことを把握するだけでなく、「届けることのできた支援」に着目するエンパワメントの視点を軸としつつ調査によって「見える化」し、今後の制度の改善や支援の質の向上を目指すものです。今しかできない調査研究として評価されます。

以上のほか、コロナ禍で困窮する人々を支援するNPOの事業も選定していますが、ご紹介はこれまでとさせていただきます。

最後になりましたが、本財団の助成は、社会福祉分野で先駆的、意欲的な取組みをしている研究者、事業者にとって大きな励みとなっており、ひいては我が国の社会福祉の発展に多大な寄与をしているものと考えます。90百万円の資金を提供して頂きました三菱関連各社のご厚意に心から御礼申し上げ、社会福祉部門の研究及び事業助成の審査結果の報告とさせていただきます。



文化財保存修復 審査報告

文化財保存修復選考委員長
小松 大秀

2019年度に三菱財団発足50周年を記念して始まった文化財修復助成事業ですが、今年度に3回目を実施することとなりましたので、その助成選考結果についてご報告申し上げます。

審査にあたっては、各委員が専門性を活かして全案件を評価、委員会で高得点のものから、各文化財の修復の意義、必要度等を慎重に審査した結果、採択は38件中11件、総額は25百万円で、競争率は3.5倍となりました。採択案件の応募金額に対する査定率は、79.1%となりましたが、特に資金に余裕のないと思われる申請者については負担を軽くするよう配慮しております。また、都道府県別では北海道から九州・熊本まで25都道府県から応募があり、採択も8都道府県からと広範囲を助成対象とすることができました。また、分野的にも絵画、彫刻、工芸品・書籍・典籍・歴史資料等と幅広く、修復価値の高い文化財の中から選考することができたと考えます。

本年度の応募件数は38件、助成希望総額は1億58百万円で、応募件数についてみれば、昨年度に較べてほぼ倍増しています。本助成事業が3回目になることから、全国的に周知が行き渡ってきたこと、また、日本博物館協会などを通じて本事業の趣旨を広く紹介できたことも、応募件数の増加につながったものと思われる。なお、本年度について特筆すべきは、助成額が5百万円増額となったこと及び修復に伴う保存事業も含めることになったことで、これによって助成の範囲も広がり、より意義深い事業が展開されると期待されます。

全体の動向は以上の通りですが、今回の助成対象となった案件のなかで、代表的なものを絵画、工芸、彫刻の各分野から1件ずつご紹介させていただきたいと思えます。

その1は、1番 大覚寺の「絹本著色 弘法大師像 1幅 保存修理」です。真言宗の開祖である弘法大師空海の肖像画遺品は少なくありませんが、これはいくつかに分かれる図像系統のなかでも「互御影」に属するもので、制作年代は鎌倉時代後期まで遡ると考えられます。保存状況が良く、的確な線描と丁寧な彩

色による造形的な質の高さから、おそらく京中の当代一流の絵師によって制作されたと思われたいへんに貴重な作品です。

その2は、2番の「町田市立博物館所蔵ベトナム陶磁修復事業」です。町田市立博物館は、当初郷土資料館として開館した施設ですが、その後、とくに工芸分野に注力して収集の範囲を広げてきました。同館のコレクションの中核をなすのはベトナムなど東南アジアの陶磁器で、なかでも今回修復の対象となる褐釉藍彩貼花龍文燭台は、ベトナム陶磁を代表する名品として、国の内外の研究者間でよく知られた作品です。町田市立博物館の工芸コレクションは、数年後に完成する町田市立工芸美術館に移管され、今回修復対象となった作品を始めとする東南アジア陶磁器は、その中心的な役割を担うと聞いています。工芸に特化した展示施設は我が国では珍しく、今回の修復事業がその新施設発足への後押しとなれば、たいへんに意義深いものということができるでしょう。

その3は、6番の「光浄寺薬師三尊及び諸尊像修復事業」です。光浄寺は福岡県糸島市に所在する臨済宗の寺院で鎌倉時代前期の創建と伝えられます。同寺に伝来する薬師三尊像、二天像、十二神将像は創建時の造像と考えられますが、洗練された造形を示す優品として注目され、彩色や装身具が当初のまま伝えられている点もたいへん貴重です。これら諸像は現状では未指定ではありますが、研究が進められ、その成果が公表されれば、いずれは国の重要文化財指定の対象になると思われ、早急に修理を施して適切に保存管理を行うことが必要と考えられます。

さて、本助成事業は、三菱財団50周年記念特別助成として始められましたが、その重要性及びニーズに鑑み、本年度より財団4番目の分野として独立させ、今後も支援を続けて頂くことになりました。国や地方自治体の支援の及ばない部分に着目された本助成を続けて頂くことになったことは洵に意義深く、三菱関連諸企業のご尽力に厚く御礼申し上げて審査報告を終わらせて頂きます。



自然科学 受領者代表挨拶

筑波大学医学医療系 教授
櫻井 武

自然科学研究助成金受領者一般助成46名および若手助成15名の計61件に対し、助成金を交付していただきますこと、受領者を代表しまして、理事長の小林健様、役員の皆様、選考委員長の佐藤勝彦先生、選考委員の先生方、関係の皆様方に深く御礼申し上げます。

昨今我が国で研究活動をするのが日増しに厳しくなっているようです。「日本の科学研究」というキーワードで検索をかけてみれば、我が国における基礎自然科学研究が失速していることや、研究論文の質・量の低下、将来を担う若い研究者や大学院生の減少が著しいなど、目をふさぎたくするような情報しか見当たらないことに気が付きます。研究者がフルタイムで働くことができるポジションが少なくなっていることや日本政府の研究開発支出額が2001年以降ほぼ横ばいであることなどが理由としてよく取り上げられています。果たしてそうなのでしょうか。私には研究費の在り方にも大きな問題があると感じます。公的な研究費の多くは、トップダウン的に特定のテーマに沿った研究計画を求めた形の公募がされ、5年前後の短いスパンで結果を明確に出すことを求めています。「中間評価」により、途中で「研究計画」通りに研究が進展しているのか、厳しい評価をされることも少なくありません。公的資金ですからある程度は致し方ないのですが、研究者の自由な発想に任せられるよりも、管理下の図面に沿った研究を遂行する形を強いられていると感じます。また有名研究者に一点集中的に巨額の予算を与えれば、研究が進展するとの考えからか、少数の超大型予算を少数の研究者に与える一方、研究活動を積極的に推進する大学は少数に絞り、地方の大学の研究における活力は奪われています。

このような状況で、ゲームチェンジャーになるような、あるいはパラダイムシフトをもたらすような研究は果たして生まれるのでしょうか。手探りで進める研究計画の中から副産物的に生まれてくる意外な発見は、

どのように育てればよいのでしょうか。研究計画に沿わない研究に研究費を使えば、それこそ流用になりかねません。こうした公的な研究費のシステムによる呪縛から解放された研究をすすめるには、民間からの助成金などによる資金調達は大きな力になります。もちろん無節操な研究を進めるわけにはいきませんが、公的な資金にくらべ、適切なレベルの自由度があるからです。

今回私が助成金をいただくことになった研究テーマ「冬眠様の能動的な低体温状態を誘導する神経機構の解明」のもとになった研究は2006年に神経ペプチドQRFPを精製、構造決定したことに端を発しております。実際の研究はその5年ほど前からスタートしていますから20年の歴史があることとなります。Qニューロンと私たちが名付けた神経細胞は視床下部の一部に存在するQRFP産生ニューロンですが、その機能は当初予想していたものと全く異なるものでした。Qニューロンを興奮させると冬眠様の低代謝状態が誘導されることに気がついたのは2017年のことです。冬眠様状態は、もし将来ヒトに誘導出来れば、救急搬送、慢性疾患の延命、はては有人宇宙探査にまで応用するものと考えられ、当初の計画になかった方向ではありますが、推進していく必要を強く感じました。今回いただくことになった研究助成金も、研究の推進において極めて大きな力になることは間違いありません。研究をご支援いただけますこと、三菱グループ各社に心から御礼申し上げますとともに、皆様方の益々のご発展を祈念申し上げます。それとともに、我が国が科学立国として再上昇していくために微力であっても尽力していくことを決意しております。



人文科学 受領者代表挨拶

慶應義塾大学総合政策学部 准教授
鄭 浩瀾

ご高名な先生方がいらっしゃるなか、誠に僭越ではございますが、2021年度三菱財団人文科学研究助成受領者を代表いたしまして、御礼のご挨拶を申し上げます。

三菱財団におかれましては、長きにわたり、学術研究、福祉事業および文化財の保存修復に対する援助を通して、学問の発展および社会福祉事業の促進に多大な貢献を果たしてこられました。このような素晴らしい支援活動に深く敬意を表すとともに、本年度も、貴財団より新たに人文科学研究28課題に対する助成を賜わったことを心より厚く御礼申し上げます。

本年度採択していただきました課題は、歴史、言語、教育、移民など、人文科学や社会科学において多岐にわたっております。その研究対象地域は日本のみならず、中国、東北アジア、アメリカなど様々な国や地域も含んでおります。このように多様な国と地域を対象とする研究課題を推進することは、新型コロナウイルスの感染拡大が続く昨今の厳しい状況のもとでは、大きな意義を持つと感じております。国家間の人的移動や交流が制限され、米中対立など地域間の紛争や対立が深刻化するなかで、三菱グループがこれまで取り組んでこられた「心の豊かさの醸成」という課題は、一層重要になると認識しております。「心の豊かさ」を根底にしてこそ、人種、言語および地域を超え、人間の生命の尊厳、歴史の豊かさおよび地域社会の多様性に対する相互理解を深めることができるのです。

この場をお借りして、私の研究課題「毛沢東時代の中国における革命と『親密圏』：民間史料と口述史が

語る恋愛、婚姻と子育て」について一言述べさせていただきます。私どもの研究は、庶民の日記や手紙、離婚当事者に対する裁判所調査員のインタビュー記録および口述史調査記録を通して、社会主義革命という激動の時代のなかで、普通の人々がいかなる恋愛、婚姻そして子育てを経験し、私人的生活空間においてどのような悩みや葛藤を抱えていたのかを明らかにしようとするものでございます。毛沢東時代の中国における民衆の生の姿を浮き彫りにすることによって、これまで中国の政党や指導者の活動を中心に語られてきた国家の歴史とは異なる人間の歴史を提示できればと思います。同時に本研究を通して、日中両方の相互理解を促進し、「心の豊かさの醸成」に貢献することを目指します。

最後になりましたが、貴財団のご支援により本研究を含む28課題の推進が可能となりましたこと、改めて御礼申し上げます。ご期待に応えて社会に貢献する研究成果を挙げるよう、全力を尽くす所存でございます。誠にありがとうございました。



社会福祉 受領者代表挨拶

上智大学 准教授
鏑木 奈津子

新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながら贈呈式の開催が見送られました。このため、書面にて、僣越ながら代表挨拶をさせていただきます。

第52回（2021年度）三菱財団社会福祉事業・研究助成においては、計37件、総額90百万円の助成を採択していただきました。心より御礼申し上げます。

本助成は、開拓的・実験的な社会福祉を目的とする民間の事業並びに科学的調査研究を対象としています。今回の助成先一覧を拝見しましたが、各テーマからは、本助成の趣旨に真正面から取り組もうという意欲が感じられ、社会福祉分野の一研究者として勇気づけられるとともに、その一つに私どもの調査研究（以下、本調査研究）が採択されたことに改めて身が引き締まる思いです。

さて、本調査研究では、コロナ禍における生活困窮者自立支援制度（以下、本制度）の相談窓口に、どのような相談が寄せられ、どのような支援が行われ、そして、その結果はどうであったのかを、この間の支援の限界と課題を踏まえて明らかにしたいと考えています。

本調査研究の意義や、特に重視・着目していきたい点は次のとおりです。

まず、本制度は、リーマン・ショック以降、派遣労働者の解雇等により、稼働年齢層の生活保護受給者が増加したことなどを受け、生活保護に至る前の人を包括的に支援するために創設された新しい制度です。つまり、当時は生活困窮者への相談窓口は明確には存在していなかったといえます。今回のコロナ禍における経済危機の下、まさに本制度の真価が問われる状況となっており、本調査研究では、この点に着目し、当時の状況と比較して、調査分析することを試みます。

また、本調査研究では、生活困窮者に「届けられた支援」を明らかにし、その上で「届けられなかった支援」を精査するというプロセスをたどることとしまし

た。なぜなら、本制度の困窮者支援の最前線に立つ相談窓口では、例をみない多くの相談者が訪れる中で、一人ひとりに支援を届けようと奮闘していますが、世論の注目は「できていないこと」に集まることが多く、結果として、この間の支援の評価が適切にできずにいるとの問題意識があるからです。長期化することが想定されるコロナ禍での生活困窮者への支援を検討するにあたり、こうしたアプローチによる知見は、第一線で奮闘する支援現場はもちろん、政策を作る国や、制度を創意工夫のもとで運用する自治体、それらを評価分析する研究者等の多様な関係者に求められるものだと考えました。

世界規模での経済危機や社会情勢の変動は、今回で終焉を迎えるものではないことを、私たちは歴史から学んでいます。したがって、今般の困窮者支援の実態を適切に評価分析する本調査研究は、将来の経済危機等への備えとなる知見にもなり得ると考えます。

本調査研究により期待する知見を着実にまとめ、社会にとって意義のあるものとなるよう、使命感を持って精進する所存です。

昨年度以来、新型コロナウイルスの影響から、三菱財団の皆様、選考委員の皆様をはじめとする関係者の皆様におかれましては、本助成の運営に大変なご苦労があったことと拝察しており、改めまして厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響は、社会福祉分野全般に様々な形で影響を及ぼしています。このような厳しい時代に、歴史ある御財団に採択していただいたことを重く受け止め、採択者一同、皆様の期待に応える成果を上げられるよう最善を尽くすことをお約束いたします。2021年度助成決定の37テーマが、社会福祉事業・研究に益々の発展と貢献をもたらし、ひいては社会福祉の向上に資することを祈りつつ、お礼の言葉に代えさせていただきます。



文化財保存修復 受領者代表挨拶

大谷大学文学部教授 大谷大学博物館長
國賀 由美子

僭越ながら文化財保存修復事業助成金受領者11件を代表し、御礼のご挨拶をさせていただきます。この度は11件の文化財保存修復事業に助成を賜り、厚く御礼申し上げます。

今回採択されました11件の文化財保存修復事業は、仏像や絵画、工芸、典籍・書籍と多岐にわたりますが、いずれも先人によって大切に伝世されてきた貴重な文化財です。近年、文化財の公開・活用が頼にさげられておりますが、これは各文化財のコンディションによって大きく左右されることであり、これらの修復事業が遂行され、貴重な文化財が将来にわたり長く継承され、人々に感動を与え続けることを願ってやみません。所蔵者の力のみではなかなか遂行しがたい文化財の保存修復事業に、心強いご助力を賜れますこと、貴公益財団法人三菱財団様に、衷心より感謝申し上げます。

貴財団の文化財修復事業助成は、2019年に貴財団の50周年記念事業として立ち上げられ、今年度が第3回目となりますこと、また今年2021年度より「保存」事業も対象となることを聞き及び、益々有難く頼もしく感じる次第です。

さて、今回助成を賜ることになりました本学博物館所蔵の「三国祖師影」は、インド・中国・日本の真言密教の祖師を中心にさまざまな先聖先師を描いた図像巻です。東密小野流始祖・仁海によるとされ、原本は伝来しませんが、当本（久安6年本）ほか玄証書写本（12世紀 東京国立博物館蔵）、承安3年本（所在不明）、元禄4年本（唐招提寺蔵）などが知られています。当

本の筆者は不明ですが、奥書より久安6年（1150）に法務御房（寛信）本を底本に勸修寺で書写されたことがわかり、制作の経緯を知ることができます。

当本の伝来は、元禄4年本の箱裏書により伏見宮家旧蔵で元禄4年以前に致貞親王から愛宕山福寿院に寄進されたことが判明し、また旧蔵者雨森某氏の覚書では比叡山横川谷の或寺旧蔵と伝えます。明治21年（1888）に雨森某氏から神田香巖氏の所蔵に帰し、のち神田喜一郎氏より本学に寄贈いただきました。この間、補紙にある富岡鉄斎の識語によれば、巻頭第一位の龍猛が欠失していたため鉄斎が承安3年本により補写したことが明らかです。承安3年本は現在所在不明ですが、前掲の覚書によれば法金剛院旧蔵とあります。

三国祖師影の写本中では、玄証書写本が重要文化財に指定されますが、当本は1150年の年紀をもつ現存最古写本といえ、また制作経緯がわかり、その史料価値は極めて高いと考えます。しかしながら現状は、虫喰などにより特に巻頭から数紙の損傷が著しく、経年劣化で糊の接着力も弱まり糊離れがみられ、巻末に向かうにつれ折れも顕著で、経年の汚れ、表装裂、見返の損傷など、展示公開や他館への貸与に厳しいものです。これらの回復に加えて今回の修理は、料紙の切継の解明など、当本研究への寄与も期待されます。

最後になりましたが、この度のご支援により修復を推進できますことに、あらためまして受領者一同感謝申し上げますとともに、今後とも貴重な文化財を次世代につなげることを心に命じ、御礼の言葉とさせていただきます。

第52回(2021年度)の

助成報告

助成金受領者と助成概要

2021

第52回（2021年度）三菱財団自然科学研究助成先一覧

【一般助成】

番号	所在地	名称	使 途	金 額
1	福岡県	九州大学大学院理学研究院 教授 <small>いけのうち じゅんいち</small> 池ノ内 順一	プレブによる細胞運動の分子機構の 解明	6,000,000円
2	大阪府	大阪大学大学院医学系研究科 特任教授(常勤) <small>いしい ひでし</small> 石井 秀始	膵がんの組織悪性度を左右する膵がん 細胞-T細胞の競合関係の解明と疾病 制御	4,000,000円
3	千葉県	東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授 <small>いしかわ あさの</small> 石川 麻乃	繁殖システムの季節性を進化させる 分子遺伝機構	7,000,000円
4	福岡県	九州大学生体防御医学研究所 准教授 <small>いとう みなこ</small> 伊藤 美菜子	神経精神疾患発症における免疫応答の 意義の解明	5,500,000円
5	東京都	東京大学大学院理学系研究科 准教授 <small>いながき そういち</small> 稲垣 宗一	遺伝子の転写領域を規定する メカニズムの解明	6,000,000円
6	石川県	金沢大学新学術創成研究機構 教授 <small>いのうえ ひろし</small> 井上 啓	脂肪肝での肝細胞死の様式変容とその 制御の解明	4,500,000円
7	兵庫県	神戸大学大学院理学研究科 教授 <small>うちの たかし</small> 内野 隆司	超伝導ヘテロ界面とフラクタル構造の 協奏による新物性	4,000,000円
8	東京都	東京大学大学院理学系研究科 教授 <small>おおぐり ひろき</small> 大栗 博毅	天然物類似中分子ケミカル バイオロジーを基盤とした線維化 抑制分子創製	6,500,000円
9	東京都	東京大学大学院理学系研究科 教授 <small>おおた ひろき</small> 太田 博樹	縄文人iPS 細胞の構築とその応用に 向けた技術開発	9,000,000円
10	栃木県	宇都宮大学 バイオサイエンス教育研究センター 准教授 <small>おかもと まさのり</small> 岡本 昌憲	アブシシン酸受容体によるサリチル 酸生合成制御機構の解明	6,500,000円
11	宮城県	東北大学金属材料研究所 教授 <small>おのせ よしのり</small> 小野瀬 佳文	ヘリカルスピントロニクス創成	10,000,000円
12	岡山県	岡山大学学術研究院医歯薬学域 講師 <small>かたの さか ゆき</small> 片野坂 友紀	筋細胞の恒常性維持におけるメカノ センサーの役割	4,000,000円
13	東京都	慶應義塾大学医学部 教授 <small>かない たかのり</small> 金井 隆典	迷走神経非対称性と神経反射からみた 多発性硬化症病態の解明	7,000,000円
14	東京都	東京大学大学院工学系研究科 教授 <small>かのだ かずし</small> 鹿野田 一司	分極場のトポロジカル励起による新奇 な熱電効果の開拓	5,500,000円
15	兵庫県	理化学研究所 生命機能科学研究センター チームリーダー <small>きたじま ともや</small> 北島 智也	卵母細胞において正確な染色体分配を 保証する新規機構の解明	7,000,000円
16	茨城県	農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門 上級研究員 <small>きむら のぶあき</small> 木村 延明	深層ニューラルネットワークを実装 した汎用的な水位予測手法の開発	1,500,000円
17	福岡県	九州大学生体防御医学研究所 教授 <small>こうだ だいすけ</small> 神田 大輔	「なぜ蛋白質分子が一つの定まった 立体構造に素早くフォールドできる のか?」の問題にNMR解析で答える	5,500,000円

番号	所在地	名称	使 途	金 額
18	東京都	東京大学大学院総合文化研究科 教授 <small>こみや つよし</small> 小宮 剛	地球表層環境と生命の初期共進化解読	4,500,000円
19	東京都	東京大学国際高等研究所 特任准教授 <small>こんどう さとる</small> 根東 覚	単一神経細胞における視覚入力情報の統合・読み出し機構の解明	5,000,000円
20	茨城県	筑波大学医学医療系 教授 <small>さくらい たけし</small> 櫻井 武	冬眠様の能動的な低体温状態を誘導する神経機構の解明	15,000,000円
21	茨城県	筑波大学医学医療系 教授 <small>しぶや あきら</small> 渋谷 彰	C型レクチン様受容体を標的とした皮膚アレルギー制御法の基盤開発	6,000,000円
22	愛知県	分子科学研究所 生命・錯体分子科学研究領域 准教授 <small>せがわ やすとも</small> 瀬川 泰知	等方的キャリア輸送を実現するユニバーサル有機半導体材料の開発	10,000,000円
23	東京都	東京理科大学先進工学部 准教授 <small>たかはし ふみのり</small> 高橋 史憲	乾燥ストレス応答での長距離シグナルを担うペプチドの分泌制御機構の解明	4,000,000円
24	神奈川県	横浜国立大学大学院工学研究院 教授 <small>たけだ じゅん</small> 武田 淳	テラヘルツ電場駆動STMによる単一分子発光の検出と制御	4,000,000円
25	東京都	東京大学大学院工学系研究科 教授 <small>ながしお こうすけ</small> 長汐 晃輔	理想的な2次元面内トンネル現象の理解と2次元層状トンネルトランジスタへの展開	6,000,000円
26	大阪府	大阪大学大学院医学系研究科 准教授 <small>なかもら しゅうへい</small> 中村 修平	傷ついたリソソームを修復するメカニズムとその生理学的意義の解明	5,000,000円
27	北海道	北海道大学遺伝子病制御研究所 教授 <small>のま けんいち</small> 野間 健一	進化上保存された3Dゲノム構造形成メカニズムの解明	6,000,000円
28	茨城県	高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 研究機関講師 <small>はせがわ まさや</small> 長谷川 雅也	CMB偏光観測望遠鏡の高感度化による原始重力波の世界最高感度探索	7,500,000円
29	神奈川県	東海大学医学部 講師 <small>ほそかわ ひろゆき</small> 細川 裕之	変異型Runx転写因子によるT細胞急性リンパ性白血病の発症メカニズムに基づいた新規治療戦略の創出	4,000,000円
30	新潟県	新潟大学大学院医歯学総合研究科 教授 <small>まつもと まさき</small> 松本 雅記	微量細胞定量プロテオミクスによる抗がん剤耐性分子基盤の解明	6,000,000円
31	埼玉県	理化学研究所 環境資源科学研究センター 研究員 <small>まらい あり</small> Malay Ali	液液相分離によるクモの糸の自己組織化の分子機構の解明	6,000,000円
32	愛知県	生理学研究所 特別協力研究員 <small>まるやま けんた</small> 丸山 健太	全身性炎症反応症候群による死からの解放	9,500,000円
33	東京都	公益財団法人東京都医学総合研究所 脳・神経科学研究分野脳神経回路形成プロジェクト プロジェクトリーダー 研究員 <small>まるやま ちあき</small> 丸山 千秋	サブプレート層の機能に着目した大脳新皮質構築原理の解明	5,000,000円
34	神奈川県	東京大学大学院理学系研究科 教授 <small>みうら とおる</small> 三浦 徹	社会性・群體性に共通する「超個体」原理の解明	3,000,000円

番号	所在地	名称	使 途	金 額
35	北海道	北海道大学電子科学研究所 教授 ^{みかみ ひではる} 三上 秀治	大規模多細胞計測・操作に向けたフレキシブル多点イメージング法の開発	7,000,000円
36	茨城県	物質・材料研究機構 国際ナノアーキテクトニクス サブグループリーダー ^{みぞぐち ひろし} 溝口 拓	金属間化合物の電子化物と水素吸蔵特性	5,000,000円
37	千葉県	千葉大学大学院工学研究院 教授 ^{やがい しき} 矢貝 史樹	メゾスケールトポロジカルソフトマテリアルの創出	6,000,000円
38	福岡県	九州大学 稲盛フロンティア研究センター 教授 ^{やすだ たくま} 安田 琢磨	量子重ね合わせに基づく革新的エキシトニックプロセスの開拓	5,500,000円
39	大阪府	大阪大学大学院医学系研究科 教授 ^{やちだ しんいち} 谷内田 真一	大腸腫瘍発生に関与する腸内細菌の特定とそのメカニズムの解明	5,000,000円
40	東京都	東京大学大学院工学系研究科 教授 ^{やなぎだ たけし} 柳田 剛	堅牢な人工嗅覚センサエレクトロニクスの創製	7,500,000円
41	愛知県	名古屋大学環境医学研究所 教授 ^{やまなか あきひろ} 山中 章弘	レム睡眠中の記憶消去に関わる分子メカニズム解明	8,000,000円
42	京都府	京都大学高等研究院 特定拠点准教授 ^{やまもと りょう} 山本 玲	新規独自シングルセル解析技術を用いた造血幹細胞の機能解析	4,000,000円
43	神奈川県	東京工業大学科学技術創成研究院 化学生命科学研究所 教授 ^{よしざわ みちと} 吉沢 道人	芳香環ミセルを活用した生体分子クラスターの創製	5,500,000円
44	東京都	公益財団法人東京都医学総合研究所 体内時計プロジェクト プロジェクトリーダー ^{よしたね ひかり} 吉種 光	概日時計のリン酸化振動子モデル	6,500,000円
45	東京都	国立がん研究センター研究所 がんRNA研究ユニット 独立ユニット長（准教授相当） ^{よしみ あきひで} 吉見 昭秀	がん患者検体によるDeorphanizationと治療法・バイオマーカーの探索	8,000,000円
46	宮城県	東北大学多元物質科学研究所 教授 ^{よねくら こうじ} 米倉 功治	Cryo-EM, EDによる創薬研究の加速	6,000,000円
合 計				46件 280,000,000円

(所属先・職名については2021年9月11日現在)

第52回（2021年度）三菱財団自然科学研究助成先一覧 【若手助成】

番号	所在地	名称	使 途	金 額
1	愛知県	基礎生物学研究所 うだるすきー やこぶ 特任助教 Wudarski Jakub	遺伝子操作可能な新規プラナリア (<i>Macrostomum lignano</i>)を用いた再生 制御メカニズムの解明	4,000,000円
2	東京都	東京工業大学理学院 うちだ まさき 准教授 打田 正輝	トポロジカルな磁気秩序構造をもつ 磁性半導体の創成	4,000,000円
3	茨城県	高エネルギー加速器研究機構 加速器研究施設 おおたに まさし 助教 大谷 将士	革新的な透過イメージングを可能に するミュオン加速技術の実証	4,000,000円
4	北海道	北海道大学遺伝子病制御研究所 おかざき ともしこ 准教授 岡崎 朋彦	細胞内カルボキシル化は新たな シグナル伝達制御因子か？	4,000,000円
5	宮城県	東北大学加齢医学研究所 おがわ あきこ 助教 小川 亜希子	RNAの代謝に着目した新しい生体恒常性 制御機構の解明	4,000,000円
6	東京都	東京大学生産技術研究所 すぎはら かおり 講師 杉原 加織	メカノクロミック素材を用いた水中 稼働するナノカセンサの開発	4,000,000円
7	東京都	情報通信研究機構電磁波研究所 たはら たつき 主任研究員 田原 樹	ビデオレート記録するマルチカラー 多重ホログラフィック蛍光顕微鏡 システムの開発	4,000,000円
8	東京都	東京大学大学院医学系研究科 とだ ごうたろう 助教 戸田 郷太郎	摂食に対する腸管免疫の応答による 正常な代謝の維持機構の解明と肥満 抵抗性免疫細胞の作成	4,000,000円
9	愛知県	名古屋大学 生物機能開発利用研究センター ながい けいすけ 助教 永井 啓祐	洪水耐性作物の創出に向けたイネの 茎における耐水性機構の解明	4,000,000円
10	東京都	慶應義塾大学医学部 なむぐん ほう 専任講師 南宮 湖	宿主ゲノム・病原体ゲノムの統合解析 から迫る肺非結核性抗酸菌症の病態 解明	4,000,000円
11	愛知県	名古屋大学大学院工学研究科 ふくい のりひと 助教 福井 識人	狭バンドギャップと安定性を兼ね 備えた芳香族炭化水素の創出と両極性 有機半導体としての応用	4,000,000円
12	岐阜県	岐阜大学応用生物科学部 みやわき しんご 助教 宮脇 慎吾	特定の犬種で高頻度に発生する遺伝 性疾患の原因遺伝子・多型の同定と ゲノム編集による遺伝子治療法の開発	4,000,000円
13	宮城県	東北大学多元物質科学研究所 もりかわ だいすけ 助教 森川 大輔	ナノ電子プローブを用いたドメイン 境界の静電ポテンシャル分布解析	4,000,000円
14	大阪府	大阪大学産業科学研究所 もりた たかし 助教 森田 堯	深層言語モデルの転移学習を用いた 言語・音楽・動物音声の類似度評価	4,000,000円
15	茨城県	筑波大学生存ダイナミクス研究センター テニュアトラック やましろ よしと 助教 山城 義人	血管壁の恒常性維持を担う、 メカノトランスダクション機構の解明	4,000,000円
合 計			15件	60,000,000円

(所属先・職名については2021年9月11日現在)

自然科学

1

ブレブによる細胞運動の分子機構の解明

代表研究者 九州大学大学院理学研究院

教授 池ノ内 順一

アクチン細胞骨格から脱離し細胞膜が球状に突出する構造をブレブと呼ぶ。近年、癌細胞が浸潤性を獲得する過程において、癌細胞が能動的にブレブを形成し運動することが明らかになった。私たちは、これまでに、ブレブが拡大するためには、Rnd3によるアクチン細胞骨格の再集積の抑制、ならびに、小胞体と形質膜との接触部位を介した細胞内へのCaイオンの流入による細胞質の流動性の亢進が必要であることを明らかにしてきた。本研究課題では、癌細胞のブレブによる運動において、小胞体と形質膜の接着部位の形成がどのように制御されているか、また、小胞体と形質膜の間での脂質輸送がブレブの形成において果たす役割について明らかにしたい。

自然科学

2

膵がんの組織悪性度を左右する膵がん細胞-T細胞の競合関係の解明と疾病制御

代表研究者 大阪大学大学院医学系研究科

特任教授(常勤) 石井 秀始

膵がんは現在の標準的な治療においても難治することが少なくなく、その予後は不良であり、難治がんの代表格である。申請者は、がん幹細胞の研究により、難治がんの「原動力」ともいべきがん微小環境において特徴的ながん代謝(1炭素代謝)を標的としたその創薬の開発研究を進めてきた。最近のシングル細胞レベルの解析により、がん細胞と周囲の間質における免疫担当細胞における細胞間コミュニケーションを可視化して理解し精密な診断と治療を実現できることが可能となってきた。本研究では、膵がん細胞と免疫細胞の競合関係について、がん代謝を基軸として解明し医薬工連携で画期的なアカデミア創薬を実現する計画である。

自然科学

3

繁殖システムの季節性を進化させる分子遺伝機構

代表研究者 東京大学大学院新領域創成科学研究科

准教授 石川 麻乃

繁殖期はどんな遺伝子や遺伝的変異によって進化するのか?生物の多くは特定の季節に繁殖し、種ごとに独自の繁殖期を持つ。しかし、植物の開花時期など一部の例を除き、繁殖期の進化の分子遺伝機構の多くは未解明だった。近年、私は進化生物学のモデル生物であるトゲウオを用い、繁殖期の進化の鍵遺伝子として、甲状腺刺激ホルモン遺伝子を同定した。そこで本研究では、本遺伝子が日長を感受する上流経路を解明すると共に、日長応答性の喪失の原因変異を同定し、その生理的機能と適応度に対する効果を解析することで、繁殖期の進化を何度も引き起こした至近的機構を理解する。更に、それらを他魚種と比較し、繁殖期進化の一般性を検証する。

自然科学

4

神経精神疾患発症における免疫応答の意義の解明

代表研究者 九州大学生体防御医学研究所

准教授 伊藤 美菜子

神経変性疾患や精神疾患の病態に免疫細胞が関与することが示唆されているが、具体的などのような種類の細胞がどのような分子機構でどのような役割を果たしているのか、ほとんど未解明である。アルツハイマー病モデルや統合失調症モデルマウスの脳内で免疫細胞浸潤が亢進していることを明らかにしており、免疫応答と神経疾患発症との関与が示唆される。異なる免疫細胞やサイトカインが関わる2つの病態、炎症性腸炎と食物アレルギーとの比較で、前者ではADが悪化する一方、後者では軽減するデータを得ている。本研究により、神経変性疾患・精神疾患の発症のカギとなる免疫応答を明らかにすることで新規治療法の開発につなげる。

自然科学

5

遺伝子の転写領域を規定するメカニズムの解明

代表研究者 東京大学大学院理学系研究科

准教授 稲垣 宗一

我々は、下流同士が向き合って並んだ遺伝子の数多くにおいて一方の遺伝子が他方の遺伝子の領域まで転写しており、他方の遺伝子領域においては両方向（センス-アンチセンス）の転写が起きていること、またそのような領域で働くエピゲノム制御因子を見出した。本研究では、シロイヌナズナを材料として用い、我々の確立したゲノムワイド転写動態解析により、遺伝子の転写が適切な位置で終結する分子メカニズムを理解することを目的とする。これまでに数多く同定されているエピゲノム・クロマチン制御因子の変異体を用いて、ゲノムワイド転写動態解析を行い、本分子メカニズムに関与する因子を同定することを目指す。

自然科学

6

脂肪肝での肝細胞死の様式変容とその制御の解明

代表研究者 金沢大学新学術創成研究機構

教授 井上 啓

過栄養は、代謝関連臓器で細胞死を増加させる。特に、肝臓での細胞死増加は、急性肝障害や非アルコール性脂肪性肝炎（NAFLD）の発症・増悪の原因となる。細胞死は、その様式により臓器機能への影響や最終的な転帰（組織リモデリングなど）が異なる。アポトーシスは、炎症などの死細胞周囲への影響が少なく、一方、ネクローシスなどの溶解性細胞死は、死細胞周囲に強力な炎症誘導を惹起する。申請者は、過栄養の程度に応じて、肝細胞死の様式が、アポトーシスから溶解性細胞死へと変容することを見出した。本研究では、この過栄養による肝細胞死の様式変容の制御と、その急性肝障害・NAFLDにおける役割を明らかにする。

自然科学

7

超伝導ヘテロ界面とフラクタル構造の協奏による新物性

代表研究者 神戸大学大学院理学系研究科

教授 内野 隆司

本研究では、超伝導体／強磁性体界面、超伝導体／半導体界面などヘテロ界面に着目した新規材料の創出を行うことを目的とする。そのために、超伝導ヘテロ界面とフラクタル的階層構造を有するナノ複合体の合成手法を確立する。このようにして作製した超伝導ナノ複合体に、様々なスピン秩序・電子構造を有する微結晶を希薄に分散させる手法を開発する。その中で、融体中の非平衡な化学反応を活用した試料合成、結晶成長、界面制御、電子状態制御を試みる。また、本手法で合成した試料の電気伝導度測定、磁気抵抗測定、磁化測定、NMR 測定、ミュオンスピン緩和測定を行い、超伝導ヘテロ界面に由来する新奇電子・磁気秩序の発現機構を解明する。

自然科学

8

天然物類似中分子ケミカルバイオロジーを基盤とした線維化抑制分子創製

代表研究者 東京大学大学院理学系研究科

教授 大栗 博毅

肝線維症が進行した肝硬変には、肝移植以外に有効な治療がなく、線維症の予防・治療薬が強く求められている。肝線維症の薬剤開発を阻んできた主要因は、線維化を担うヒト肝星細胞が現実的に入手不可能であったことにある。本研究では、漢方薬由来の抗マリア薬アルテミシニン類に着目し、天然物の分子骨格を自在に多様化・迅速合成する分子技術と iPS 細胞によるヒト肝星細胞作製技術を融合した創薬研究を展開する。動的に制御されている肝星細胞の活性化／脱活性化過程を天然物類似合成低分子化合物群の投与により制御する。肝星細胞活性化を起点とする線維化機構研究の知見に立脚して、線維症の治療に有望なリード化合物を創出する。

自然科学
9縄文人iPS細胞の構築と
その応用に向けた技術開発

代表研究者 東京大学大学院理学系研究科

教授 太田 博樹

現代日本人のゲノムは縄文人と大陸からの渡来人のゲノムと交雑で形成されてきた。したがって、日本人特有の形質や遺伝性疾患の多くが、縄文人由来ゲノムと渡来人由来ゲノムの混合の上に成立している。代表研究者・太田らのグループは最近、縄文人の全ゲノム・ドラフト配列を発表した。本研究は、縄文人由来ゲノム断片をもつiPS細胞の樹立を目的とする。これを分化誘導させ網羅的かつ経時的な遺伝子発現・代謝プロファイルを現代日本人のそれと比較することにより、縄文人の表現型をin vitroで解析する実験系を構築する。縄文人のゲノム情報は希少遺伝資源として価値があり、現代日本人に特化した医療の個別化や創薬への活用が期待できる。

自然科学
10アブシシン酸受容体による
サリチル酸生合成制御機構の解明

代表研究者 宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター

准教授 岡本 昌憲

植物ホルモンのアブシシン酸(ABA)受容体タンパク質を多く蓄積するコムギは耐乾性に加えて、病害抵抗性が向上する事を発見した。その病害抵抗性向上の原因は、病原菌の感染前にすでにサリチル酸(SA)を過剰蓄積していたためであった。コムギで見出したこの現象は、従来のABAとSAの拮抗関係理論とは異なるものである。本研究では、コムギABA受容体がどのようにSA生合成酵素遺伝子を正に制御しているかを、ABA受容体と相互作用するタンパク質の同定とSA生合成酵素遺伝子の制御に関わる転写因子との関係性を明らかにすることで、これまで知られていなかったABA受容体の新たな機能の解明を行う。

自然科学
11

ヘリカルスピントロニクスの創成

代表研究者 東北大学金属材料研究所

教授 小野瀬 佳文

磁性体中では、磁気モーメントは低温で様々なパターンを持った秩序を示す。その中でらせん磁性体は磁気モーメントがらせん状に秩序化する物質である。最近、小野瀬らはこのらせんの巻き方(ヘリシティー)を磁場と電流を使って制御することに成功した。現代のエレクトロニクスでは、強磁性体の磁化の方向を利用して情報を記憶しているが、らせん磁性体のヘリシティーは、より擾乱に対して頑強な情報担体となりうる。本研究では、このヘリシティー自由度を使ったスピントロニクスの実現に向けて、室温以上の転移温度を持つらせん磁性体において室温におけるヘリシティー制御の実現、磁場掃引を伴わないヘリシティースイッチングの実現、およびスピン流整流を利用したゼロ磁場ヘリシティー検出の実現にチャレンジする。

自然科学
12筋細胞の恒常性維持における
メカノセンサーの役割

代表研究者 岡山大学学術研究院医歯薬学域

講師 片野坂 友紀

筋は、動けば肥大し動かなければ痩せるというユニークな特性を持つが、これを支える分子機構は明らかになっていない。我々は、骨格筋細胞特異的TRPV2ノックアウトマウスを用いた実験から、TRPV2はメカニカルロードに対する骨格筋肥大の最上流センサーとして働き、TRPV2を介したシグナルは不動化に対する抗萎縮経路を正に制御することを明らかにした。本研究では、メカニカルストレスによって、TRPV2を介して転写因子を活性化するシグナル経路を明らかにする。この結果、超高齢化社会で問題となるサルコペニアやフレイルなどの筋病態発症機構や治療戦略を提案することを目指す。

自然科学
13

迷走神経非対称性と 神経反射からみた 多発性硬化症病態の解明

代表研究者 慶應義塾大学医学部

教授 金井 隆典

近年、飛躍的に進歩した神経研究手法により、脳腸相関の分子機序の解明が進んできている。当教室では、肝臓-脳-腸相関という左側迷走神経を利用した自律神経反射ネットワークが腸管Tregの制御に関わること、さらに左右迷走神経が異なる機能を有することを証明した。この背景のもと、迷走神経非対称性の理解を進めており、左迷走神経活性が多発性硬化症病態の発症・進展に関与することを動物モデルで見出した。そこで、多発性硬化症病態形成における左迷走神経の役割を明示し、多発性硬化症の新たな予防・治療法開発に繋げる。さらに、非対称性生物学の学術領域開拓に向けた研究基盤の構築を本事業で目指す。

自然科学
14

分極場のトポロジカル励起による 新奇な熱電効果の開拓

代表研究者 東京大学大学院工学系研究科

教授 鹿野田 一司

近年、物性科学にトポロジーを適用する研究が隆盛を極めている。特に、トポロジカルに異なる領域の境界が非自明な電子状態の発現の場として注目されているが、従来のトポロジカルな境界は動くことの無い場である。応募者らは、最近、擬1次元電子型強誘電体においてトポロジカルな境界が熱励起され、その運動が高い電気伝導を与えることを見出した。本研究では、この知見を踏まえ、動くトポロジカルな境界の物性開拓への第一歩として、熱電効果を研究する。ゼーベック効果、電気伝導度、磁気共鳴の測定により、電子型強誘電体を舞台としたトポロジカル励起の熱電変換機構を解明し、その熱電材料への応用可能性を探る。

自然科学
15

卵母細胞において正確な染色体 分配を保證する新規機構の解明

代表研究者 理化学研究所生命機能科学研究センター

チームリーダー 北島 智也

本研究では、細胞分裂において正確な染色体分配を保證する新規の機構を同定し解明する。正確な染色体分配には、適切な動原体-微小管の接続が選択的に安定化されることが必要であり、そのための機構として1) 動原体リン酸化レベルの制御による機構、2) 染色体にかかる張力による機構、の2つが知られている。我々は、マウス卵母細胞において遺伝子改変、薬剤処理、タンパク質除去の技術を組み合わせ、1)と2)のそれぞれを破壊する系を確立した。その結果、1)および2)とは独立な、紡錘体二極化に依存した機構の存在を示すデータを得ている。この系を用い、動原体と微小管が紡錘体二極化を感知し接続を安定化する機構を解明していく。

自然科学
16

深層ニューラルネットワークを 実装した汎用的な水位予測手法 の開発

代表研究者 農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究部門

上級研究員 木村 延明

データ駆動型の深層ニューラルネットワークモデル(DNN)は、水工学分野の河川洪水などのリアルタイム予測に用いるために、高精度な予測モデルとして開発が進められている。しかし、DNNは大量のデータを用いる必要があり、また、データの学習範囲でのみ予測可能な内挿スキームのため、DNN予測モデルの汎用化は難しい。そこで、DNNにデータ量の柔軟性(少量データでも高精度な予測を可能にする)やモデル内部のパラメータの事前調整(事前にカリブレーションされたモデルを転用する)などの機能を組み込んだ新たな予測手法を開発する。これにより、データ量や内挿範囲に関わらず汎用的な高精度予測モデルの利用が可能になる。

自然科学研究助成概要(一般)



「なぜ蛋白質分子が一つの定まった立体構造に素早くフォールドできるのか？」の問題にNMR解析で答える

代表研究者 九州大学生体防御医学研究所

教授 神田 大輔

蛋白質分子はミリ秒程度の短い時間内に一定の立体構造に折れ畳まる性質を持つ。その物理化学的起源は40年前に「コンシステンスー原理」であると理論的に提言された。その後、計算シミュレーションを用いて検証されてきたが、実験的な裏付けがなかった。申請者は蛋白質分子の2状態の交換を主鎖アミド基N-Hをプローブに用いて、溶液NMRを用いて残基レベルで解析すると、平衡定数Kと交換速度定数kの両対数プロットに良い直線関係があることを発見した。本研究ではC-Hをプローブにして直線関係が側鎖レベルで成立しているか否かを調べる。側鎖レベルの直線関係の成立は蛋白質の立体構築原理の理解に本質的に重要である。



地球表層環境と生命の初期共進化解読

代表研究者 東京大学大学院総合文化研究科

教授 小宮 剛

「地球と生命の起源と進化の解明」は人類が目指す共通の命題であり、自然科学における究極の課題であろう。この問題の解明に向けて、現存する最古の地質体の地質学や地球化学的研究をもとに、地球表層環境と生命の初期進化解読に取り組む。

本研究では、カナダ・ラブラドルとスプアギツック、グリーンランド・イシアに産する39～38億年前の最古の表成岩中の炭質物の炭素同位体値、硫化物の鉄・硫黄同位体値およびそれらのNi、Zn、Cu、Co等の生命必須微量元素濃度から、その初期生命が行っていた代謝を特定する。加えて、各地域の堆積岩の化学組成から当時の生命の生息環境を推定し、代謝と表層環境の関係を明らかにする。



単一神経細胞における視覚入力情報の統合・読み出し機構の解明

代表研究者 東京大学国際高等研究所

特任准教授 根東 寛

神経回路は、ニューロンという演算素子がシナプス結合により多数集合した機能的演算回路を構築しています。脳の情報処理の理解には、素子の種類や素子間の結合情報に加え個別の素子の演算様式を理解も重要と考えられます。1個のニューロンは多数のシナプス入力を受けていますが、この中から入力を選択的に統合し情報を読み出すメカニズムは依然として未知です。私は現在シナプスの2光子機能イメージングにより、単一ニューロンにおけるシナプス入力機能マップの解析とモデル計算から、演算様式の作業仮説を立てつつあります。本課題では、作業仮説を検証し単一ニューロンにおける視覚入力情報の統合と読み出し機構の更なる解明を目指します。



冬眠様の能動的な低体温状態を誘導する神経機構の解明

代表研究者 筑波大学医学医療系

教授 櫻井 武

以前マウスの前腹側脳室周囲核(AVPe)に局在するQrfp陽性神経(Qニューロン)を操作することにより、マウスを冬眠に似た状態(QIH)に誘導することに成功したが、化学遺伝学的に誘導したQIHはその復温に数日を要するためより時間分解能の高いシステムを開発する必要があった。OPN4の変異体(OPN4ΔC)によりQニューロンを光操作する系を開発した。OPN4ΔCはきわめて光感受性が高く、Chr2の1/1000程度の光強度で駆動することが可能であり、24時間にわたるQIH誘導が可能であり、照射をやめると30分以内で速やかに復温した。超高感度なため、光ファイバーを用いず、頭蓋に設置したLED光源による操作も可能であった。OPN4ΔCを用いたQIHが睡眠や体内時計、記憶などに及ぼす影響を明らかにしていく予定である。一方、Qニューロンに発現する分子の網羅的探索を進めている。

自然科学
21

C型レクチン様受容体を標的とした皮膚アレルギー制御法の基盤開発

代表研究者 筑波大学医学医療系

教授 渋谷 彰

アトピー性皮膚炎を自然発症することが知られているNC/Ngaマウスの原因遺伝子として、皮膚マクロファージに発現するC型レクチン受容体Clec10の遺伝子のNonsense変異を同定した。さらに、Clec10のヒト相同遺伝子としてASGR1を同定した。レクチンアレイ解析を用いて、Clec10a/ASGR1のリガンドとしてムチン蛋白を同定し、これをアトピーモデルに塗布すると皮膚炎が軽快することを明らかにした。本研究では、アトピー性皮膚炎に対する治療薬の開発を目的として、Clec10aのリガンドであるムチン蛋白を同定するとともに、そのヒトアトピーモデルでの作用機構を明らかにする。

自然科学
22

等方的キャリア輸送を実現するユニバーサル有機半導体材料の開発

代表研究者 分子科学研究所生命・錯体分子科学研究領域

准教授 瀬川 泰知

有機 π 共役化合物は、構造に由来した分子間相互作用や電子物性をもち、半導体材料や発光材料などへの応用が可能な化合物群である。有機半導体はさまざまなバックリング構造に起因した1次元や2次元電荷輸送能をもつが、用途に応じた高度な配向制御が必要になる。また鉛ペロブスカイト太陽電池においては、ペロブスカイト層から効率よくキャリアを運ぶための等方的電荷輸送層が求められている。本研究で開発する「3次元方向全てに共役構造をもつ化合物」は、等方的な電荷輸送を実現するユニバーサル半導体材料である。高い等方的電荷移動度を達成し、電子デバイス開発分野に革新をもたらす。

自然科学
23

乾燥ストレス応答での長距離シグナルを担うペプチドの分泌制御機構の解明

代表研究者 東京理科大学先進工学部

准教授 高橋 史憲

脳や神経を持たない植物では、土壌中と大気中という全く異なる環境から受けるストレス情報を、根と葉で常時モニターし、器官間で綿密に交換・共有することが、環境適応戦略において重要である。申請者は、乾燥ストレス時に根から葉に移動し、葉でのアブシジン酸 (ABA) 合成におけるキー酵素NCED3の発現を制御し、ABAの蓄積や乾燥耐性の獲得を制御するCLEペプチドを報告した。しかし、植物が乾燥ストレスを根で感受した後、CLEペプチドを道管へ分泌させるメカニズムは全く不明である。本研究では、CLEペプチドの分泌制御を解析し、長距離シグナルを使った根と葉での乾燥ストレス情報の伝達メカニズムを解明する。

自然科学
24

テラヘルツ電場駆動STMによる単一分子発光の検出と制御

代表研究者 横浜国立大学大学院工学研究院

教授 武田 淳

極限的な時空間で電子状態や帯電状態を制御し、物質の構造や機能を実空間・実時間で自在に操作することは、ナノ科学分野にとって最重要課題の1つである。近年開発されたテラヘルツ電場駆動走査トンネル顕微鏡 (THz-STM) は、ナノ空間で電子を操作できる新たなプラットフォームを提供するが、観測量はトンネル電流のみであり、得られる物性情報は限定的であった。本研究では、トンネル電流が誘起する微弱発光を検出する時間分解STM 発光分光法を開拓し、単一分子における発光ダイナミクスの検出とその精密制御を行う。これらを通して、微細かつ高速に電子を操作して物質の持つ諸物性を量子制御できるナノ計測技術を確立することに挑戦する。

自然科学研究助成概要(一般)

自然科学
25理想的な2次元面内トンネル現象の
理解と2次元層状トンネルトランジスタ
への展開

代表研究者 東京大学大学院工学系研究科

教授 長汐 晃輔

数年後には～400億個といった数に達すると指摘されるIoTデバイス普及に向け低消費電力デバイスが必須である。しかしながら、従来型Siトランジスタでは原理的境界のため消費電力低減は不可能であり、電子輸送機構の原理を変更する必要がある、トンネル現象を利用することが提案されている。申請者はこれまでに、原子レベルでの平坦性を有する2次元層状物質が理想的な電気的不活性界面を形成することを突き止めている。本申請では、この電氣的に不活性な2次元材料から構成される面内と面外のトンネル現象の違いを明らかにし、最適なデバイス構造を提案する。これにより電子デバイスの低消費電力化に貢献することを目的とする。

自然科学
26傷ついたリソソームを修復する
メカニズムとその生理学的意義
の解明

代表研究者 大阪大学大学院医学系研究科

准教授 中村 修平

傷ついたリソソームは細胞にとって有害となるが、細胞がこれにどう対処しているかよく分かっていない。最近、我々はリソソーム損傷時に、オートファジー・リソソーム生合成のマスター転写因子TFEBが活性化し、これが損傷リソソームの修復に必須であること、リソソーム損傷を伴う結晶性腎症の悪化を防ぐことを見出した。興味深いことに、TFEBの活性化にはオートファジーで必要な働きをするLC3タンパク質の非オートファジー機能が必要であることが分かったが、その詳細な制御機構は不明である。本研究ではLC3によるTFEB制御機構の解明を通して損傷リソソーム修復機構の全容とその生理学的意義を明らかにする。得られた知見はリソソーム損傷を伴う様々な疾患の治療への応用が期待できる。

自然科学
27進化上保存された3Dゲノム
構造形成メカニズムの解明

代表研究者 北海道大学遺伝子病制御研究所

教授 野間 健一

『3Dゲノム』はゲノム構造を研究対象とする生物学の一分野であるが、新しい学術分野であるため、重要な分子機構が未発見に留まっている。本研究は、これまで無関係と考えられてきた転写関連因子を介した3Dゲノム構造形成に関する分子機構の解明を目指す。加えて本研究では、申請者グループが開発したゲノミクス法を駆使して、分裂酵母とヒトの3Dゲノム構造の形成機構を理解することで、進化上保存された根幹となる分子機構の解明も目指す。

自然科学
28CMB偏光観測望遠鏡の高感度化
による原始重力波の世界最高感度
探索

代表研究者 高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所

研究機関講師 長谷川 雅也

宇宙のはじまりを説明するインフレーション宇宙仮説の検証は宇宙物理の最重要課題の一つであり、その決定的な予言である「時空の量子ゆらぎに起因する重力波(原始重力波)を検出すれば科学史に残る大発見となる。

本計画では、宇宙マイクロ波背景放射(CMB)偏光の精密観測を通して「原始重力波」の痕跡を探するという手法により、この実験的検証を行う。本計画代表者が中心となって開発し、チリ・アタカマ高地で稼働中のサイモンズアレイ実験において、画期的な検出器較正法を施して検出器の高感度化を実現し、主要なインフレーション理論により予言されている“発見が期待できる”レベルでの原始重力波探索を目指す。

自然科学
29

変異型Runx転写因子によるT細胞急性リンパ性白血病の発症メカニズムに基づいた新規治療戦略の創出

代表研究者 東海大学医学部

講師 細川 裕之

幹細胞から機能分化した細胞系列を作り出す分子機構の解明は、生命現象を理解するための根幹に位置する極めて重要な研究課題である。申請者らは、発現量の変化しないRUNX転写因子がT細胞の発生段階で異なる機能を発揮し、幹細胞からT細胞への系列決定、および機能分化を制御する可能性を明らかにしてきた。本研究では、T細胞をモデルとして、RUNX転写因子が時空間特異的に異なる遺伝子群の発現を制御し、様々な細胞の運命を同時にコントロールする分子メカニズムと、その異常により誘導されるT細胞急性リンパ性白血病の発症機序の解明を目指す。

自然科学
30

微量細胞定量プロテオミクスによる抗がん剤耐性分子基盤の解明

代表研究者 新潟大学大学院医歯学総合研究科

教授 松本 雅記

抗がん剤耐性獲得機構は、がん細胞が有する多様性や可塑性がその基盤となると考えられている。これらの細胞特性の理解のためには、少数細胞集団あるいは一細胞レベルでの分子フェノタイプングが有効な手法である。特に、生命機能素子であるタンパク質の計測が求められているが、少数細胞でのプロテオーム解析をハイスループットに行うことは未だ困難である。本研究では、研究代表者が開発したタンパク質精密絶対定量を可能とする技術基盤であるiMPAQT法を発展させ、少数細胞で迅速にタンパク質を計測可能なプラットフォームの構築を行い、これを用いてがん細胞の多様性や可塑性の分子実体の解明を目指す。

自然科学
31

液液相分離によるクモの糸の自己組織化の分子機構の解明

代表研究者 理化学研究所環境資源科学研究センター

研究員 Malay Ali

クモ糸は優れた力学物性を備えており、人工的クモ糸の開発が注目されている。しかし、クモ糸形成の分子機構が未解明であることが長年の課題であった。申請者はこれまで、液液相分離 (LLPS) に基づくクモ糸タンパク質の自己組織化を明らかにし、特定の化学刺激 (イオン種、pH) に応答して天然クモ糸と同様の階層構造を形成することを示してきた。本申請では、LLPSに関与する特定のタンパク質間相互作用を特定し、人工クモ糸の構造と力学物性の相関を明らかにすることで、クモ糸形成に関する分子機構の解明を目指す。本研究の成果は、天然のクモ糸の力学物性を備えた、環境に優しい新たな人工繊維の創出を可能とする。

自然科学
32

全身性炎症反応症候群による死からの解放

代表研究者 生理学研究所

特別協力研究員 丸山 健太

敗血症の死因は過剰な炎症にあると考えられている。しかし、炎症を標的とした治療は敗血症の死亡率を改善しないことから、これまでにない病態仮説の提唱が必要とされている。申請者らは、痛覚神経を欠損する無痛マウスが敗血症モデルに脆弱であることを見出した。敗血症発症後の無痛マウスの炎症性サイトカインレベルは野生型と同程度である一方、当該マウスは痙攣を伴いながら死亡することが判明した。これらの事実は、無痛マウスが脳の異常によって死亡していることを示唆する。そこで本研究では、痛覚神経がどのようにして敗血症に伴う脳機能の低下を抑制しているのかを明らかにすることで、これまでにない新しい敗血症救命法の開発を目指す。

自然科学研究助成概要(一般)

自然科学
33サブプレート層の機能に着目した
大脳新皮質構築原理の解明代表研究者 公益財団法人東京都医学総合研究所 神経科学研究分野脳神経回路形成
プロジェクト プロジェクトリーダー 丸山 千秋

大脳新皮質は6層構造内にニューロンが精緻に並んでいる。このニューロンの配置は、新生ニューロンが次々と脳表に向かって移動、定着することで完成する。この放射状神経細胞移動過程の不具合は、様々な精神疾患発症リスクと関連する。サブプレートニューロン(SpN)は大脳発生期において最初に誕生、成熟し生後大部分が消失するが、その神経活動がニューロンの移動モード変換のタイミングを制御することが明らかになった。また、ヒトではSpNの自発活動の異常が自閉症の発症と関連があるとの報告がある。しかしながらその機能については未解明の部分が多い。そこで本研究は、SpNの機能解析を通して脳構築の基本原理の理解を目指す。

自然科学
34社会性・群体性に共通する
「超個体」原理の解明代表研究者 東京大学大学院理学系研究科
教授 三浦 徹

社会性昆虫や群体動物では、個体が集合したコロニーがまるで1個体のように振る舞うため「超個体」と呼ばれる。これらの動物では、コロニーの中に異なる性質の個体が存在し、繁殖・摂食・防衛などの機能を分業している。超個体は動物界のいくつかの系統で独立に進化してきたと考えられるが、超個体の統合機構に共通性があるのかについては未解明である。代表研究者はシロアリのカースト分化に関する研究を蓄積し、また群体動物コケムシの飼育実験系も確立しており、この2者での個体分化と繁殖分業の生理発生機構に関するトランスクリプトーム解析と発生学的解析を推進し、相互に比較することで社会統合の原理を解明する。

自然科学
35大規模多細胞計測・操作に向けた
フレキシブル多点イメージング法の
開発代表研究者 北海道大学電子科学研究所
教授 三上 秀治

近年の蛍光顕微鏡技術の進展により、1細胞分解能でマクロな生体試料のダイナミクスを大規模に計測することが可能になった。しかし、現在の主流である、蛍光顕微鏡画像から所望の情報(細胞位置や神経細胞の活動など)を得る方法は、本質的にデータ取得効率が低いためにこれ以上の計測の大規模化が困難になりつつある。そこで本研究では、従来の枠組みから脱却し、目的に応じて撮像方法を柔軟に変化させるフレキシブル多点イメージング法を開発し、さらなる大規模計測への道を拓く。本技術はさらに、1細胞レベルで生体を制御する光操作への応用も可能であり、生命科学・医学の様々な場面での応用展開が期待される。

自然科学
36金属間化合物の電子化物と
水素吸蔵特性代表研究者 物質・材料研究機構国際ナノアーキテクトニクス
サブグループリーダー 溝口 拓

低炭素社会の実現に向けて、水素利用に適した材料の開発が要請されている。本研究では、金属間化合物を対象に、電子化物材料を計算と実験を組み合わせ探索し、その応用展開まで目指す。電子があたかもアニオンとして働く電子化物は、アニオン電子が特定の原子軌道に属さず結晶構造内の空隙に存在することに起因して、低仕事関数やユニークな金属性のバンド構造を発現する。アニオン電子は水素と置換しやすく、水素吸蔵も可能である。化学反応性(仕事関数)及び、結晶格子の硬さ(水素吸蔵特性)の調節により、物質探索を進める。これが成功すれば、電子供与がキーとなる化学反応(アンモニア合成など)の触媒への応用展開が期待できる。



メゾスケールトポロジカルソフト マテリアルの創出

代表研究者 千葉大学大学院工学研究院

教授 矢貝 史樹

メゾスケール（ナノとマイクロの間）で鎖のように屈強かつ柔軟な分子集合体材料を創製することができれば、ライフサイエンスからエレクトロニクスまで広い応用が可能な革新的機能材料となる。本研究では、研究代表者が最近開発に成功した自己組織化型ポリカテナン（鎖状のメゾスケール集合体）を光物性および構造の両面から機能強化し、メカニカルな伸縮によって光物性が変化する世界初のメゾマテリアルを創出する。ポリカテナンを形成するナノリングのサイズや光物性を分子設計により調節し、剛直さとしなやかさ、さらに光機能の自在制御が可能な次世代のトポロジカル光機能材料を開発する。



量子重ね合わせに基づく革新的 エキシトニックプロセスの開拓

代表研究者 九州大学稲盛フロンティア研究センター

教授 安田 琢磨

有機分子が示す「発光」は、現代の光科学技術に欠くことのできない物理現象であり、発光現象そのものの本質的理解とその高度制御は、学術・産業の両面において極めて重要である。有機分子からの発光は、光励起や電流励起により形成されるエキシトン（励起子）に起因している。本研究では、電子・正孔が再結合した過渡的（中間）状態としての準粒子であるエキシトンを光機能担体として深化させ、その高度制御に基づく新たな有機エキシトニクス技術の確立と革新的発光機能・デバイスの実現を目指す。従来概念とは一線を画す新しいエキシトン機構の原理実証とその制御・利用技術の開拓に挑戦し、発光材料の新パラダイムを創出する。



大腸腫瘍発生に関与する 腸内細菌の特定とその メカニズムの解明

代表研究者 大阪大学大学院医学系研究科

教授 谷内田 真一

本邦において大腸癌は急増し最も罹患者数の多いがん種となった。近年の急増からその発生には環境因子、特に食生活の欧米化やそれに伴う腸内環境の変動がリスクファクターとして重要視されている。代表研究者らは便を用いたメタゲノム解析の結果、大腸多段階発癌のごく初期に増加する腸内細菌を同定し、大腸腫瘍発症との関連性について報告してきた。前述の報告は単一コホートからのデータのため、本研究では別コホートでの検証試験を行う。また、これらの候補細菌を単離培養し無菌化したApcマウスに候補細菌を定着させ、腫瘍数や腫瘍進展、小腸・大腸粘膜の遺伝子発現やエピジェネティックな変動を検討し、大腸癌発症メカニズムの解明を行う。



堅牢な人工嗅覚センサ エレクトロニクスの創製

代表研究者 東京大学大学院工学系研究科

教授 柳田 剛

堅牢（頑強）な“物理”センサ（視覚・聴覚・触覚）に対して、“化学”的な分子の多次元情報（揮発性ガス等）を長期的・連続的に“電気”識別する分子センサエレクトロニクス（嗅覚）は未だ極めて限定的である。長期的に化学的な多次元分子情報（多成分）を、分子識別デバイスを介して時空間情報としてデータ蓄積できれば、その学術的・社会的なインパクトは計り知れない。本研究では、身の回りのフィジカル空間とサイバー空間との化学情報の架け橋となる“堅牢な集積化人工嗅覚センサ”を、①堅牢な分子識別機能を有する金属酸化物ナノワイヤ界面と②集積化ハイブリッド分子センサ構造により実現することを目的とする。

自然科学研究助成概要(一般)

自然科学
41レム睡眠中の記憶消去に関わる
分子メカニズム解明

代表研究者 名古屋大学環境医学研究所

教授 山中 章弘

睡眠中に記憶が固定・消去されていると考えられているが、どのように調節されているのかは神経科学的に未だに解明されていない。本研究では、申請者がレム睡眠調節と記憶消去の両方に重要であることを独自に同定した視床下部のメラニン凝集ホルモン(MCH)神経に対して、最新の光技術を駆使した活動操作と活動記録および、インビボゲノム編集技術による特定遺伝子の欠損を適用し、それらを用いてインビボ/インビトロ電気生理学実験、記憶を評価する行動実験を組み合わせることによって、レム睡眠時の記憶消去メカニズムを分子レベルにて詳細に解明することを試みる。

自然科学
42新規独自シングルセル解析技術
を用いた造血幹細胞の機能解析

代表研究者 京都大学高等研究院

特定拠点准教授 山本 玲

造血幹細胞は多分化能と自己複製能を持ち、あらゆる血液細胞を長期間にわたって産生することのできる幹細胞である。実際の臨床でも、白血病などの治療に造血幹細胞移植が用いられている。この造血幹細胞の多分化能と自己複製能の機構を解明することができれば、造血幹細胞の体外増幅や、造血幹細胞から赤血球や血小板などの血液細胞を誘導する事も可能となり、臨床的にも非常に有用である。

本研究は、造血幹細胞特異的に機能するエンハンサーに着目し、単一細胞レベルでそれらを同定する事で造血幹細胞の多分化能と自己複製能の機能を解明し、造血幹細胞の体外増幅や血液細胞の誘導のための基盤の構築を目指す。

自然科学
43芳香環ミセルを活用した
生体分子クラスターの創製

代表研究者 東京工業大学科学技術創成研究院化学生命科学研究所

教授 吉沢 道人

糖は自然界の至るところに存在し、私達の生活に必要不可欠である。単糖や二糖などはエネルギー源として、また、多糖は材料として活用されている。一方、数十個の糖からなる「糖クラスター」は、タンパク質表面と特異的に相互作用することから、注目されている。本研究では人工糖クラスターの開発を目指して、申請者が独自に開発したV型両親媒性分子に糖を導入し、その水中での自己組織化により形成する芳香環ミセルを基盤とした新規な人工糖クラスターを作製する。また、その発光性能と分子内包能を活用して、多色発光性の人工糖クラスターを作製する。さらに、タンパク質の高選択かつ高感度なセンシングシステムの開発に挑戦する。

自然科学
44

概日時計のリン酸化振動子モデル

代表研究者 公益財団法人東京都医学総合研究所体内時計プロジェクト

プロジェクトリーダー 吉種 光

約24時間周期の概日リズムは広い生物種において観察され、これを駆動する分子機構は概日時計と呼ばれる。その振動メカニズムとして時計遺伝子の転写翻訳を介したフィードバック制御の重要性が提唱されてきたが、我々はこの「転写フィードバック仮説」を覆す決定的な証拠を掴んだ。本研究では、転写リズムは機能出力として「時計の針」の役割を担っており、時計タンパク質の分子間相互作用・翻訳後修飾・酵素活性・立体構造変化などのタンパク質ダイナミクスが「概日時計クォーツ」として自律的に24時間周期で振動している、という仮説を検証する。特に時計タンパク質のリン酸化リズムが概日時計クォーツにおいて果たす役割を明らかにする。

自然科学
45

がん患者検体による Deorphanizationと治療法・ バイオマーカーの探索

代表研究者 国立がん研究センター研究所がんRNA研究ユニット
独立ユニット長(准教授相当) 吉見 昭秀

Gタンパク質共役型受容体（GPCR）はヒトゲノム中最大の膜タンパクファミリーであり、FDA承認薬の約30%はGPCRを標的としているが、今なお約100種類のGPCRはそのリガンドが同定されていないOrphan受容体である。本研究では、多種類のがん患者血液検体を用いることにより、Orphan受容体の新規リガンドの同定を試みる。そのために、我々のグループが新規に開発中のプラットフォームを用いたハイスループットスクリーニングを実施する。リガンドが同定された際には、がんにおける同受容体の役割を明らかにして抗体創薬を目指し、新たな視点からがん治療薬を創出することを目標とする。

自然科学
46

Cryo-EM, EDによる 創薬研究の加速

代表研究者 東北大学多元物質科学研究所
教授 米倉 功治

クライオEMの電子回折と単粒子解析を組み合わせて、前者で薬剤候補の低・中分子化合物の微小結晶構造を個々の原子の解像可能な高い分解能で取得、後者で薬剤候補物質とターゲットの蛋白質との複合体構造を明らかにする。電子回折では微量かつ極微小な結晶が使用でき、単粒子解析では生理的なイオン環境における構造が得られる。両者を相補的に用いることで極めて有用なハイスループット解析が期待できる。これまで開発、構築してきた自動測定・自動解析のシステムを応用し、種々の標的蛋白質とそれらに結合する低分子化合物を対象に、このアプローチの有効性を示したい。計算科学も駆使し医学、創薬に貢献する結果を迅速に得る。

自然科学研究助成概要(若手)

自然科学

1

遺伝子操作可能な新規プラナリア (*Macrostomum lignano*) を 用いた再生制御メカニズムの解明

代表研究者 基礎生物学研究所

特任助教 Wudarski Jakub

失ったり傷ついたりした組織を完全に元通りに修復する過程を再生という。本研究では、遺伝子組み換え技術が確立している新規の扁形動物プラナリアの一種 *Macrostomum lignano* を用い、再生過程で幹細胞がどのようにして様々な細胞種へと分化するのか、また、幹細胞の分化がどのように開始するのかを研究する。

具体的には、遺伝子組み換え *M. lignano* に赤外線レーザーを極狭い範囲に照射して少数の幹細胞を特異的に標識し、幹細胞と幹細胞から分化した前駆細胞の挙動を追跡する。

この研究によって、再生過程における幹細胞の分化制御の分子機構を明らかにし、幹細胞を制御する技術の確立を目指す。

自然科学

2

トポロジカルな磁気秩序構造を もつ磁性半導体の創成

代表研究者 東京工業大学理学院

准教授 打田 正輝

スキルミオンに代表される実空間におけるトポロジカルな磁気秩序構造と、その非共面スピン構造のスピンカイラリティが寄与する異常ホール効果の研究は、ますます盛んになっている。一方、これまでの研究は大量の伝導キャリアをもつ金属に限られており、半導体におけるトポロジカルな磁気秩序構造と、それと強く結合する少数のキャリアの伝導に着目した研究はなかった。本研究では、トポロジカルな磁気秩序構造を持つトポロジカル磁性半導体を新たに開発し、単純な強磁性・反強磁性秩序を超えた磁性半導体研究の新展開を目指す。

自然科学

3

革新的な透過イメージングを 可能にするミュオン加速技術 の実証

代表研究者 高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設

助教 大谷 将士

近年、破損原子炉内の燃料デブリのイメージングなどが宇宙線ミュオンにより行われ、この技術が注目されている。申請者は世界で初めてミュオンの高周波加速を実証し、宇宙の謎を紐解くカギとなる異常磁気能率精密測定にむけたミュオン加速器の実現に着手している。本研究では新技術であるサイクロトロン共鳴によるミュオン加速の原理実証を行う。これによって現行の全長40メートルのミュオン線型加速器が10分の1程度にまで小さくなって持ち運び可能な大型コンテナサイズで数GeV級のミュオンビームが実現し、宇宙線ミュオンによる透過イメージングを凌駕する高精度且つ短時間でのイメージング分野の開拓が可能となる。

自然科学

4

細胞内カルボキシル化は新たな シグナル伝達制御因子か？

代表研究者 北海道大学遺伝子病制御研究所

准教授 岡崎 朋彦

タンパク質のカルボキシル化 (Gla化) 修飾は、カルボキシラーゼGGCXによって触媒される翻訳後修飾である。タンパク質Gla化の基質は主に血液凝固や骨形成といった限られた文脈において機能する約20個の細胞外因子のみであり、Gla化が他の生命現象にどの程度関わっているのかはほとんど不明であった。申請者は、Gla化修飾される細胞内タンパク質として抗ウイルス応答因子IPS-1を見出し、そのGla化がウイルス感染防御に重要であることを見出した。本研究では、Gla化がタンパク質の機能を変換する分子機構の解明、細胞内Gla化タンパク質の網羅的同定と機能解析を行うことで、Gla化が新たなシグナル伝達制御因子である可能性を追求する。

自然科学

5

RNAの代謝に着目した新しい 生体恒常性制御機構の解明

代表研究者 東北大学加齢医学研究所

助教 小川 亜希子

RNAには多彩な化学修飾が存在し、高次生命を調節する重要な分子機構として注目される。申請者はRNA修飾の代謝という視点から、RNAが代謝された後も修飾を含んだまま体液中に豊富に存在し、その中でもN6-methyladenosine (m6A) が免疫細胞に多く発現する受容体を強力に活性化して、アレルギーやサイトカイン産生などの免疫応答を惹起する生理活性物質として作用することを同定した。しかしm6Aシグナルの終焉につながる経路は不明であるため、本研究ではm6A代謝経路の解明と、この経路がm6Aを介して免疫応答などの生理現象や疾患に関わるかを検証することで、新しいRNA修飾の生理機能の解明を目指す。

自然科学

6

メカノクロミック素材を用いた 水中稼働するナノカセンサの開発

代表研究者 東京大学生産技術研究所

講師 杉原 加織

メカノクロミックポリマーは、外部から力を加えることで色を変えたり発光したりする材料のことである。既存の装置では測定することのできないナノスケールの力を検知するセンサとして注目を集めている。本研究では、ポリジアセチレンというメカノクロミックポリマーがどの向きに、どの程度の力を加えることでどれだけ発光するのかという「力と発光の定量的ナノスケールでの相関」を、近年自身で開発した「ナノ摩擦力顕微鏡」を導入することで解明する。メカノクロミック素材を理解する上で核となる問いを明らかにすることで、分子レベルでの力を検知するセンサへの応用開発を前進させる意義がある。

自然科学

7

ビデオレート記録するマルチカラー 多重ホログラフィック蛍光顕微鏡 システムの開発

代表研究者 情報通信研究機構電磁波研究所

主任研究員 田原 樹

蛍光顕微鏡では通常、高速な機械駆動部を設けることで3次元情報を取得する。しかしながら、スキャンにより測定速度が律速される問題がある。さらに、異なる分子組成の相互作用の測定にはマルチカラー蛍光の同時測定が欠かせない。申請者は、機械走査不要で、自然な光のマルチカラー3次元情報を記録するホログラフィック干渉計を世界で初めて提案し、技術の実証に成功してきた。本研究では、本干渉計を用いてビデオレートでのマルチカラー動画像記録を達成し、これを多色染色された生体の動態などの3次元動的現象に適用することを目標に掲げる。そして、マルチカラー3次元動画像計測能力の高さを実証する。

自然科学

8

摂食に対する腸管免疫の応答に よる正常な代謝の維持機構の解明 と肥満抵抗性免疫細胞の作成

代表研究者 東京大学大学院医学系研究科

助教 戸田 郷太郎

正常な状態で免疫がいかに環境中の因子に反応し、正常な代謝を維持するかという点に関しては分かっていない点が多い。私たちはこれまで食後、腸内細菌叢由来LPSとインスリンがマクロファージでIL-10を誘導し、食後の肝糖新生を正常に抑制することを明らかにしてきた。腸管免疫組織では食事摂取により多様な遺伝子発現変化が誘導され、これらの免疫の正常反応が肥満したマウスでは障害されていることから、本研究は外界への免疫の正常反応と肥満での破綻メカニズムを解析することにより肥満に抵抗できるiPS細胞由来の免疫細胞を作成し、肥満の新たな治療方法を開発することを目標としている。

自然科学研究助成概要(若手)

自然科学

9

洪水耐性作物の創出に向けた
イネの茎における耐水性機構の
解明

代表研究者 名古屋大学生物機能開発利用研究センター

助教 永井 啓祐

近年の急激な気候変動によって多発する洪水環境下では、コムギなどの畑作物は根端まで効率的に酸素を輸送できないために生育不良を引き起こす。一方、コムギやトウモロコシとともに主要イネ科穀物のひとつであるイネは水田環境において栽培が可能である。このことはイネが耐水性能力を獲得したことで水田環境におけるニッチを獲得したことを示唆している。申請者はこれまでに、イネは茎に多腕細胞と呼ばれる特殊な細胞を形成することで細胞間隙を拡張し、水田においても葉から水中の根に酸素を輸送できることを発見した。本研究では、イネの多腕細胞の形成機構を解明することを目的とし、洪水耐性作物の創出に向けた分子基盤の構築を目指す。

自然科学

10

宿主ゲノム・病原体ゲノムの
統合解析から迫る肺非結核性
抗酸菌症の病態解明

代表研究者 慶應義塾大学医学部

専任講師 南宮 湖

代表研究者が構築してきた、臨床情報・宿主ゲノム情報を既に有する肺非結核性抗酸菌(NTM)症のコホートを拡大し、さらに研究期間中に解析する病原体ゲノム情報とも紐付け、NTM統合コホートを発展的に整備する。この統合的コホートから臨床分離菌ライブラリーを作成し、VNTR解析及び細菌GWASを実施する。これらの解析から得られた病原体ゲノム情報と既に研究者グループが有する宿主ゲノムとの相互作用解析を行い、統合ゲノム解析による重症化リスクスコアの算出を行う。

自然科学

11

狭バンドギャップと安定性を兼ね
備えた芳香族炭化水素の創出と
両極性有機半導体としての応用

代表研究者 名古屋大学大学院工学研究科

助教 福井 識人

構造的・電子的に新規な芳香族炭化水素の創出は機能性 π 共役分子の創製に重要である。とりわけ、狭いバンドギャップを有する芳香族炭化水素の創出は、電子の授受の両方に優れた電子材料の創製につながる。しかし、狭いバンドギャップを示す既存分子の多くは反応性が高く、これらを安定に取り扱うには嵩高い周辺置換基による保護を必要とする。そのため、高密度な集積が求められる電子材料としては本質的には適さない。本提案では、この“バンドギャップと安定性の両立”という挑戦的課題を、近年申請者が見出した『異種電子構造の調和』という視点を実現する分子設計指針の確立によって克服することを目指す。

自然科学

12

特定の犬種で高頻度に発生する遺伝性
疾患の原因遺伝子・多型の同定とゲノム
編集による遺伝子治療法の開発

代表研究者 岐阜大学応用生物科学部

助教 宮脇 慎吾

犬は最も古くに家畜化された動物であり、品種改良の結果として多くの犬種に系統化されている。それぞれの犬種には特有の遺伝性疾患があり、現在、約400の遺伝性疾患が報告されているが、多くの原因遺伝子は依然として不明である。遺伝子多型と疾患の因果関係を犬個体で証明することは技術的・倫理的に困難である。本研究では、近年、急速に発展しているCRISPR/Cas9を用いたゲノム編集技術を駆使することで、犬で実証不可能な「遺伝子・多型と疾患の因果関係」について、ゲノム編集マウスで疾患を再現し、in vivoで確定的な結論を出す。さらに、作製したマウスを疾患の再現マウスとして遺伝子治療法の開発に発展させる。

自然科学
13

ナノ電子プローブを用いた ドメイン境界の静電ポテンシャル 分布解析

代表研究者 東北大学多元物質科学研究所

助教 森川 大輔

界面や粒界では、バルクとは異なった物性を示す場合がある。近年のデバイスの小型化、また全く新しい物性発現の探索の上で、界面や粒界におけるドメイン壁の詳細な解析が求められている。本研究では、透過型電子顕微鏡に立脚した電子ナノプローブを用いた収束電子回折法により、ドメイン壁における電子密度および静電ポテンシャル分布解析手法を開発する。ビーム傾斜による広範囲な逆空間の情報を取得、解析することで、ドメイン境界の高精度解析を試みる。実験は界面誘起強誘電性を示す双晶界面や、強誘電ドメイン壁、電荷が溜まったドメイン壁に対して行い、世界初のドメイン境界における電子密度および静電ポテンシャル分布解析を目指す。

自然科学
14

深層言語モデルの転移学習を 用いた言語・音楽・動物音声の 類似度評価

代表研究者 大阪大学産業科学研究所

助教 森田 堯

動物の音声とヒトの言語の類似性・相似性は長く議論されてきた。しかし先行研究は言語の部分的特徴が動物音声にも見られるか否かの議論に終始し、「動物音声と言語の時系列パターンが包括的に見てどの程度似ているか」という問いについての定量的な検証はなされていない。本研究では動物音声と言語、さらに音楽との間の包括的類似度を、深層転移学習を用いて定量評価する。転移学習は主たるデータの学習に先立ち類似するデータで事前学習を行う機械学習手法であり、2つのデータ間に潜在する類似性を活用している。逆に転移学習の成績はデータ間の類似度を反映するため、本研究ではこれを用いて動物音声・言語・音楽間の類似度を評価する。

自然科学
15

血管壁の恒常性維持を担う、 メカノトランスダクション機構 の解明

代表研究者 筑波大学生存ダイナミクス研究センター
テニュアトラック

助教 山城 義人

我が国では、加齢に伴う高血圧、動脈硬化症、血管狭窄症、大動脈瘤といった血管病態の罹患者数が年々増加傾向にあるが、各疾患の分子病態に基づいた、効果的な治療法の開発には至っていないのが現状である。本研究では、血管病態発生に起因する根本原理を、細胞外マトリクスが担うメカニカルストレス応答制御の視点から明らかにし、新しい治療法開発の基盤を築く。そのため、メカニカルストレス応答を担う細胞外マトリクスThrombospondin-1を介した転写調節因子YAPの制御機構に着眼し、3つ（圧負荷、狭窄、動脈瘤）の血管障害マウスモデルを用いて病態形成の分子メカニズムを解析する。

第50回（2021年度）三菱財団人文科学研究助成先一覧

【大型連携研究助成】

該当なし

【一般助成】

番号	所在地	名称	使 途	金 額
1	東京都	慶應義塾大学経済学部 教授 赤林 英夫 <small>あかばやし ひでお</small>	新型コロナ危機は子どもの学習・学力・教員の働き方をどう変えたか：ICTと地域の役割に注目した実証研究	2,600,000円
2	愛知県	名城大学大学院都市情報学研究科 教授 稲葉 千晴 <small>いなば ちはる</small>	杉原千畝「命のヴィザ」の再評価：リトアニアのユダヤ難民と米ユダヤ機関の支援	1,700,000円
3	東京都	昭和女子大学人間文化学部 非常勤講師 遠藤 由紀子 <small>えんどう ゆきこ</small>	会津藩家老山川家の明治期以降の足跡に関する研究	1,600,000円
4	京都府	立命館大学衣笠総合研究機構 専門研究員 大橋 弘明 <small>おおはし ひろあき</small>	メルボルン都市圏における郊外開発に伴う空間変容と持続可能な都市圏形成のための政策・計画に関する研究	1,650,000円
5	大阪府	大阪市立大学大学院文学研究科 准教授 奥野 久美子 <small>おくの くみこ</small>	講談資料コレクションの調査研究とデジタル整備 — 講師・初代悟道軒圓玉日記の翻刻校注を出発点として —	3,000,000円
6	東京都	早稲田大学文学学術院 教授 柿沼 陽平 <small>かきぬま ようへい</small>	中国古代家計経済の数量史的研究	2,200,000円
7	長崎県	鎮西学院大学現代社会学部 教授 加藤 久雄 <small>かとう ひさお</small>	五島列島における潜伏キリシタン墓の新研究方法の確立	950,000円
8	東京都	立教大学経済学部 助教 菊池 美幸 <small>きくち みゆき</small>	炭鉱からみた日本の近代化 — 健康をめぐる企業と行政の役割 —	1,500,000円
9	京都府	京都薬科大学一般教育分野 講師 岸野 亮示 <small>きしの りょうじ</small>	空海の遺志を継ぐ学僧たち： 江戸時代の「根本説一切有部律」研究	1,850,000円
10	鹿児島県	天城町教育委員会社会教育課 学芸員 具志堅 亮 <small>ぐしけん りょう</small>	ウンブキ水中鍾乳洞遺跡における先史遺物散布プロセスの考古学調査	2,550,000円
11	大阪府	桃山学院大学法学部 教授 小島 和貴 <small>こじま かずたか</small>	長与専斎と内務省の衛生行政 — 大日本私立衛生会の活動を手がかりとして —	1,300,000円
12	沖縄県	琉球大学国際地域創造学部 教授 後藤 雅彦 <small>ごとう まさひこ</small>	先史東アジア交流史と琉球・台湾の文化的距離の再検証	3,300,000円
13	京都府	京都大学高等研究院 特定助教 澤井 努 <small>さわい つとむ</small>	ヒト脳オルガノイド研究に伴う倫理的課題の研究	1,500,000円
14	石川県	北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 教授 敷田 麻実 <small>しきだ あさみ</small>	感染症収束後の移動前提社会の変容と新たな移動スタイルの研究	2,650,000円
15	群馬県	群馬大学情報学部 教授 柴田 博仁 <small>しばた ひろひと</small>	デジタル教科書が児童の学習効果・学習態度に与える影響の調査	1,200,000円
16	東京都	和光大学現代人間学部 教授 末木 新 <small>すえき はじめ</small>	自殺予防のためのオンライン危機介入の効果の検討 — メール相談事例を対象に —	1,900,000円

番号	所在地	名称	使 途	金 額
17	東京都	早稲田大学国際学術院 教授 大門 毅 だいもん たけし	メコン河流域内「越境移民」の空間的相関と域内セーフティネット構想の研究：地理情報システム（GIS）の活用	2,600,000円
18	千葉県	千葉大学大学院園芸学研究院 准教授 竹内 智子 たけうち ともこ	都市の発展に伴う旧芝離宮恩賜庭園の視点場の変化に関する研究	1,150,000円
19	神奈川県	慶應義塾大学総合政策学部 准教授 鄭 浩瀾 てい こうらん	毛沢東時代の中国における革命と「親密圏」 －民間史料と口述史が語る恋愛、婚姻と子育て	4,750,000円
20	東京都	東京大学東京カレッジ ポストドクトラル・フェロー Telegina Maria てれぎな まりあ	日本語連想ネットワークと言語学習アプリケーション －日本語版スモール・ワールド・オブ・ワードSWOW-JP－	1,300,000円
21	福岡県	西南学院大学法学部 教授 奈須 祐治 なす ゆうじ	ヘイトスピーチの対抗利益としての尊厳概念の考察	550,000円
22	大阪府	大阪大学大学院文学研究科 准教授 伴瀬 明美 ばんせ あけみ	東北アジア非漢族諸王室儀礼における礼的〈逸脱〉の基礎的研究	3,700,000円
23	奈良県	奈良女子大学研究院人文科学系 教授 宮路 淳子 みやじ あつこ	弥生・古墳時代の動物飼養と人畜共通感染症の研究	1,800,000円
24	東京都	学習院大学法学部 准教授 三輪 洋文 みわ ひろふみ	政治的分極化がアジアにおける民主主義の後退に与える影響	2,050,000円
25	愛媛県	愛媛大学 アジア古代産業考古学研究センター 教授 村上 恭通 むらかみ やすゆき	弥生時代の日韓交流最前線・対馬における生活拠点の基礎的研究	3,550,000円
26	京都府	京都大学大学院経済学研究科 教授 山田 憲 やまだ けん	市場支配力と賃金格差	3,250,000円
27	東京都	早稲田大学文学学術院 教授 和田 琢磨 わだ たくま	織田本を中心とした西源院本系『太平記』本文の研究 －南北朝・室町時代初期の『太平記』像の究明のために－	1,450,000円
28	神奈川県	慶應義塾大学環境情報学部 教授 渡辺 靖 わたなべ やすし	米国のオルトライトのグローバル展開に関する民族誌的考察	1,100,000円
合 計			28件	58,700,000円 (注)

(注) 本年度は助成決定後のご辞退が1件1,300,000円ございました
(所属先・職名については2021年9月11日現在)

人文科学研究助成概要(一般)

人文科学

1

**新型コロナ危機は子どもの学習・学力・
教員の働き方をどう変えたか：ICTと
地域の役割に注目した実証研究**

代表研究者 慶應義塾大学経済学部

教授 赤林 英夫

新型コロナウイルスによるパンデミックは国際社会を大混乱に陥れた。中でも長期的な影響が懸念されるのが、学校閉鎖や学習活動の変化を通じた次世代への影響である。休校という危機的状況で、ICT活用の進まない学校は、学習の多くを家庭に依存し、学力等の差を顕在化させた可能性がある。

本研究は、学校ICT利用状況、地域社会の支援状況の差異、教員の働き方の地域差に関わる政府データを分析し、コロナ禍が学校・教員・子どもにもたらした影響を定量的に把握する。そのことを通じ、ICTと地域支援が子どもや学校に果たす役割を明らかにし、ポストコロナ時代の学校教育のあり方を国際標準にシフトさせるためのエビデンスを提供する。

人文科学

2

**杉原千畝「命のヴィザ」の再評価：
リトアニアのユダヤ難民と
米ユダヤ機関の支援**

代表研究者 名城大学大学院都市情報学研究科

教授 稲葉 千晴

1940年夏リトアニアのカウナスにおいて、日本領事の杉原千畝は外務省の命に反して日本通過ヴィザを発給し、数千人のユダヤ人難民をホロコーストから救ったと言われていました。ところが最近の研究では、杉原がスターリンの脅威から亡命を求めるユダヤ人難民にヴィザを発給したという事実が解明されました。欧米でもホロコーストからユダヤ人を救ったシンドラーなどが歴史研究によって検証され、再評価がすすんでいます。杉原に関しても、彼の人道的な行為を否定するのではなく史実を踏まえて再評価する必要に迫られています。本研究ではリトアニア側の視点と米ユダヤ機関の難民支援に焦点を当て、「命のヴィザ」の再評価を試みます。

人文科学

3

**会津藩家老山川家の明治期以降
の足跡に関する研究**

代表研究者 昭和女子大学人間文化学部

非常勤講師 遠藤 由紀子

幕末に会津藩家老であった山川家の明治期以降の足跡に関する調査である。山川家には二葉、浩、ミワ、操、健次郎、常盤、捨松の7人の兄弟姉妹がおり、各人が近代教育、女子教育、皇室に関係した。これまで個別に研究されてきた7人の関係性を各人の子孫より提供された史料、口述歴史、フィールドサーベイにより調査し、さらに7人の下の世代にまたがる相互関係を明らかにする。歴史に埋もれた人物の記録を後世に残し、戊辰戦争で敗北した人々の明治期以降の功績から近代日本の歴史像を新たに考え直す研究である。明治日本の精神史及びある名族の成り立ちを社会史的な意義を含めて明らかにすることで、実証的かつ啓発的な成果を期待する。

人文科学

4

**メルボルン都市圏における郊外開発に
伴う空間変容と持続可能な都市圏形成
のための政策・計画に関する研究**

代表研究者 立命館大学衣笠総合研究機構

専門研究員 大橋 弘明

本研究では、メルボルン都市圏における郊外開発や郊外核都市の形成に伴う都市圏の空間変容を分析し、郊外部の再活性化、持続可能性の確保、レジリエンス(回復力)の向上のための今後の政策・計画のあり方を考察する。国際都市研究分野では、国際比較による郊外論の展開がますます重要視されてきているなか、郊外変容の時空間軸を考慮しつつ、東京都多摩地域との比較も視野に入れる。特に、メルボルン都市圏でのスマートシティやデジタルトランスフォーメーションなどの都市開発・マネジメントの最新動向を踏まえつつ、持続可能な都市圏の形成のために、ウィズコロナ・ポストコロナ時代の政策・計画の立案・実施に資することを旨とする。

人文科学
5

講談資料コレクションの調査研究と
デジタル整備—講談師・初代悟道軒圓玉
日記の翻刻校注を出発点として—

代表研究者 大阪市立大学大学院文学研究科

准教授 奥野 久美子

講談・浪曲・落語などの大衆芸能資料は、近年、文学研究の素材としても認知されてきたが、かつては図書館に収蔵される類のものではなく、今も閲覧は個人コレクションに頼ることが多い。明治大正期の資料は劣化が進んでおり、その保全と研究利用に向けた整備は急務である。

本研究では、約3万点の芸能資料を有する吉沢英明氏のコレクションの基礎調査と、一部資料のデジタル化、および研究活用のための整備を目指す。そのうち講談師初代悟道軒圓玉の日記(未公開)に、校注・解題をつけ世に出すことで、研究活用に先鞭をつける。

本研究は大衆芸能研究の一大環境整備の端緒となり、また個人コレクションの整備のモデルケースともなりうる。

人文科学
6

中国古代家計経済の数量史的研究

代表研究者 早稲田大学文学学術院

教授 柿沼 陽平

本研究は、中国古代の民間家計関連史料を収集・整理し、数量的に分析するものである。近年、簡牘資料が急増し、そこに戸籍類や財産に関する記載が相当数含まれており、また農業史研究の進展に伴い、各地の田畑平均面積や、農作物の種類、農業生産力に関しても判明しつつある。だが個々の民の家計規模は依然不明なままである。そこで本研究では、民間家計規模関連史料を悉皆調査してデータベース化し、家計の実態を数量的に明らかにする。そのための基礎史料に『史記』平準書と『漢書』食貨志があり、すでに膨大な注釈がある。本年度はその全文入力と読解を進めている。

人文科学
7

五島列島における潜伏キリシタン墓
の新研究方法の確立

代表研究者 鎮西学院大学現代社会学部

教授 加藤 久雄

九州西北部における近世の禁教以降の潜伏キリシタン墓の実態は、各藩による徹底した規制や、甚だしい弾圧によって破壊を受けたり、もしくは文字通り潜伏化することによって不可視化されており、ほとんど明らかになっていないのが現状である。

われわれがフィールドとする五島列島は、禁教によって一旦キリスト教信仰者が表面上途絶えた後、江戸時代後期の公的移民の移入以降、列島各地に大量の潜伏キリシタンが多く集落を形成するに至った、いわゆる後期潜伏キリシタン墓の解明に絶好の地域である。本研究は他に類例のない潜伏キリシタン及びカクレキリシタンの葬制解明に資するものであり、墓地調査、特に墓標を伴わない墓地には必要とされる発掘を伴わない調査手法を確立するものである。

人文科学
8

炭鉱からみた日本の近代化
—健康をめぐる企業と行政の役割—

代表研究者 立教大学経済学部

助教 菊池 美幸

長らく、経済成長に伴い生じる人々の健康障害については、開発に対しての対価であると考えられてきた。しかし近年では、人々の健康状態が経済成長を大きく左右する要因の一つとして、捉え直されている。本研究では、今日のような労災補償や健康保険の仕組みが不十分であったとされる戦前日本を事例に、労働者の健康問題に対して、企業がいかなる役割を果たしたのか、解明することを目的としている。研究対象は、最も過酷な労働現場であり、同時に、政府の産業政策上極めて重要な役割を果たした、石炭産業を取り上げる。企業側に残された膨大な資料を読み解くことで、日本の工業化過程における労災補償の仕組みを解明することが期待される。

人文科学研究助成概要(一般)

人文科学
9

空海の遺志を継ぐ学僧たち： 江戸時代の「根本説一切有部律」 研究

代表研究者 京都薬科大学一般教育分野

講師 岸野 亮示

「根本説一切有部律」という仏教テキストは、インドからチベット文化圏・漢字文化圏の双方に伝わった唯一の戒律として学術的な注目度が高い。また日本では、宗祖空海が重視していたことに気づいた江戸期の真言僧たちが研究・活用することで、その後の仏教界に影響を与えている。本研究では「根本説一切有部律」の包括的な研究に向けて、江戸期の学僧たちが手がけた同律に関する諸テキストを、日本国内の図書館・寺院において調査し、書誌情報と概要を明らかにする。更には、その一つである『律攝』という版本に、当時の学僧たちによる詳細な注釈が書込まれている点に注目し、その解説を通じて彼らの同律に対する理解・伝承の一端を明らかにする。

人文科学
10

ウンブキ水中鍾乳洞遺跡における 先史遺物散布プロセスの考古学 調査

代表研究者 天城町教育委員会社会教育課

学芸員 具志堅 亮

鹿児島県徳之島のウンブキ水中鍾乳洞において、その入口から70m水中を進んだ、水深25mという潜水機材を使用しなければ到達できない場所から、7000年以上前のものと考えられる土器片が数多く発見された。この水中鍾乳洞内部に散布する土器群が、人類の生活跡がそのまま水没したことを指し示すものなのか、それとも外部から流入してきたものなのか、判然としない。そのため、水中鍾乳洞内部の写真測量を行い、内部の地形と遺物群の詳細な散布状況を把握する。これと併せて考古学研究者による水中鍾乳洞内部の潜水調査と、回収される遺物の考古学的・理化学的分析を行い、水中鍾乳洞内部に土器群が散布したプロセスの解明を試みる。

人文科学
11

長与専斎と内務省の衛生行政 —大日本私立衛生会の活動を 手がかりとして

代表研究者 桃山学院大学法学部

教授 小島 和貴

近代日本にあって感染症対策への政府の責任を求め、その具体化に取り組んだのが長与専斎初代内務省衛生局長である。しかし長与構想の実現に際し、いかなる人がいかなる立場から支持したのかについては十分な検証に付されていない。

感染症対策において長与が重視した行政サイドと住民サイドの協調(「官」と「民」の協調)を進めるべく立ち上げられた大日本私立衛生会の活動を手がかりとして、ここに集った面々がいかなる立場から長与の構想と向き合ったのかを解明することを予定する。

明治期の政策担当者による感染症予防への取り組みを「官」と「民」の協調から探ることで、「コロナ禍」など今日的な課題に対しても意義を有する。

人文科学
12

先史東アジア交流史と琉球・ 台湾の文化的距離の再検証

代表研究者 琉球大学国際地域創造学部

教授 後藤 雅彦

先史時代における琉球列島と台湾は地理的距離が近いが、出土資料からは明確に交流の実態が捉えきれず、文化的距離は近いとは言えない。

そこで、本研究では、東南中国沿海地域及び台湾先史文化の動向をおさえながら、海をめぐる交流が活発化する時代に着目し、台湾から北上する文化の動きを検証する。一方で、琉球列島南部の宮古諸島と八重山諸島を比較し、各時期の共通性と個別性を捉えることによって、東南中国・台湾から琉球列島への文化の広がりを検証する。

こうした東アジア海域という大きな枠組みと宮古・八重山間という地域的な枠組みという双方向の研究によって、琉球・台湾の文化的距離について、再整理を進める。

人文科学
13

ヒト脳オルガノイド研究に伴う倫理的課題の研究

代表研究者 京都大学高等研究院

特定助教 澤井 努

近年、ヒトiPS / ES細胞由来三次元神経組織（脳オルガノイド）の研究が急速に進展している。この研究はヒトの神経発生を体外で再現できることから、脳関連疾患のモデリングや再生医療への応用が期待されている。一方、将来的にヒト脳オルガノイドがさらに高度化した場合、それ自体が意識を持つのではないかという懸念や、ヒト脳オルガノイドを動物の脳へ移植した場合、その動物が高次の認知能力を持つのではないかという懸念が提起されている。このような懸念に応えるために本研究では、当該分野をリードする科学者から提供される科学的知見をもとに、ヒト脳オルガノイド研究に伴う倫理的・法的・社会的課題に関して多角的な検討を行う。

人文科学
14

感染症収束後の移動前提社会の変容と新たな移動スタイルの研究

代表研究者 北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科

教授 敷田 麻実

現代は日常生活でも多くの人々が遠距離を躊躇せず移動し、移動の自由が社会生活や産業活動の前提となっている「移動前提社会」である。観光や移住などの日常生活圏外への自由な移動は、経済活動の充実、生活の質や幸福度向上にも貢献してきた。しかし現在の法律や社会制度は「定住を前提」につくられており、移動前提社会の拡大との間に乖離が生じつつある。また、新型コロナウイルス感染拡大による移動制限は、社会生活や産業活動に大きな影響を与えた。

そこで本研究では、人の移動の拡大は社会の制度や組織をどう変化させ、またコミュニティの内外の社会関係がどのように変わるのかについて、国内外の事例研究と社会調査データから考察する。

人文科学
15

デジタル教科書が児童の学習効果・学習態度に与える影響の調査

代表研究者 群馬大学情報学部

教授 柴田 博仁

コロナ禍で全国の小中学校に1人1台のデジタル端末が配布された。デジタル端末の利用は子どもの学びに対する姿勢（取り組み方が主体的か受動的か）、問題解決のアプローチ（自分で考えるか、検索や答えの参照に飛びつくか）、そしてデザイン問題の思考プロセス（問題の本質を考えるか、表現の整形に凝るか）にどのような影響を与えるのだろうか。こうした問題に対して、本研究ではビデオデータの行動や発話を分析する認知心理学の実験手法を用いて解明に取り組む。紙の教材とデジタル教材の利点と欠点を明らかにし、状況に応じて両者を適切に使い分ける方法論を探索したい。また、デジタル端末は子どもの読解力を低下させることが懸念されるが、教育向けのデジタル端末の開発・改良の示唆も示したい。

人文科学
16

自殺予防のためのオンライン危機介入の効果の検討 —メール相談事例を対象に—

代表研究者 和光大学現代人間学部

教授 末木 新

新型コロナウイルス対策による生活変容の影響を受け、10年以上続いてきた年間自殺者数の下落トレンドは2020年に上昇に転じた。コロナ対策により対面での相談が難しくなり、オンライン相談の需要が急増しているものの、自殺予防を目的とした相談活動がオンラインで実施される場合、どのようなやり取りが自殺予防に寄与するのかということはこれまで検討されていない。そこで、本研究では、2013年より実施している自殺予防のためのオンライン危機介入活動（メール相談）を介して収集した相談ログおよびアセスメントデータを整理、分析することを通じて、自殺予防のための効果的なオンライン相談のあり方を明らかにする。

人文科学研究助成概要(一般)

人文科学
17メコン河流域内「越境移民」の空間的
相関と域内セーフティネット構想の研究：
地理情報システム(GIS)の活用

代表研究者 早稲田大学国際学術院

教授 大門 毅

中国雲南省を含むメコン河流域諸国間のインフラ整備により拡大した越境移民が、疫病・失業等の地域的に偏在するリスクの多寡に影響を受け居住パターンを形成することを地理情報として可視化し、空間情報を踏まえたセーフティネットを構築できないかを問うものである。越境移民データ(就労地、就労状況、疾病状況)を活用し進められる移民労働者のリスク因子の特定、コロナ禍を含む疫病の空間的拡散状況についての空間地理情報のデータベース化、リスク因子の空間相関を踏まえた越境移民決定の定式化、さらにセーフティネットに影響を与える諸因子の抽出は、関連領域内における社会的インフラの構築に向けた重要な役割を果たすことが期待される。

人文科学
18都市の発展に伴う旧芝離宮恩賜庭園
の視点場の変化に関する研究

代表研究者 千葉大学大学院園芸学研究院

准教授 竹内 智子

庭園を眺める視点場に着目した本研究は、江戸時代から現代までの視点場とそこから眺められる庭園風景の変遷を辿ることにより、都市の変化に対応した日本庭園の再生整備のための知見を得ることを目的とする。対象とする東京臨海部の旧芝離宮恩賜庭園は、潮位の変化を取り入れた潮入りの池をもつ江戸時代に作庭された池泉回遊式庭園である。その後の海浜の埋め立て、道路や駅舎の築造、超高層ビルや歩行者デッキの整備などにより、周辺環境は大きく変化してきた。

都市の発展に伴う周辺環境の大きな変化の中での日本庭園を新しい観点から捉える本研究は、都市と日本庭園の新しい関係を見据え、今後の都市のマネジメントに資することを目指している。

人文科学
19毛沢東時代の中国における革命と
「親密圏」－民間史料と口述史が
語る恋愛、婚姻と子育て

代表研究者 慶應義塾大学総合政策学部

准教授 鄭 浩瀾

毛沢東時代の中国は、建国初期の新民主主義革命、1950年代の社会主義革命およびその後の文化大革命を経験し、社会が大きく変容したと言われている。しかし、「親密圏」(民衆の私的な生活空間)における諸関係については、これまでの研究の中で十分に関心が払われてこなかった。本研究は、普通の人々の恋愛、婚姻と子育てに焦点を絞り、庶民の日記や手紙などの一次史料に基づいて、民衆の「親密圏」と政治との複雑な関係を解明することを試みる。毛沢東時代の中国における民衆の生の姿を浮き彫りにすることによって、これまで政党や指導者の活動を中心に語られてきた国家の歴史とは異なる人間の歴史を提示したい。

人文科学
20日本語連想ネットワークと言語学習
アプリケーション－日本語版スモール・
ワールド・オブ・ワードSWOW-JP－

代表研究者 東京大学東京カレッジ

ポストドクトラル・フェロー Telegina Maria

外国語の単語の意味と使い方が母語と同じかどうかを知ることは、外国語学習者にとって最も困難な課題の一つである。言語連想には、そうした知識のもとになる意味的・文化的・言語外の情報が含まれている。

本プロジェクトでは大規模日本語連想データベースを作成し、ネットワーク理論アプローチと英語との比較研究方法を採用した語彙学習ツールを開発し、その困難な課題の解決を目指す。

本研究の成果は、日本語における概念の構造と概念のつながりのモデル化に関わる研究の数多くのテーマをはじめ、自動翻訳・多文化比較研究などに資し、外国語教育・心理言語学・認知言語学・社会言語学・心理学・自然言語処理など多くの分野に貢献できる。

人文科学
21

ヘイトスピーチの対抗利益としての尊厳概念の考察

代表研究者 西南学院大学法学部

教授 奈須 祐治

J.Waldronは『ヘイトスピーチという危害』で、ヘイトスピーチの問題の核心は尊厳を害することだと説いた。ヘイトスピーチが社会の環境を汚染し、マイノリティの安心を脅かし、その社会的地位としての尊厳を侵すというのである。確かに、ヘイトスピーチの害悪を名誉感情等の個別の法益で説明することはできる。しかし、ヘイトスピーチの害悪を個別法益の単なる総和とみなすのは妥当でない。

本研究は、日本におけるヘイトスピーチ規制の理論的基盤を提供するべく、尊厳概念の法的意味の明確化を図る。具体的には、近年尊厳概念を多用する米連邦最高裁の判例を素材にし、この概念を自律と平等の観点から統合的に把握する可能性を探る。

人文科学
22

東北アジア非漢族諸王室儀礼における礼的〈逸脱〉の基礎的研究

代表研究者 大阪大学大学院文学研究科

准教授 伴瀬 明美

日本や朝鮮半島など東北アジア地域の諸王室は、いずれも漢族起源の中国礼制にもとづく王室制度を取り入れているが、その制度運営の実態は実に様々であった。とくに高麗や日本、あるいは北魏・金のような北方系狩猟民族を主体とする国家の王室におけるその多様性は著しく、中国礼制からみれば〈逸脱〉というべき側面を多分に含んでいる。

本研究は后位関連儀礼を中心に、そこに表れる礼的〈逸脱〉の具体的様相を「大金集礼」等礼典の解説という実証的かつ堅実な手法によって解明・分析し、さらに中国礼制受容からの〈逸脱〉－東アジアにおける多様性の許容－の歴史的・文化的背景の解明を試みるものである。

人文科学
23

弥生・古墳時代の動物飼養と人畜共通感染症の研究

代表研究者 奈良女子大学大学院人文科学系

教授 宮路 淳子

日本列島における弥生・古墳時代は、人々の通年定住が進むなかで動物飼養に本格的に取り組み始めた時期である。日本列島における人畜共通感染症の出現が、弥生・古墳時代に始まるブタ、ウシなどの動物飼養の開始と深く関わるのではないかという仮説を、動物考古学と分析化学の方法を用いて検証する。

弥生・古墳時代の集落遺跡から出土する動物遺存体の動物種、雌雄、年齢構成、死亡季節を分析することにより、当該期の集落における動物利用・飼養の詳細を明確にするとともに、出土資料に残存するタンパク質の質量分析を合わせて実施することにより、その内容を感染症との関連を含めて考察する。

人文科学
24

政治的分極化がアジアにおける民主主義の後退に与える影響

代表研究者 学習院大学法学部

准教授 三輪 洋文

現在、執行府首長または政権与党が民主主義的な原理原則や制度を攻撃することによる「民主主義の後退」が多くの国で問題となっており、その要因の一つが政治的分極化であるという主張がアメリカ政治研究を中心に唱えられている。同様の状況はフィリピンや日本などにおいてもみられるが、アジア諸国に関しては実証的な理解が進んでいない。そこで本研究では、既存の世論調査データの国際比較・時系列分析と、独自に日本、フィリピンおよび他一国で実施するオンラインサーベイ実験という2つの接近方法を用いて、そもそもアジア諸国で政治的分極化が起こっているのか、また、起こっているとすればそれは民主主義の後退とどう関係しているのか、という問題の解明を目指す。

人文科学研究助成概要(一般)

人文科学
25弥生時代の日韓交流最前線・
対馬における生活拠点の基礎的
研究

代表研究者 愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター

教授 村上 恭通

弥生時代、日韓交流の最前線にあった対馬の遺跡は、日韓交流の痕跡をどのように遺しているのか?これまで発掘された弥生時代併行期の対馬の遺跡は墳墓が多く、副葬品あるいは供献品に基づいた議論に終始しており、その回答は容易ではない。そこで本研究は、対馬の南を代表する豆敷・オテカタ遺跡、北の峰・瀬ノ際遺跡を発掘調査し、生活址における日韓の遺物の共存状況を明確にし、土器編年の併行関係、既発掘金属資料を含めた包括的調査による交流形態を探究する。また本研究には、韓国の考古学研究者・学生も参画し、近年稀なフィールド活動を共有する日韓共同プロジェクトとなり、日韓交流の考古学研究を次世代に伝える場でもある。

人文科学
26

市場支配力と賃金格差

代表研究者 京都大学大学院経済学研究科

教授 山田 憲

近年の実証研究の進展に伴い、米国の賃金格差が上昇する背景には、企業間で賃金格差が上昇していることがあることが明らかにされつつある。それとは独立に、米国では企業の市場支配力(独占力)も上昇する傾向にあることが指摘されている。理論的には、これら二つの事象の間に関係があることが予想されるが、どちらの事象もその原因と機序については明らかにされていないことが多い。本研究では、先進諸国にある企業の財務諸表の情報をを用いて、国別産業別に企業の市場支配力が企業間の賃金格差に及ぼす影響を検証する。さらに、先進諸国で開発された技術革新に着目し、企業の知的財産の情報をを用いて、企業の市場支配力が上昇した原因を探る。

人文科学
27織田本を中心とした西源院本系『太平記』
本文の研究—南北朝・室町時代初期の
『太平記』像の究明のために—

代表研究者 早稲田大学文学学術院

教授 和田 琢磨

西源院本『太平記』は「南北朝・室町期の太平記を代表するテキスト」(岩波文庫解説)だが、原本は昭和4年の火災で焼損してしまっている。そのために、罹災以前に東大史料編纂所が作成した「影写本」が利用されてきたが、「影写本」は原本の忠実な写しではないことが判明した。

それに対し、従来あまり注目されてこなかった前田尊経閣蔵織田本『太平記』は、西源院本系本文を復元する上で極めて重要な善本であることが判明した。そこで本研究では、織田本を中心に据えた、西源院本系本文復元のための基礎的な研究を行うことにした。この研究により、15世紀初期には存在していた『太平記』の信頼できる本文を獲得できると考えている。

人文科学
28米国のオルトライトのグローバル
展開に関する民族誌的考察

代表研究者 慶應義塾大学環境情報学部

教授 渡辺 靖

過去10年ほどの間に米社会では「オルトライト」(新極右)と称される白人ナショナリズムが台頭しているが、近年、彼らはヨーロッパやオセアニアにも活動範囲を広げ、各地の極右勢力との連携を深めている。とりわけ新型コロナウイルスの感染拡大によるオンライン上での活動が活発化している。本研究ではマルチサイテッド・エスノグラフィの手法を通して、米国のオルトライトの理念や手法がヨーロッパやオセアニアの白人ナショナリストにどのような影響を与え、かつ逆に、どのような影響を受けているかを調査分析する。白人ナショナリズムのグローバル化や過激化という現代世界が直面する課題に対する切り口として先駆的であり、また当事者と直接的な利害関係を有しない「日本人」研究者としての利点が活かせる研究テーマでもある。

第52回（2021年度）三菱財団社会福祉事業・研究助成先一覧

番号	所在地	名称	使 途	金 額
1	宮城県	東北大学大学院医学系研究科 助教 青山 真帆	がん患者遺族のうつ・複雑性悲嘆の予測 方法の開発：遺族コホート調査	1,350,000円
2	東京都	一般社団法人日本司法通訳士連合会 代表理事 天海 浪漫	日本における「法廷通訳の正確性」の検証 及び、「司法通訳士資格認定システム」の 普及	2,900,000円
3	東京都	東京都立松沢病院精神科医局 医員 荒川 育子	触法行為歴のある統合失調症患者の再犯 防止・社会復帰に資する帰属測定ツールの 開発、測定した帰属に病状が及ぼす影響の 統計解析	700,000円
4	滋賀県	日本学術振興会（特別研究員RPD） 研究員 飯田 奈美子	手話通訳における介入行為教育と通訳 ユーザー教育システムの構築	2,200,000円
5	千葉県	千葉大学予防医学センター 特任研究員 井手 一茂	ICTを活用した新たな地域づくりによる 介護予防モデル構築・社会実装と中・ 長期評価に関する開拓的調査研究	4,200,000円
6	神奈川県	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授 仰木 裕嗣	障害者による3Dモノづくりを通じた共生 社会におけるSTEAM教育実践	3,000,000円
7	京都府	京都大学大学院医学研究科 講師 大滝 千文	産科混合病棟の看護の可視化：看護行為の 自動計測の実現により可能となる病棟全体 の安全性の構築	1,600,000円
8	東京都	東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科 教授 緒方 泰子	看護職が医療を支え続けるために必要な 組織及び個人特性の解明と応用： 心理的安全性とレジリエンスの可能性	2,500,000円
9	兵庫県	兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究科 博士課程 岡部 友峻	強迫的性行動症に対する心理社会支援法の 確立に向けたアセスメントツールの開発と 実態調査	900,000円
10	千葉県	国立がん研究センター 先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野 分野長 小川 朝生	認知症の人の医療における意思決定支援の 実態把握と支援の質の向上を目指した 手引きの開発	2,500,000円
11	東京都	大妻女子大学人間関係学部 教授 小川 浩	発達障害及びグレーゾーン学生のための 低年次向けキャリア教育プログラムの開発 と実施	1,400,000円
12	兵庫県	神戸市立工業高等専門学校電子工学科 准教授 尾山 匡浩	生体信号によるサイレントスピーチ インタフェースの開発	2,800,000円
13	大阪府	大阪大学高等共創研究院 教授 蔭山 正子	精神障がいピアドボケイトのニーズに 基づく養成研修プログラムの作成	3,000,000円
14	東京都	東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科 教授 柏木 聖代	高齢看護師の継続雇用の実態と継続雇用 に関連する組織要因に関する実証研究	4,400,000円
15	東京都	上智大学総合人間科学部 准教授 鍋木 奈津子	コロナ禍における生活困窮者自立支援の 実態と今後の方策 ー全国調査と歴史的考察を踏まえてー	2,700,000円
16	長野県	信州大学医学部 特任助教 亀井 智泉	看護大学等医療人材育成機関を人工呼吸器 使用等の要電源要支援者の災害時避難所と する試み	1,500,000円
17	岡山県	岡山大学学術研究院自然科学学域 教授 岸本 昭	抗ウイルス性が持続するセラミックス点字 の実用的形成方法の開発	2,400,000円

番号	所在地	名称	使 途	金 額
18	熊本県	全国KOSEN支援機器開発ネットワーク 代表 <small>きよた きみやす</small> 清田 公保	重度障害者の自立就労を実現するための視線入力装置で操作するセルフ&リモートケアロボットの社会実証	3,600,000円
19	神奈川県	横浜市総合リハビリテーションセンター地域リハビリテーション部 主任 <small>こだま しんいち</small> 児玉 真一	小児用電動車椅子導入につなげるための試行用電動化装置の開発	3,000,000円
20	東京都	特定非営利活動法人ろう・難聴中高生の学習支援の会 理事長 <small>さいとう</small> 齊藤 みか	多分野連携によるろう青少年の文化教育・コミュニケーション教育と仲間づくり支援	1,700,000円
21	東京都	東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム 研究員 <small>さくらい りょうた</small> 桜井 良太	高齢者が転倒しやすい障害物とは？ ー形状および色相特性に着目した検討ー	2,400,000円
22	東京都	帝京短期大学こども教育学科 講師 <small>しらとり まみ</small> 白取 真実	保育士用アサーショントレーニングプログラムの開発と有効性の検証 ーオンライン研修システムを利用してー	1,250,000円
23	東京都	成蹊大学理工学部 教授 <small>すずき せいいち</small> 鈴木 誠一	VSLAM技術を活用した視覚障がい者のための移動時における危険回避支援システムの開発	3,200,000円
24	広島県	特定非営利活動法人非正規労働相談センターひろしま 代表理事 <small>つちや しんぞう</small> 土屋 信三	外国人労働者のエンパワーメントが築く多文化共生社会	2,000,000円
25	東京都	一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構研究部 研究員 <small>つちや るみこ</small> 土屋 瑠見子	職種横断的な住宅改修教育システムの構築に向けた医療・介護ビッグデータと住宅改修理由書の連結解析研究	2,900,000円
26	福岡県	日本赤十字九州国際看護大学看護学部 講師 <small>にしお みどり</small> 西尾 美登里	医学系大学生の演習時模擬患者に貢献する高齢者グループの構築 ー高齢者の健康と自尊感情の変化ー	2,500,000円
27	大阪府	NPO法人Reジョブ大阪 理事長 <small>にしむら のりこ</small> 西村 紀子	軽度高次脳機能障害者の就労における職種別こまりごと調査と、評価・情報提供ツールの作成	1,400,000円
28	大阪府	大阪大学大学院人間科学研究科 准教授 <small>のじり えいいち</small> 野尻 英一	アバターシステムを用いたオンラインコミュニティ(自閉症学超会議!)の構築	4,100,000円
29	東京都	社会福祉法人かがやき会 理事長 <small>はやし かずのり</small> 林 和功	地域で暮らす精神障害者の日常を長期的・継続的に支えるケアの技術の明確化	1,200,000円
30	神奈川県	関東学院大学看護学研究所 客員研究員 <small>ふかや やすこ</small> 深谷 安子	要介護高齢者のための生活世界コミュニケーションスケール	800,000円
31	東京都	慶應義塾大学文学部 准教授 <small>ふじさわ けいこ</small> 藤澤 啓子	保育環境評価スケールをもちいた保育の質向上プログラムの開発	3,300,000円
32	東京都	日本医科大学医学部 教授 <small>ふせ あきら</small> 布施 明	ブラックアウト等における在宅医療患者の緊急避難対応シミュレーション・システムの開発	8,000,000円
33	長崎県	長崎大学原爆後障害医療研究所 助教 <small>みしま ひろゆき</small> 三嶋 博之	先天性の障がいを持つ方々のためのごとばと身体運動の遠隔トレーニングとAI評価システムの開発	2,000,000円
34	長野県	長野大学社会福祉学部 准教授 <small>やの りょう</small> 矢野 亮	限界集落における社会福祉政策の実効性に関する研究ー長野県A村を中心に	800,000円

番号	所在地	名 称	使 途	金 額
35	東京都	成蹊大学理工学部 助教 <small>やまぞえ たかし</small> 山添 崇	ディスレクシアの識字学習における質感 認知の効果検証	1,400,000円
36	大阪府	大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究科 教授 <small>よこい かつし</small> 横井 賀津志	高齢者の生活行為に組み込んだ、遠隔実施 可能な転倒予防に着目した評価・介入法の 構築	1,500,000円
37	東京都	東京都健康長寿医療センター研究所 研究員 <small>わくい ともこ</small> 涌井 智子	認知症介護における睡眠障害の実態把握と ICT技術を用いたテーラーメイド支援 モデルの検討	2,900,000円
合 計			37件	90,000,000円

(所属先・職名については2021年9月11日現在)



1 **がん患者遺族のうつ・複雑性悲嘆の予測方法の開発：遺族コホート調査**

代表研究者 東北大学大学院医学系研究科

助教 青山 真帆

がん患者遺族のうつ・複雑性悲嘆などの精神・心理的健康は一般市民と比べて低く、自殺等の重大な健康リスクの要因とされている。しかし、現状では遺族の複雑性悲嘆のハイリスク者のスクリーニング方法が確立しておらず、早期発見および適時介入が困難なため、必要な対象に十分なケアが届いていないという課題がある。本研究は、死別前の医療データおよび死別後6か月における遺族への質問紙調査を行い、うつ・複雑性悲嘆の評価を行うとともに、死別前の情報から医療者が簡便にうつ・複雑性悲嘆を予測できるモデルを開発し、その精度を検証することを目的とする。それによって、ハイリスク遺族の同定と精神的サポートの向上が期待できる。



2 **日本における「法廷通訳の正確性」の検証及び、「司法通訳士資格認定システム」の普及**

団体名 一般社団法人日本司法通訳士連合会

代表理事 天海 浪漫

2019年4月の改正入管法の施行により、単純労働における外国人の就労が認められると、外国人就労の受け入れは拡大し、外国人が犯罪や紛争に巻き込まれる可能性は高まった。しかし、行政面や生活面、司法の場面における言語上のサポートは、いまだ不十分である。本事業は、【司法通訳士資格認定システム】の普及により、外国人への言語上のサポートや外国人の人権の確保だけでなく、司法通訳人の質と地位の向上を目的としている。

さらに、【司法通訳士資格認定システム】により認定された司法通訳人が、日本国内の裁判所での要通訳事件の裁判を傍聴することで、法廷通訳の現状を深く理解し、【法廷通訳の正確性】を検証することを目指す。



3 **触法行為歴のある統合失調症患者の再犯防止・社会復帰に資する帰属測定ツールの開発、測定した帰属に病状が及ぼす影響の統計解析**

代表研究者 東京都立松沢病院精神科医局

医員 荒川 育子

本研究は、国の施策である再犯（再被害）防止の推進や、触法行為歴のある精神科患者の社会復帰のために、①自らの触法行為に対する帰属を測定する日本語のツールを開発したのち、②測定した帰属に影響を及ぼす要因を同定しようとするものである。欧米の先行研究に準じたサンプル数、また統計解析に耐えるサンプル数の収集のため、研究フィールドを増やす必要がある。助成を獲得したことにより、研究フィールド調整に大きな前進が見込めることとなった。



4 **手話通訳における介入行為教育と通訳ユーザー教育システムの構築**

代表研究者 日本学術振興会（特別研究員 RPD）

研究員 飯田 奈美子

対人援助場面の手話通訳者は聴覚障害者の社会参加を使命としており、介入行為や聴覚障害者の権利擁護など幅広い役割を求められる。しかし、権利擁護と介入行為の区別は明確ではなく、その訓練はなされていない。そこで本研究では、手話通訳の実践に沿った「手話通訳介入基準」が実際の手話通訳場面でのように利用可能かを計る調査を行う。その結果を含めた「手話通訳介入基準」に沿った介入方法を全国の手話通訳者・ろうあ者相談員に周知するハンドブックを作成し、全国で介入行為の指導ができるスーパーバイザーやユーザー教育のカリキュラム制定、手話通訳ユーザーが介入方法について理解するための啓発動画を作成する。

社会福祉

5

ICTを活用した新たな地域づくりによる 介護予防モデル構築・社会実装と 中・長期評価に関する開拓的調査研究

代表研究者 千葉大学予防医学センター

特任研究員 井手 一茂

“With コロナ時代”の高齢者における新たな社会福祉事業である“ICT（Information and Communication Technology）を活用した開拓的な介護予防モデル”の構築・社会実装、中・長期効果評価を実施する。千葉県松戸市をフィールドに、大学、研究機関、中間支援組織（NPO）、市民パートナーなどが連携・協働したコレクティブ・インパクトを生かし、本調査研究を実施する。千葉県松戸市の地域団体におけるICT活用のニーズを聴取し、実装可能な介護予防モデルを構築し、ICTを活用した介護予防モデルを実装する。本助成終了後、他市町村に普及可能なモデルの構築を目指す。

社会福祉

6

障害者による3Dモノづくり を通じた共生社会における STEAM教育実践

代表研究者 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科

教授 仰木 裕嗣

本研究では障害者自らが3Dプリンターを使った造形物の製作ノウハウを学び、その学びの経験を小学生・中学生を中心とした子ども達のモノづくり教育指導者へと展開することを目指している。活動の発端はパラ陸上選手に提供してきた3Dプリンター製のグローブであるが、スポーツ用途だけでなく障害者・高齢者向けの自助具の製作などを通して個別のニーズにあったテーラーメイドのモノづくりを学ぶ。初年度の主たる実践内容は、活動拠点である北九州市における障害者を対象にした3Dモノづくりワークショップの開催である。オンライン・オンサイトにおいて3D造形アプリケーションを用いたワークショップを開催し、随時参加者をリクルートする。

社会福祉

7

産科混合病棟の看護の可視化： 看護行為の自動計測の実現により 可能となる病棟全体の安全性の構築

代表研究者 京都大学大学院医学研究科

講師 大滝 千文

日本の病院の分娩の約80%が産科混合病棟で行われており、助産師は分娩が進んでいる産婦と同時に、産科以外の重症患者や認知症患者の看護も行っている。産科混合病棟の看護を明らかにする必要があるが、業務による制約や患者のプライバシー保護のため病棟での看護行為計測方法に制限がある。そのため、看護学と工学の専門家の協働により、看護の基礎的データを計測し産科混合病棟の看護を可視化しようとしている。具体的には、ビーコンとスマートフォンによる看護師・助産師の滞在場所と滞在時間計測、近接センサによる看護師の行動計測、ヒトによる自己タップ法で看護行為回数計測、1対1タイムスタディ法で看護行為計測を組み合わせる。

社会福祉

8

看護職が医療を支え続けるために必要な 組織及び個人特性の解明と応用： 心理的安全性とレジリエンスの可能性

代表研究者 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究所

教授 緒方 泰子

COVID-19感染拡大により医療現場が逼迫し続ける中、看護職が、燃え尽きや社会からの差別・偏見等を乗り越え、就業を継続できるような条件整備が課題である。本研究では、病院で働く看護職を対象とする調査により、COVID-19患者受け入れ病棟や感染管理部署担当者等が直面した課題や、看護職を職場にとどめる組織特性（心理的安全性を含む）と個人特性（レジリエンスを含む）等を明らかにする。得られた知見により、地域の医療を担い続けられる組織の実現や看護職者の育成に寄与できることが期待される。



**9 強迫的性行動症に対する心理社会
支援法の確立に向けたアセスメント
ツールの開発と実態調査**

代表研究者 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科
博士課程 岡部 友峻

これまで心理・社会的支援の対象とな
ってこなかった、性依存という疾病は、近年、
WHOによる精神疾患の分類基準が改訂され
たことにより、強迫的性行動症として正式な
障害に認定された。これにより、「やめるこ
とのできない」性依存への治療法や支援体制
が開発されていくことが期待される。しかし
ながら、我が国においては性依存をタブー視
する傾向が強く、支援の検討は始まったばかり
である。本研究では、強迫的性行動症のア
セスメントツールの開発および我が国の実態
調査を行う。本研究は、基礎的情報を収集す
ることが目的ではあるものの、今後の支援法
の確立に向けての一歩となることが期待され
る。



**10 認知症の人の医療における意思
決定支援の実態把握と支援の質
の向上を目指した手引きの開発**

代表研究者 国立がん研究センター先端医療開発センター
精神腫瘍学開発分野 分野長 小川 朝生

わが国の治療選択の場面において、認知症
の人にどの程度倫理的な配慮がなされた意思
決定支援が提供されているかを、1. 支援者
(医療者、家族)を対象とした横断調査と、2.
実際の診療場面の記録を用いた構造化された
調査を通して実態と課題を把握し、3. 認知症
者の意向・選好に沿った医療・ケアを提供す
る意思決定支援を実践するためのガイドを作
成し、公開する。

対象疾患の特性ゆえ目的達成は容易ではな
いが、老年精神医学、行動科学、法律家、医
療倫理の複数領域にまたがる専門家が協働し、
立案・実施することで認知症になっても希望
をもって過ごせる社会の実現を目指したい。



**11 発達障害及びグレーゾーン学生の
ための低年次向けキャリア教育
プログラムの開発と実施**

代表研究者 大妻女子大学人間関係学部
教授 小川 浩

発達障害のある学生の職業的予後は厳しく、
障害を開示しない場合の定着率は33.3%である。
これらには、自己理解の不足、働くことへの理
解の不足が想定される。これらはキャリア教育
の一環として対応すべき問題だが、大学が単独
で取り組みことは難しい。

本研究では、大学、医療機関、就労支援機関
の連携により、発達障害のある学生やグレー
ゾーンの学生が低学年から受講できるキャリ
ア教育プログラム及び評価ツールの開発を行う。
また、開発だけでなく、受講の仕組み作りと普
及、事例の質的研究による効果検証も実施する。

本研究によって、発達障害のある学生の大学
から職業生活への移行支援及び定着率の改善に
資することが期待できる。



**12 生体信号によるサイレント
スピーチインタフェースの開発**

代表研究者 神戸市立工業高等専門学校電子工学科
准教授 尾山 匡浩

四肢不随者や筋萎縮性側索硬化症 (ALS)
患者など意思伝達が困難な人のために、残存
する機能を利用して意思を伝えるためのイン
タフェース機器の研究開発が行われてきてい
る。その種類は多岐に渡るが、各個人におい
ては残存機能が異なるため、その人に応じた
インタフェースが必要であると言える。

本研究では、その1つとして、前頸部に配
置した電極で計測された筋活動電位 (EMG)
から、AIの手法を用いて黙声単語の推定を
可能とするサイレントスピーチインタフェー
スの実現を目指している。本事業期間におい
ては、推定可能な単語数の増加と検証実験、
応用デバイスの開発、個人差や再現性の問題
の低減方法について検討する。



精神障がいピアアドボケイトのニーズに基づく養成研修プログラムの作成

代表研究者 大阪大学高等共創研究院

教授 蔭山 正子

精神疾患罹患者が増加し、対策は急務である。安心した医療や生活を確保するためには権利擁護活動が重要であるが、全国的にみても活動は限定的である。2020年に設立された神奈川精神医療人権センターは精神障がい者が中心となって活動していることに新規性がある。本研究は、自ら精神障がい者でありながら権利擁護活動を行う「ピアアドボケイト」に着目する。具体的には、権利擁護のニーズを把握するためにインタビューや調査を行い、その結果に基づいたピアアドボケイト養成研修プログラムを作成することを目的とする。神奈川精神医療人権センターと連携して行うことで実践活動への普及が期待される。



高齢看護師の継続雇用の実態と継続雇用に関連する組織要因に関する実証研究

代表研究者 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科

教授 柏木 聖代

急速な少子高齢化と人口減少が進む日本において労働力人口の大幅減少は深刻な課題である。2030年には約48万人の看護師就業者が60歳となることが予測されており、日本は近い将来、構造的な看護師不足を引き起こす可能性がある。このことは高齢の看護師を労働力として維持する必要性を示唆している。

日本看護協会は71.8%の病院が勤務延長や再雇用等の継続雇用制度を導入している等という結果を示しているが、継続雇用されている高齢看護師数や年齢等の実態、雇用している施設や地域の特徴は明らかにされていない。本研究では全国規模の調査により、これらの実態を明らかにし、今後予測される看護師不足の解決の一助としたい。



コロナ禍における生活困窮者自立支援の実態と今後の方策—全国調査と歴史的考察を踏まえて—

代表研究者 上智大学総合人間科学部

准教授 鏑木 奈津子

コロナ禍において、生活に困窮する人が増加している。生活困窮者自立支援制度（以下、「本制度」）の相談窓口には、例年の3倍を上回る相談者が訪れ、現在も支援現場の混乱は続いている。本制度に関する現時点での先行研究の課題としては、①相談者の実態と支援内容の詳細が明らかになっていない、②本制度の「課題」に注目が集まり「成果」が明らかになっていない、③分析視点が限定されている点あげられる。これらの課題を踏まえ、本研究では、コロナ禍における支援現場の実態を多角的に調査し、「成果」を明らかにした上で、本制度に係る今後の課題を検証する。さらに、これらの結果を踏まえ、今後の研究や政策に意義のある知見を残す。



看護大学等医療人材育成機関を人工呼吸器使用等の要電源要支援者の災害時避難所とする試み

代表研究者 信州大学医学部

特任助教 亀井 智泉

在宅療育中の医療的ケア児・者が、災害発生時に避難できる場所をあらかじめ確保することは容易ではない。医療機器には電源が必要で、医療的ケアに必要な水や清潔な環境が欠かせないからである。看護職・介護職等、ケアに当たる人材を育成する教育機関ならばその条件に当てはまり、教職員も医療的ケア児・者に対して一定のレベルの理解を持つと思われる。当該地域の行政と当事者団体の協力を得て、実際にハザードマップをもとに災害時個別支援計画を立てる中で、医療・介護の人材育成機関での一次避難の可能性と、そのために必要な条件を明らかにし、可能であれば避難訓練を実施して、当事者と家族の主体的な災害対策に結び付けたい。



抗ウイルス性が持続するセラミックス点字の実用的形成方法の開発

代表研究者 岡山大学学術研究院自然科学学域

教授 岸本 昭

耐摩耗性を有し、抗菌・抗ウイルス特性を付与したセラミックス点字を作製するための、実用的な方法を開発する。代表研究者らは、超塑性を利用し、発泡剤のガス圧により膨らませることにより、完全焼結体を多孔化することに成功した(超塑性発泡法)。この閉気孔を表面付近に形成すると気孔の拡張に伴い表面は隆起し、表面凸部パターンが形成できる。これは金属やプラスチックでしか実現していない、セラミックスのエンボス加工とみなすことができる。実用的な圧縮強度を持ち、明瞭なコントラストを持つ隆起パターンを得ることが本研究の課題である。さらに、抗ウイルス特性を有するセラミックスでの表面凸部パターン形成を試みる。



重度障害者の自立就労を実現するための視線入力装置で操作するセルフ&リモートケアロボットの社会実証

団体名 全国 KOSEN 支援機器開発ネットワーク

代表 清田 公保

本研究は、重度の肢体不自由を対象に、視線入力による操作でロボットアーム等をコントロールすることで家庭内支援者の介護負担を軽減するセルフ&リモートケアロボットの開発を行う。ロボットアーム搭載の移動ロボットを視線入力装置経由で操作し、当事者自身がセルフケアを可能にすることで家族内支援者の負担を低減させる。ロボットアームの空間認識機能は普段の見守りにも活用でき、リモートケアは当事者の QoL を向上させることが可能である。本取組により、家庭内支援者の負担と不安を低減することで医療・福祉リソースの有効活用に寄与することを目指す。



小児用電動車椅子導入につなげるための試行用電動化装置の開発

代表研究者 横浜市総合リハビリテーションセンター
地域リハビリテーション部

主任 児玉 真一

本研究は、車椅子や座位保持装置、座位保持装置付き車椅子を使用している障害児に電動車椅子を導入するための試行用電動化装置を開発するものである。

四肢体幹の変形や機能障害に起因する異常筋緊張が亢進する脳性麻痺などの肢体不自由児は、車椅子や電動車椅子の操作を習得するために長期間の訓練を要することが多い。しかし訓練の段階で市販の電動車椅子を個々の身体に合わせることは、費用面で困難が伴う。肢体不自由児が既に所有し安定した座位が確保されている座位保持装置などに、容易に装着(乗車)可能な試行用電動化装置を利用し、安全な電動車椅子操作訓練を実施し「移動の自立」を早期に獲得するための手段を提供することを目指す。



多分野連携によるろう青少年の文化教育・コミュニケーション教育と仲間づくり支援

団体名 特定非営利活動法人ろう・難聴中高生の学習支援の会

理事長 斉藤 みか

本研究は、ろう青少年(盲ろう・弱視難聴等を含む)のコミュニケーション力を高め、教養と国際性を磨き、アクティブラーニングによる相互支援で国内外のネットワークをつくることを目的とする。具体的には、ろう当事者の研究者・実践家と、日本文学・アジア・社会福祉研究者、ソーシャルワーカー、塾講師等で構成されたチームによる教材作成・アクティブラーニングの機会提供・セミナー開催等を通して、ろう青少年の学力向上とアイデンティティ確立を目指す。ろう当事者の研究者・講師はろう青少年にとってロールモデルにもなり、ろう青少年がアイデンティティを確立し、同じ仲間とネットワークを作るモチベーションを高めることが期待できる。

社会福祉
21

高齢者が転倒しやすい障害物とは？
—形状および色相特性に着目した検討—

代表研究者 東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム 研究員 桜井 良太

本研究では、高齢者がつまずき、転倒しやすい障害物特性を明らかにすることを目的とする。この目的を果たすため、「形状・色相特性が高齢者の障害物回避を困難にさせている」という作業仮説のもと、高齢者がつまずきやすい「円型の配線カバー」を障害物モデルとして用い、その形状と色相パターンを操作した際の跨ぎ越し回避動作の違いを動作分析から明らかにする。本研究は環境が及ぼすヒト行動への影響と、その加齢変化についての理解を進め、高齢者の安全な生活行動を可能とするデザインの提案など、社会福祉分野への応用発展が期待できる。

社会福祉
22

保育士用アサーショントレーニング
プログラムの開発と有効性の検証
—オンライン研修システムを利用して—

代表研究者 帝京短期大学こども教育学科 講師 白取 真実

アサーティブなコミュニケーションの獲得は、メンタルヘルスの向上に繋がる効果が期待される。現在、保育士不足は深刻な状況にある。保育士の離職理由には「職場の人間関係」からくるストレスが挙げられており、ストレスを低減することが求められる。そこで本研究では、保育士用アサーショントレーニングプログラムを開発し、研修の効果を検証することを目的とした。保育士が自身のアサーティブな特性を知り、自他共に尊重するアサーティブな自己表現や考え方ができるようになることにより、職場内の人間関係をよりよく保つことを期待している。また、コロナ禍でも実施可能な、オンラインを使用した研修の効果測定を行う予定である。

社会福祉
23

VSLAM技術を活用した視覚障がい者のための移動時における危険回避支援システムの開発

代表研究者 成蹊大学理工学部 教授 鈴木 誠一

鉄道の駅における視覚障害者の転落事故は、件数こそ少ないものの視覚障害者の安全や社会参加を妨げる要因となっている。対策としてホームドアの設置や声掛けなどの努力がなされているが、事故件数はあまり減少していない。

これに対し、本研究では自律型のロボットが自分の位置認識をする際に使うVSLAM技術を応用し、カメラ画像と構内地図のマッチングにより高速で的確な危険回避のための情報を提供することを目指している。小型コンピュータとUSBカメラ・骨伝導イヤホンで構成されたウェアラブル・システムで、ホームの縁や階段・改札などの位置情報を知らせることで、視覚障害者の安全性と利便性を向上できるものと考えている。

社会福祉
24

外国人労働者のエンパワーメント
が築く多文化共生社会

団体名 特定非営利活動法人非正規労働相談センターひろしま 代表理事 土屋 信三

本事業は「外国人労働者のエンパワーメントが築く多文化共生社会」と題し、近年急増する様々な資格を持つ外国人労働者のための相談会や支援、及び日本語教育をはじめ通訳者の育成を通じた相談支援体制の確立を目指す試みである。コロナ不況により、これまで以上に日本人と外国人の言葉の壁、制度の壁、心の壁が高くなり、外国人労働者は厳しい状況に陥っている。当団体はこれまで日系労働者、技能実習生など非正規労働者の相談を受け解決してきた実績を持つ。単なる支援体制に止まらず、外国人自らが自分たちの労働者としての権利意識に気づくことのできる双方向性の持続可能な相談支援体制の確立を目指して、活動を広げていく。



職種横断的な住宅改修教育システムの構築に向けた医療・介護ビッグデータと住宅改修理由書の連結解析研究

代表研究者 一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会
医療経済研究機構研究部 研究員 土屋 瑠見子

住環境は、介護が必要な高齢者を支える重要な要素である。しかし、介護保険制度の住宅改修サービスでは、介護支援専門員、作業療法士、建築士等の様々な職種が関わるため、質の標準化が大きな課題である。本研究では、東京都1市の協力を得て、医療・介護レセプトデータと住宅改修理由書を連結し、要支援・要介護高齢者に対する住宅改修の内容とアウトカムが、職種によってどのように異なるのかを検討する。そして、各専門職教育に携わる研究者へのインタビューにより課題整理を行う。これらの結果を統合し、最終的には、住宅改修サービスの質の標準化に資する職種横断的な住宅改修教育システムの構築に向けた専門職教育への提言を目指す。



医学系大学生の演習時模擬患者に貢献する高齢者グループの構築－高齢者の健康と自尊感情の変化－

代表研究者 日本赤十字九州国際看護大学看護学部
講師 西尾 美登里

当取り組みは

- 1) 医学系大学での模擬患者役を担える高齢者グループの構築
- 2) 学生へ学習・学修の示唆を与える役割を担う高齢者の健康と自尊感情の変化の研究

である。医学系大学生の演習・実習の場で、高齢者が模擬患者・療養者として活動し、健康と自尊感情の変化を研究し、社会的役割の獲得が持つ意味を明らかにする。

緊急事態宣言が解除となっても、医学系大学生の演習・実習の場は、依然としてCovid-19の影響を受け閉ざされている。すでに2021年9-10月に80名の研修・40名程度の実習で、高齢者が教育活動を行っている。感染対策にて、日々ディスプレイの物品を要している。御財団の助成に深く感謝する次第である。



軽度高次脳機能障害者の就労における職種別こまごとの調査と、評価・情報提供ツールの作成

団体名 NPO 法人 Re ジョブ大阪
理事長 西村 紀子

本研究では、医療と福祉のはざまにある軽度高次脳機能障害者を対象としている。この障害は、脳卒中・頭部外傷など脳損傷の後遺症の一つで、症状は、注意・記憶・遂行機能の低下などである。軽度であれば入院生活では問題が生じないが、就労の場に戻ると、業務遂行や人間関係において困難が生じる。彼らの中には、障害を診断されていない、適切なリハビリテーションや情報提供を受けていない人も少なくない。

軽度の人の就労における困難さについての研究は少なく、病院で診断や支援に活用できるツールもない。業種別に生じやすい問題点、背景にある症状を分析し、アセスメントに使えるツールを作成し、未診断、無支援の削減を目指したい。



アバターシステムを用いたオンラインコミュニティ（自閉症学超会議！）の構築

代表研究者 大阪大学大学院人間科学研究科
准教授 野尻 英一

本研究プロジェクトの理念は、「ニューロ・ダイバーシティ」の概念が普及し、自閉症をはじめとする発達障害についての理解と対応が広まり、当事者、関係者をはじめ誰もが生きやすく働きやすい日本社会が実現された世界である。そのための第一歩として、人文社会科学を含んだ諸学問分野の連携および企業や民間団体を包含したかたちで、「ニューロ・ダイバーシティ」の理念を共有し、社会実装を推進するコンソーシアムを構築する。具体的には、専門家、実践家、当事者とその関係者が障壁なく集うオンライン会議システム（アバターによるコミュニティ空間）を構築し、あらゆる人々が参画するなかで自閉症に対する新しい理解の枠組みを形成する。



地域で暮らす精神障害者の日常を長期的・継続的に支えるケアの技術の明確化

団体名 社会福祉法人かがやき会

理事長 林 和功

近年、精神障害者の地域生活への移行支援施策が推進され、当事者がライフステージにおける課題や危機に直面した時、当事者の変化を察知した介入や、見守りを含む“ゆるやかなかわり”と言える長期的・継続的な支援の重要性が増してきている。本研究では、長期にわたる支援者のかかわりを語らい（事例検討）の手法を用いてデータ収集して分析することにより、支援者の判断と介入の特徴及び“ゆるやかなかわり”との関連を明らかにする。当事者の主体的な地域生活構築に向けたケアの暗黙知・経験知を言語化し、生活を支えるケアの技術を次世代へ伝えることによって、精神障害者の地域生活支援を長期的に担う人材育成を目指す。



要介護高齢者のための生活世界コミュニケーションスケール

代表研究者 関東学院大学看護学研究所

客員研究員 深谷 安子

人生最後の日々を介護保険施設で過ごす要介護高齢者の発話時間は、1日に平均4分と著しく少ない。申請者は、高齢者施設の看護・介護者が主導するコミュニケーションはタスク指向が中心であり、日常会話である生活世界コミュニケーションが少ないためであることを明らかにしてきた。生活世界コミュニケーションの乏しさは、人である高齢者の生活の質だけでなく認知機能の低下にも影響する。本研究は、要介護高齢者の生活世界コミュニケーションを簡便に測定できる尺度の開発を目的として、生活世界コミュニケーションの概念の明確化による暫定尺度の作成、介護サービスの現場におけるアンケート調査、評価スケールの信頼性・妥当性を検証する。



保育環境評価スケールをもちいた保育の質向上プログラムの開発

代表研究者 慶應義塾大学文学部

准教授 藤澤 啓子

本研究では、「保育環境評価スケール」(Harms et al., 埋橋訳, 2016)をベースに、国際比較可能な尺度を利用する価値を維持しつつ、日本の保育指針や基準、保育現場に即した項目を選定する。選定された項目を利用し、研究協力自治体下にある認可保育所及び幼稚園の年長クラスを対象に、保育の質の多様な側面を客観的かつ定量的に評価する。そして、ランダムに選ばれた半数の園に対し詳細な結果をフィードバックする。一定期間を開けた後再度調査を実施し、フィードバック効果の検証を行う。



ブラックアウト等における在宅医療患者の緊急避難対応シミュレーション・システムの開発

代表研究者 日本医科大学医学部

教授 布施 明

地震、風水害、電力の需給ひっ迫、テロリズムによってもブラックアウト・大規模停電が発生するリスクを現代社会は抱えている。停電時に生命の危険に直ちに晒されるのが、人工呼吸器など要電源の在宅医療患者である。政府は避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針を示している。電源喪失によって在宅医療が行えなくなる際には緊急に個々の患者が適切に避難する必要があるが、地域を包括的にとらえて最適な避難を検討する手法はこれまでなかった。

本研究では在宅医療患者（要電源）をブラックアウト時に避難場所へ搬送するシミュレーションを作成して、避難行動計画策定に資する手法を提供し、地域の避難行動が最適化されることを目指す。



先天性の障がいを持つ方々のための ことばと身体運動の遠隔トレーニング とAI評価システムの開発

代表研究者 長崎大学原爆後障害医療研究所

助教 三嶋 博之

ダウン症候群をはじめとする先天性症候群を持つ方々には、適切な指導下でのことばと身体運動のリハビリテーションが必要である。しかし地方部、あるいはコロナ禍では都市部においてさえその環境は不十分である。われわれはこれまで長崎県内の対象者・家族・医師・指導者などの参加による「パタカラプラス」プロジェクトで、楽しめるトレーニング動画をYouTube上で公開してきた。本研究の目的は、このトレーニング成果に対するAI応用遠隔リハビリテーション評価法の開発である。本研究は今後の遠隔リハビリにおけるパイロットモデルとなりうるものであり、将来は汎用性を高めたさまざまな障害の遠隔リハビリへの応用を目指したい。



限界集落における社会福祉政策 の実効性に関する研究 —長野県A村を中心に

代表研究者 長野大学社会福祉学部

准教授 矢野 亮

全国の中山間地域においては、限界集落化への対応策が多くの自治体共通の課題となっている。

長野県A村は、2007年までの継続的な調査により、10年以内に全集落の65%が限界集落もしくは消滅集落となり、消滅自治体となる予想だったが、予想に反して限界集落化に歯止めがかかり、自治体として存続している。本研究では、A村が消滅しなかった要因を、行政と社協の社会福祉政策の展開やNPO法人の活性化、社会教育と児童福祉の連携、地域生活課題の把握と取り組み、仕事保障や雇用創出の取り組み等と仮説を立て、集落における保育・教育・保健医療福祉に関する社会資源供給システムの構築について明らかにすることを目的としている。



ディスレクシアの識字学習に おける質感認知の効果検証

代表研究者 成蹊大学理工学部

助教 山添 崇

本研究課題は、人間の質感認知メカニズムを活用して、難読症・読字障害とも呼ばれるディスレクシアの文字弁別をデジタルコンテンツ上でもサポートできる手法の確立を目指す。DXの促進によって、文字情報の重要性がより一層高まっている反面、ディスレクシアにとっては取り残されやすい状況に陥っており、デジタルコンテンツにおける識字支援が急務となっている。そこで本研究課題では、人間が直感的に違いを感じることでできる質感に着目し、文字情報であるフォントに定量的な質感を付与することで、文字の弁別を高め、デジタルコンテンツにおける識字支援に質感フォントを活用する方法を提案する。



高齢者の生活行為に組み込んだ、 遠隔実施可能な転倒予防に着目 した評価・介入法の構築

代表研究者 大阪府立大学大学院リハビリテーション学研究所

教授 横井 賀津志

高齢者の転倒は社会的問題であり、転倒予防には転倒リスク把握と運動介入が重要である。転倒リスク把握には、簡便に評価できる片脚立位時間が採用されることが多い。さらに転倒リスクの精度を高めるには、片脚立位姿勢指標も必要である。介入では、自宅で習慣化できる転倒予防プログラムの開発が急がれる。本研究では、片脚立位をコンピュータビジョンテクノロジーにより分析し、遠隔で転倒リスクを把握した上で、生活に組み込んだ転倒予防プログラムを開発する。オンライン上で片脚立位動画を送信することで、転倒リスクを判別し、最適介入を返信する新提案であり、在宅において安価で簡便に転倒予防を実現する遠隔システムである。



認知症介護における睡眠障害の 実態把握とICT技術を用いた テーラーメイド支援モデルの検討

代表研究者 東京都健康長寿医療センター研究所

研究員 涌井 智子

2000年に介護保険が導入された後も、在宅介護における家族の関わりは大きい。何らかの支援や介護を必要とする高齢者が660万人に上る中、これらの約6割が在宅で、同居または別居の家族に支えられており、家族介護形態も多様になっている。

本研究では、既存の在宅介護支援の問題点を踏まえた上で、①ウェアラブル端末を用いて在宅介護者の日常的介護生活を把握すること、また家族介護者にとって、介護に対する事前準備が可能となるよう②介護の段階に応じた情報マッピングによる支援方策を検討する。本研究では、介護状況と介護者の精神・身体的健康を、従来の横断的検討ではなく、介護生活を日常的に記録・解析し、介護者の日常生活を含めて包括的に支援する方策を検討することが可能である。

第3回（2021年度）三菱財団文化財保存修復事業助成先一覧

番号	所在地	名称	使 途	金 額
1	京都府	大覚寺 代表役員 伊勢 俊雄 <small>いせ しゅんゆう</small>	絹本着色 弘法大師像 1幅 保存修理	2,500,000円
2	東京都	町田市立博物館 館長 伊藤 嘉章 <small>いとう よしあき</small>	町田市立博物館所蔵ベトナム陶磁修復事業	1,020,000円
3	京都府	宗教法人普濟寺 代表役員 岡本 清教 <small>おかもと せいきょう</small>	普濟寺木造伝千種姫坐像保存修理事業	1,910,000円
4	大阪府	公益財団法人正木美術館 理事長 加納 武 <small>かのう たけし</small>	公益財団法人正木美術館所蔵「一休宗純と森女図」の修復事業	2,500,000円
5	京都府	大谷大学博物館 館長 國賀 由美子 <small>くにが ゆみこ</small>	三国祖師影修理事業	2,350,000円
6	愛媛県	大乘寺 代表役員 河野 宗般 <small>こうの そうはん</small>	大乘寺木造不動明王立像保存修復事業	1,550,000円
7	東京都	公益財団法人五島美術館 理事長 越村 敏昭 <small>こしむら としあき</small>	「本阿弥切 伝小野道風筆」修理事業	2,500,000円
8	岐阜県	宗教法人明圓寺 代表役員 廣瀬 真覚 <small>ひろせ まさと</small>	絹本着色聖徳太子六臣像保存修理事業	2,140,000円
9	佐賀県	医王山光浄寺 住職 代表役員 福山 正峰 <small>ふくやま まさたか</small>	光浄寺薬師三尊及び諸尊像修復事業	3,850,000円
10	和歌山県	宗教法人護国院 代表役員 前田 泰道 <small>まえだ たいどう</small>	絹本着色地藏菩薩立像修理事業	2,500,000円
11	熊本県	熊本大学附属図書館 附属図書館長 田中 朋弘 <small>たなか ともひろ</small>	熊本大学所蔵「熊本藩関係貴重資料群」の修復事業	2,180,000円
			合 計 11件	25,000,000円

(所属先・職名については2021年9月11日現在)

文化財保存修復事業助成概要

文化財

1

絹本着色 弘法大師像 1幅 保存修理

助成対象者 大覚寺

代表役員 伊勢 俊雄

本像は、線描・彩色の端正な出来ばえや丁寧な文様表現からも、いわゆる「互御影」原本の様式を忠実に維持するものと考えられ、鎌倉時代末期14世紀の作と推定される。現在の箱の蓋裏に「此軸愛宕山遍明院什寶之處明治三年年／神佛判然ニ付復飾依之當寺江納之畢」とあることから大覚寺の塔頭であった遍明院(現在は廃寺)より、神仏分離令の影響で明治3年(1870)に大覚寺に納められたことが判明している。

現状は、絵具層が経年による膠着力の低下により剥離剥落が生じている。修復後は、法会本尊としてお祀りするのみならず、展示や調査が可能となり、本作の価値が改めて広く知られ、美術史研究、古美術模写等の学術復興や地域創生につながることを期待する。

文化財

2

町田市立博物館所蔵 ベトナム陶磁修復事業

助成対象者 町田市立博物館

館長 伊藤 嘉章

当館所蔵の褐釉藍彩貼花龍文燭台は、17世紀にベトナム北部で制作された社寺奉納用の大型燭台であり、ベトナム施釉陶磁史では最後の興隆期を代表する作品である。東南アジア陶磁器のコレクションで知られる当館のシンボリック的存在だが、旧修復箇所を経年劣化により長らく展示や調査研究が難しい状態にある。ベトナム陶磁は二千年近くの歴史を持ちアジアの文化交流史において重要な存在であるが、20世紀を通じてこの地域で起きた戦乱の影響により本格的な研究が開始されてからは日が浅く、解明すべき多くの課題を残す分野である。ベトナム陶磁の一様式を代表しながらも類例は多くはない本作に保存修復を行うことで、今後の研究に貢献したい。

文化財

3

普濟寺木造伝千種姫坐像 保存修理事業

助成対象者 宗教法人普濟寺

代表役員 岡本 清教

本像は普濟寺仏殿に祀られている足利尊氏の妹千種姫と伝わる。普濟寺仏殿は南北朝時代の創建で、禅宗様式の建物として優秀で重要文化財に指定されている。千種姫は当寺開山夢窓国師の尼弟子、当寺の開基としてひたすら尊氏の武運長久を祈願していたと伝わる。

本像は膝上で禪定印を結び、両袖と裳を長く垂らした形式は一般の頂相彫刻に通じるが、その表情は若々しく、きりっとした意志的な表情が印象的である。造形的には破綻がなく優品であり、像主が女性として伝えられた頂相彫刻の数少ない例としても貴重である。

現状は全体に矧ぎ目が緩んで危険な状態にあり、彩色の剥落が進行していて早急に修理を施して適切に保存管理が必要である。

文化財

4

公益財団法人正木美術館所蔵 「一休宗純と森女図」の修復事業

助成対象者 公益財団法人正木美術館

理事長 加納 武

本作は、室町時代の禅僧一休宗純(1394～1481)と、彼が晩年に寵愛した盲目の森侍者を描いた頂相(禅僧の肖像画)である。一休は、世俗化した当時の禅院を厳しく批判し、自らは本来の禅を称揚してあえて奇行をなしたが、紹鷗や利休といった茶匠ら多くの文化人が彼のもとに参禅し、その人気は現代にも及んでいる。本作は一休の自賛を伴うことに加え、森を共に描いた唯一の作品として有名で、文化史的価値が極めて高い。

現状は作品全体の折損が甚だしく、特に彩色された箇所には絵具の剥落が散見される。本作を修理することで、仏教史・文化史などの広域にわたる学術研究にも大きく貢献できるものと考えられる。

文化財保存修復事業助成概要

文化財

5

三国祖師影修理事業

助成対象者 大谷大学博物館

館長 國賀 由美子

当本は数本伝わる「三国祖師影」の中で、奥書より久安6年(1150)に法務御房(寛信)本を底本に勸修寺で書写されたことがわかる現存最古写本である。また補紙にある富岡鉄斎の識語によれば、巻頭第一位の龍猛が欠失していたため鉄斎が承安3年本により補写したことが明らかである。

このように制作経緯も判明する史料的価値は極めて高いものながら、現状は虫喰などにより特に巻頭から数紙の損傷が著しく、経年劣化で糊の接着力も弱まり糊離れがみられ、巻末に向かうにつれ折れも顕著で、経年の汚れ、表装裂、見返の損傷など、展示公開や他館への貸与に厳しいものである。今回の修理はこれらの回復に加えて、料紙の切継の解明など、当本研究への寄与も期待される。

文化財

6

大乘寺木造不動明王立像 保存修復事業

助成対象者 大乘寺

代表役員 河野 宗般

大乘寺は臨済宗の寺院で、伊予吉田藩伊達家の菩提寺として知られている。その歴史は古く、当地(宇和島市吉田町立間地区)の中心的な寺院である。今回修復する木造不動明王立像は、地方に伝来した平安時代末に遡る不動明王像の優品として注目され、怒りの中にも品位を感じさせる作風は当時の中央で作られた不動明王像に通じる正統的なものであり、当初の彩色が残る点も貴重である。

現在、彩色の剥落が進行し、両肩部の継目が緩むなど早急に修理を施して適切に保存管理する必要がある。

なお、平成30年西日本豪雨により、当寺も大きな被害を受け現在も復興の途上である。本像の修復が西日本豪雨による被災地の文化復興のシンボルとなれば、さらにその意義は深まるだろう。

文化財

7

「本阿弥切 伝小野道風筆」 修理事業

助成対象者 公益財団法人五島美術館

理事長 越村 敏昭

本品は平安時代後期に制作した『古今和歌集』の断簡であり夙に知られた名物である。優れた書風を際立たせる本紙は、藍地に鳳凰唐草文を雲母刷りした中国渡来の唐紙を用いており料紙芸術の粋を呈する。表装も貴重な印金や刺繍裂等の古裂を厳選しており、本紙と相まって鑑賞芸術となった。本品の経年劣化は、本紙はもとより表装全体に及ぶため高度な修復技術を伴う早急な修理が必要となった。本品の修復事業は、文化財の保存に留まらず伝統的な鑑賞形式を後世へ引継ぐための熟練技術の継承と人材育成に大いに寄与するものである。さらに修復過程で得た古式技術や素材等の新知見は、書道史・鑑賞史に貢献する学術的資料となるであろう。

文化財

8

絹本着色聖徳太子六臣像 保存修理事業

助成対象者 宗教法人明圓寺

代表役員 廣瀬 真覚

本像は、聖徳太子が16歳のとき、御父・用明天皇の御病氣平癒を祈願された孝養の様を描いたものである。構図や作風、宗派などから制作年代は室町時代後期と推定され、堅実で精密な描線からは、高い技術を持った絵師によって描かれたことが窺える。

地域で大切に保管され、崇敬されてきた仏画であり、地域史や当地域における浄土真宗の広がり方、そして聖徳太子信仰の様相を考える上でも貴重な資料である。

経年による退色、剥落、カビやシミが多数見受けられるが、保存修理を行うことで文化財の適切な保存と学術振興、また、文化財愛護意識や郷土愛の高揚に寄与できるものと考えられる。

文化財

9

光浄寺薬師三尊及び諸尊像 修復事業

助成対象者 医王山光浄寺

住職 代表役員 福山 正峰

光浄寺は佐賀県みやき町に所在する臨済宗の禅寺で嘉暦2年（1327）の創建。当寺に伝来する薬師三尊像、二天像、十二神将像は創建時の造像と考えられる。精緻な盛土彩色や金属装飾品が当初のまま良好に残っており、14世紀の工芸的な作風をよく伝えている。また修理銘が残されており、中世九州の彫刻史を考えて行く上で有益な情報を得ることができる。

しかし、現在各像の損傷が著しいため、本尊の薬師如来像のみが本堂に安置され、他の像は別保管の状態にある。修理を施して適切に保存管理を行うとともに、研究も進展していくことが望まれる。

文化財

10

絹本着色地藏菩薩立像修理事業

助成対象者 宗教法人護国院

代表役員 前田 泰道

地藏菩薩は地獄からの救済者として強く意識されたが、南都においては春日三宮の本地仏としての地藏菩薩による救済説話が広まり、本図のような右手に錫杖、左手に宝珠を持つ来迎図が流布した。本図は端正な顔立ち、截金文様の種類や技術的な高さ、頭部より発する光条や乗雲など、鎌倉時代後期仏画の典型を示すが、類品中でも美作として評価されるものである。令和元年の紀三井寺創建1250年に合わせて実施した山内の悉皆調査により新たに発見されたものであるが、経年劣化が著しく、懸用に耐えないだけでなく、全体に無数の折損が生じ、彩色の剥落も散見されるが主要部分は良く残っており、美術的価値はなお高いことから、修理により本来の美しい姿を取り戻し、長く後世に伝えられることが期待される。

文化財

11

熊本大学所蔵 「熊本藩関係貴重資料群」の 修復事業

助成対象者 熊本大学附属図書館

附属図書館長 田中 朋弘

熊本大学所蔵「熊本藩関係貴重資料群」は、わが国でも傑出した近世歴史資料群である。その中核をなすひとつが松井家文書で、今回の事業により修復する近世文書である。

松井家は、江戸時代を通して肥後熊本藩の第一家老を務め、八代城を預かるとともに幕府からも領地を与えられ、幕府と自家の代替わりには、将軍お目見えが許される家柄でもあった。幕府や他藩との関係を示す文書も数多く存在し、近年は重要な新事実の発見が相次いでいる。全国的に注目されている資料群ではあるが、虫損・破損により状態が悪いものが多く、持続的な保存と博物館等において広く公開するために、修復事業を実施するものである。

新型コロナ関連特別助成（社会福祉分野）

<三菱財団 × 中央共同募金会 共同助成>

～新型コロナウイルス感染下において困窮する人々を支援する～

「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成（第2回）」

助成先一覧

番号	所在地	名称	使 途	金 額
1	岐阜県	特定非営利活動法人労働相談.com 理事長 本間 高道	居所を失った外国人技能実習生を保護するためのシェルター事業	3,000,000円
2	佐賀県	佐賀県外国にルーツを持つ生徒交流を支援する会 代表 松下 一世	外国にルーツを持つ子どものための支援事業「さがわーるどりんぐ」	740,000円
3	愛媛県	特定非営利活動法人Community Life 理事長 松本 光司	外国人のための土業（弁護士、社労士など）無料相談事業	650,000円
4	埼玉県	埼玉県指定・認定特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター 理事長 石井 ナナエ	コロナにより登校が1日おきになったが、自宅が狭く、家での居場所がない外国ルーツの子どもたちのための学習支援と医療機関等への低額同行通訳の実施	1,220,000円
5	兵庫県	NGO神戸外国人救援ネット 代表 飛田 雄一	緊急的な支援を必要とする外国人への総合的サポート事業	3,000,000円
6	滋賀県	ワールドアミーゴクラブ 代表 吉積 尚子	外国にルーツがある子どもたちのための日本語指導や教科学習の支援及び多様な文化交流活動を通しての居場所づくりと、彼らの家庭への多様な支援活動	500,000円
7	滋賀県	NPO法人コレジオ・サンタナ 代表理事 中田 ケンコ	withコロナ サンタナ学園存続のための活動	1,920,000円
8	埼玉県	一般社団法人ミナー 代表理事 櫻井 美香	海外にルーツをもつ子どもとその家庭の孤立防止のための支援事業	1,180,000円
9	兵庫県	特定非営利活動法人多文化センターまんまるあかし 理事長 久保 美和	東播磨地域及びその周辺在住・在勤の外国人が生活上必要な情報を得るためのセーフティネットの情報発信サイトの開設及び継続的情報発信事業	2,400,000円
10	兵庫県	社会福祉法人イエス団 賀川記念館 館長 馬場 一郎	外国にルーツをもつ子どもと大人のための学習支援「はいず」	1,620,000円
11	神奈川県	わたぼうし教室 共同代表 大元 麻美	難民の命と尊厳を守るための生活支援事業	3,000,000円
12	東京都	特定非営利活動法人国際活動市民中心 代表理事 大久保 和夫	在住外国人向け専門家相談及び地域支援者へのサポート事業	2,970,000円
13	東京都	NPO法人MAIKEN 理事長 三浦 左千夫	ラテンアメリカ系住民に対する無料の健康相談会を通じて、身体とこころの健康管理の必要性と、シャーガス病2次感染予防やCovid-19感染拡大防止などの公衆衛生知識の普及を図る事業	820,000円
14	埼玉県	青少年多文化学びサポート（ESMY） 代表 持丸 邦子	青少年多文化にほんご教室	510,000円

番号	所在地	名称	使 途	金 額
15	山口県	青年海外協力隊山口県OB会 会長 山尾 和宏	外国人家庭の地域で集える居場所づくり事業	1,000,000円
16	長野県	SOSネットワーク上伊那 代表 野口 正泰	新型コロナ感染拡大による雇用悪化に対応した物資支援事業	500,000円
17	大阪府	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪 代表理事 三木 秀夫	介護施設で働く外国人介護スタッフを支援するためのパイロット事業	1,290,000円
18	大阪府	特定非営利活動法人クロスベイス 代表理事 宋 悟	大阪市生野区における外国ルーツ青少年のための学習支援を軸とした包括的な支援事業	2,390,000円
19	京都府	公益財団法人京都YWCA 代表理事 上村 兪巳子	生活が困窮する移住女性の自立支援及びその子どもへの教育に関わる包括的な多言語支援	3,000,000円
20	福島県	公益財団法人福島県国際交流協会 理事長 小沢 喜仁	外国の子どもの学校生活適応のための支援事業	1,730,000円
21	愛知県	特定非営利活動法人にわたりの会 理事長 丹羽 典子	失業している外国人のための日本語習得支援事業	2,400,000円
22	東京都	公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会 会長 若林 恭英	コロナ禍での外国ルーツの子どもたちの孤立を防ぐ居場所づくり事業	2,620,000円
23	京都府	公益財団法人京都府国際センター 理事長 尾池 和夫	外国につながりをもつ子どものための居場所づくりとオンラインによる日本語・教科学習支援事業	1,100,000円
24	兵庫県	特定非営利活動法人 アジア女性自立プロジェクト 代表理事 奈良 雅美	地域に暮らす外国にルーツがある女性のための相談・情報発信事業	910,000円
25	兵庫県	三木市国際交流協会 会長 廣田 篤生	外国にルーツがある人々のための医療と日本語学習に関する支援事業	470,000円
26	神奈川県	ユッカの会 代表 中 和子	外国にルーツがある人々への支援活動応援助成	680,000円
27	東京都	特定非営利活動法人難民支援協会 代表理事 石川 えり	新型コロナウイルス感染下において、生活がさらに困窮している難民申請者のための生活支援事業	3,000,000円
28	京都府	特定非営利活動法人 京都丹波・丹後ネットワーク 理事長 牧 紀男	支援の質を高め、外国にルーツがある人が暮らしやすい地域にするための事業	1,640,000円
29	兵庫県	特定非営利活動法人 場とつながりの研究センター 理事長 長谷川 計二	散在する外国人ママの孤立防止のためのセーフティネット構築事業 「外国人ママのための地域日本語教室」	1,720,000円
30	東京都	特定非営利活動法人パルシック 代表理事 井上 禮子	葛飾区を中心とした在日外国人の相談支援事業	2,400,000円
31	東京都	特定非営利活動法人 ホームスタート・ジャパン 代表理事 森田 圭子	外国にルーツがある子育て家庭の孤立防止のための支援者養成事業	990,000円

番号	所在地	名称	使 途	金 額
32	茨城県	特定非営利活動法人 茨城NPOセンター commons 代表理事 横田 能洋	外国人コミュニティに閉じ込められている子どもたちの地域での支援の場づくり事業	3,000,000円
33	東京都	特定非営利活動法人 東京英語いのちの電話 (TELL) 理事長 ラングリー・ティモシイ・パトリック	新型コロナウイルス感染拡大下における困難を抱える国際コミュニティへの必要不可欠な支援 (精神的サポート及び情報源) を提供するための活動	3,000,000円
34	東京都	NPO法人 HATI JAPAN 多文化多言語の子ども発達支援 代表理事 東谷 知佐子	中野区鷺宮地域に外国ルーツの人や子ども、保護者のための「居場所」を作る事業	2,330,000円
35	神奈川県	はだの子ども支援プロジェクトゆう 代表 田口 香奈恵	神奈川県西部地域に暮らす外国ルーツの子どもとその家族のコロナ禍におけるニーズ把握ヒアリング調査及び行政担当部署へのヒアリング調査プロジェクト	710,000円
36	東京都	NPO法人地球市民交流会 理事 李 東一	外国にルーツのある世帯への相談と緊急対応及び労働支援による困難脱却の協力	1,840,000円
37	宮城県	フードバンク仙台 代表 小椋 亘	コロナの影響により生活困窮している外国人・留学生個人への無償食糧支援と生活相談支援と実態調査活動	2,000,000円
38	広島県	一般社団法人ええじゃん 理事長 栗林 克行	在住外国人とその家族に対する地域を基盤とした伴奏型総合的生活支援事業	2,080,000円
39	大阪府	Projeto Construir ARTEL 代表 田中 ルジア みや	外国にルーツを持っているこどもと家族の未来のための光事業	1,740,000円
40	京都府	外国人女性の会バルヨン 代表理事 ハッカライネン・ニーナ	外国人女性が生活困難や危機を乗り越える力や知識を身に着けるための事業	2,230,000円
41	神奈川県	ArtLabOva 代表 鈴木 敬之	海外につながるこどもと家族のための居場所と相談支援事業	1,520,000円
42	大阪府	特定非営利活動法人 若者国際支援協会 代表理事 小柴 享子	外国人住民のコミュニティ形成を行う外国人の地域ボランティア・リーダー人材を育成するため日本版「コミュニティ・チャンピオン」プログラムのモデル事業	1,480,000円
43	東京都	特定非営利活動法人 在日モンゴル人会 会長 ガンボルト バルジャンニヤム	日本在住モンゴル人のための生活情報提供および生活相談・食糧支援会の実施事業	2,750,000円
合 計 43件				76,050,000円

(所属先・職名については2021年11月29日現在)

注) 上記特別助成については、一件ごとの概要説明を省略致します。

助成総額の内訳は、当財団拠出分40百万円、中央共同募金会拠出分36,050千円です。

三菱財団のあらし



設立趣意書

三菱事業の発生は、1870年(明治3年)10月に遡る。この時、創立者岩崎弥太郎が、彼の郷里土佐において海運業の経営に着手した。三菱企業は、近代日本の曙と共に生まれ、爾来日本経済と運命を共にして、幾多の苦難を経ながらも今日に至った。

即ち、今やわが国は、全世界を瞠目させる高度成長を遂げ、本格的国際化時代を迎えて、さらに大きく雄飛せんとしているが、三菱グループもまた、今日の姿を土台として、さらに国民経済の発展のために前進しようとしている。

しかしながら、周知のごとく、このような急速な経済発展の陰において、避け難いひずみとも見られる社会資本の不足があり、また国民生活の向上が、必ずしも国民福祉の向上と共存、均衡していないという問題がある。

更には、精神文化の退潮、自然科学特に基礎科学部門における頭脳流出現象、次代を託すべき青少年教育、発展にとり残された社会階層の存在等々今後克服さるべき問題は少なくない。

これらの不均衡の是正こそ国の政策と相まって、社会的責任ある代表的企業にとっての重大なる責務であり、関心事であるといわねばならない。

三菱グループは、創業以来公益に奉ずることを以て経営の基本理念として来た。たまたま明年秋、創業百周年の記念日を迎えるにあたり、伝統の精神を生かした最も有意義な事業を以ていささか社会に報い、一層の国民経済発展に資するため、関係各社相集い、財団法人三菱財団を設立せんとするものである。

当財団は、わが国社会の学術、教育、文化ならびに福祉の向上に資することを目的として、さしあたっては学術研究の助成、社会福祉に関する事業の助成を主たる事業とし、当初250百万円を以て発足するが、将来はさらに時代に適合した事業をも加え、今後10年間にわたり相当額の寄附を重ねて事業規模ならびに財団基礎を拡大強化せんとするものである。

(設立 昭和44年9月11日)

The Mitsubishi Foundation

Purpose of the Establishment of the Foundation

The formation of the Mitsubishi Group of Enterprises goes back to October, 1870 (the 3rd year of Meiji), when their founder Yatarō Iwasaki started marine transportation business at his native province, Tosa. In other words, the Mitsubishi Group was born at the daybreak of the modern age in Japan. Since then it has shared its fate with Japanese economy overcoming various kinds of trials.

Our country, Japan, has recently made such an astonishingly rapid growth, as has been looked upon by other nations in open-eyed astonishment, and going to take another flying jump in a coming age of more highly internationalized society. The Mitsubishi Group wishes to participate in such future development of national economy, marching forward from the bases so far attained.

As is commonly known, however, only insufficient amount of money has been spent for the welfare of the society—a fact which may appear to be a dark spot hidden behind such a rapid development in economy. We should therefore raise the question of whether the enhancement of standard of living has been followed by the corresponding development in the welfare of the people.

We wish to point out further that there are quite a few problems to be solved, such as decline in moral civilization, so-called “brain effluence” in the field of natural sciences, especially of basic sciences, unsatisfactory conditions in the education of the youth to whom the coming age is to be entrusted, and existence of a large portion of the society left behind the progress of the society.

We believe that to help to correct this imbalance, hand in hand with the measures to be taken by our government, should be a pressing duty and a matter of grave concern of leading enterprises on which rests high social responsibility.

It has been the basic policy for the Mitsubishi Group to serve the public benefit since its foundation. In line with this tradition, the companies forming the Mitsubishi Group jointly decided to establish a foundation to commemorate the 100th anniversary of the birth of the Mitsubishi business in the fall of next year (i.e., 1970), in the hope of making greater contribution to society and to the further development of our national economy.

The said Foundation is aimed at giving assistance to the enhancement of scholarship, education, culture and welfare in our society. The Foundation will start with the initial fund of 250 million yen to be used mainly for giving assistance to academic research, and activities concerned with social welfare. It is expected that the companies belonging to the Mitsubishi Group will make further contribution toward the Foundation in a substantial amount in the ten years to come, and that the Foundation will thereby be able to expand its scope of activities.

(The Mitsubishi Foundation was established on September 11, 1969.)

助成実績推移

(単位：円)

事業年度	自然科学研究助成		人文科学研究助成		社会福祉事業研究助成		文化財保存修復事業助成		その他の諸事業助成		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
昭和45年度	14	99,156,000			8	45,300,000			7	8,547,000	29	153,003,000
46	16	99,103,400			7	48,036,000			21	12,811,028	44	159,950,428
47	14	100,140,000	4	23,100,000	6	50,165,600			24	11,493,100	48	184,898,700
48	14	109,700,000	5	19,950,000	7	50,000,000			26	12,772,675	52	192,422,675
49	21	200,000,000	5	30,000,000	13	100,000,000			26	15,000,000	65	345,000,000
50	14	110,000,000	4	25,000,000	9	50,000,000			28	15,000,000	55	200,000,000
51	12	110,000,000	6	25,000,000	7	50,000,000			26	15,000,000	51	200,000,000
52	15	110,000,000	8	25,000,000	10	50,000,000			22	13,460,000	55	198,460,000
53	14	110,000,000	6	25,000,000	6	50,000,000			12	10,327,900	38	195,327,900
54	21	200,000,000	7	35,000,000	14	100,000,000			10	8,300,000	52	343,300,000
55	13	110,000,000	7	25,000,000	7	50,000,000			13	14,475,000	40	199,475,000
56	16	150,000,000	11	35,000,000	11	70,000,000			6	5,500,000	44	260,500,000
57	17	150,000,000	11	35,000,000	9	70,000,000			7	6,620,000	44	261,620,000
58	17	150,000,000	12	35,000,000	10	70,000,000			9	9,330,000	48	264,330,000
59	19	150,000,000	14	35,000,000	10	70,000,000			16	14,770,000	59	269,770,000
60	16	150,000,000	13	35,000,000	11	70,000,000			11	12,785,000	51	267,785,000
61	20	150,000,000	15	34,604,000	10	70,000,000			7	7,700,000	52	262,304,000
62	23	170,000,000	15	34,990,000	10	70,000,000			5	2,500,000	53	277,490,000
63	23	170,000,000	16	40,000,000	8	70,000,000			5	4,300,000	52	284,300,000
平成元年度	30	220,000,000	23	45,000,000	12	80,000,000			4	3,000,000	69	348,000,000
2	29	250,000,000	30	50,000,000	11	80,000,000			2	3,000,000	72	383,000,000
3	31	271,000,000	25	55,000,000	11	85,000,000			4	5,000,000	71	416,000,000
4	34	300,000,000	28	55,000,000	12	85,000,000			5	5,200,000	79	445,200,000
5	35	300,000,000	16	55,000,000	11	85,000,000			5	3,500,000	67	443,500,000
6	37	300,000,000	12	55,000,000	12	85,000,000					61	440,000,000
7	37	300,000,000	11	55,000,000	11	85,000,000			4	3,400,000	63	443,400,000
8	35	300,000,000	12	55,000,000	12	85,000,000			1	1,000,000	60	441,000,000
9	35	300,000,000	9	55,000,000	13	85,000,000					57	440,000,000
10	36	300,000,000	13	60,000,000	12	80,000,000			3	2,700,000	64	442,700,000
11	40	300,000,000	17	60,000,000	21	90,000,000			1	1,000,000	79	451,000,000
12	44	320,000,000	17	75,000,000	31	110,000,000			13	13,500,000	105	518,500,000
13	40	300,000,000	20	60,000,000	27	90,000,000			7	9,600,000	94	459,600,000
14	43	320,000,000	24	60,000,000	32	90,000,000			5	7,000,000	104	477,000,000
15	43	300,000,000	26	60,000,000	42	90,000,000			3	4,700,000	114	454,700,000
16	44	300,000,000	35	60,000,000	41	90,000,000			7	8,900,000	127	458,900,000
17	47	300,000,000	36	60,000,000	42	90,000,000			5	5,000,000	130	455,000,000
18	49	300,000,000	39	60,000,000	46	90,000,000			8	12,000,000	142	462,000,000
19	49	300,000,000	40	60,000,000	47	90,000,000			7	10,900,000	143	460,900,000
20	51	300,000,000	32	60,000,000	47	90,000,000			3	3,000,000	133	453,000,000
21	51	300,000,000	36	58,500,000	41	90,000,000			3	5,000,000	131	453,500,000
22	52	300,000,000	34	57,900,000	42	90,000,000			3	2,500,000	131	450,400,000
23	46	250,000,000	30	50,000,000	35	70,000,000			0	0	111	370,000,000
24	43	250,000,000	33	47,500,000	35	70,000,000			0	0	111	367,500,000
25	45	250,000,000	34	50,000,000	35	70,000,000			2	1,500,000	116	371,500,000
26	47	250,000,000	34	50,000,000	35	70,000,000			0	0	116	370,000,000
27	50	259,000,000	36	52,000,000	38	74,000,000			2	1,500,000	126	386,500,000
28	50	280,000,000	34	58,000,000	39	82,000,000			3	3,000,000	126	423,000,000
29	50	300,000,000	32	60,000,000	38	90,000,000			2	1,300,000	122	451,300,000
30	50	300,000,000	32	60,000,000	37	90,000,000			1	3,000,000	120	453,000,000
令和元年度	67	352,000,000	47	100,000,000	41	100,000,000			4	8,000,000	159	560,000,000
2	91	810,000,000	44	100,000,000	94	200,000,000			1	3,000,000	230	1,113,000,000
3	61	340,000,000	28	58,700,000	80	130,000,000	11	25,000,000	0	0	180	553,700,000
計	1,811	12,720,099,400	1,078	2,475,244,000	1,256	4,184,501,600	11	25,000,000	389	331,891,703	4,545	19,736,736,703

注) 人文科学研究助成の実績には、50周年記念特別助成として実施した文化財修復事業助成（令和元年度：9件・20百万円、2年度：8件・20百万円）が含まれています。

役員及び評議員名簿

(2022年7月1日現在)

役 職	氏 名	常勤・非常勤の別	現 職
理 事 長	小林 健	非常勤	三菱商事(株)相談役
常務理事	渡邊 肇	常勤	
理 事	上野谷 加代子	非常勤	大阪市社会福祉協議会大阪市ボランティア・市民活動センター所長 同志社大学名誉教授
理 事	大宮 英明	非常勤	三菱重工業(株)相談役
理 事	岡田 清孝	非常勤	京都大学名誉教授、基礎生物学研究所名誉教授
理 事	岸本 美緒	非常勤	お茶の水女子大学名誉教授
理 事	黒田 玲子	非常勤	中部大学先端研究センター特任教授
理 事	佐藤 勝彦	非常勤	日本学術振興会学術システム研究センター顧問 東京大学名誉教授
理 事	白井 克彦	非常勤	早稲田大学名誉顧問
理 事	永井 良三	非常勤	自治医科大学学長
理 事	坂東 眞理子	非常勤	昭和女子大学理事長・総長
理 事	細野 秀雄	非常勤	東京工業大学 元素戦略研究センター センター長 特命教授、栄誉教授
理 事	三毛 兼承	非常勤	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ取締役執行役会長
理 事	水田 邦雄	非常勤	(福)恩賜財団母子愛育会理事長
理 事	室伏 きみ子	非常勤	お茶の水女子大学名誉教授・前学長
監 事	上原 治也	非常勤	三菱UFJ信託銀行(株)特別顧問
監 事	松尾 憲治	非常勤	明治安田生命保険(相)名誉顧問
監 事	柳井 秀朗	非常勤	三菱金曜会事務局長
監 事	山下 友信	非常勤	同志社大学大学院司法研究科教授
評 議 員	安西 祐一郎	非常勤	(公財)東京財団政策研究所所長、日本学術振興会顧問
評 議 員	飯野 正子	非常勤	津田塾大学名誉教授
評 議 員	大塚 義治	非常勤	日本赤十字社名誉社長
評 議 員	越智 仁	非常勤	三菱ケミカルグループ(株)シニアエグゼクティブコンサルタント
評 議 員	樺山 紘一	非常勤	東京大学名誉教授
評 議 員	岸 輝雄	非常勤	東京大学名誉教授、新構造材料技術研究組合理事長
評 議 員	北沢 利文	非常勤	東京海上日動火災保険(株)相談役
評 議 員	工藤 泰三	非常勤	日本郵船(株)特別顧問
評 議 員	畔柳 信雄	非常勤	(株)三菱UFJ銀行名誉顧問
評 議 員	佐々木 丞平	非常勤	京都大学名誉教授、京都国立博物館名誉館長
評 議 員	杉山 武史	非常勤	三菱電機(株)シニアアドバイザー
評 議 員	杉山 博孝	非常勤	三菱地所(株)取締役会長
評 議 員	佃 和夫	非常勤	三菱重工業(株)名誉顧問
評 議 員	遠山 敦子	非常勤	(公財)トヨタ財団顧問
評 議 員	野依 良治	非常勤	科学技術振興機構研究開発戦略センター長
評 議 員	堀田 凱樹	非常勤	東京大学名誉教授
評 議 員	三宅 占二	非常勤	キリンホールディングス(株)名誉相談役

(50音順)

選考委員

(2022年3月31日現在)

自然科学関係11名		
委員長	十倉好紀	理化学研究所創発物性科学研究センターセンター長 東京大学卓越教授、特別荣誉教授
委員	中山啓子	東北大学大学院医学系研究科教授
委員	長谷部光泰	基礎生物学研究所教授
委員	濱地 格	京都大学大学院工学研究科教授
委員	川上則雄	京都大学大学院理学研究科教授
委員	矢富 裕	東京大学大学院医学系研究科教授 東京大学医学部附属病院副院長、検査部部长
委員	幾原雄一	東京大学大学院工学系研究科教授
委員	小川誠司	京都大学大学院医学研究科教授
委員	村田茂穂	東京大学大学院薬学系研究科教授
委員	澤本和延	名古屋市立大学大学院医学研究科教授、脳神経科学研究所長
委員	須藤 靖	東京大学大学院理学系研究科教授

人文科学関係5名		
委員長	谷本雅之	東京大学大学院経済学研究科教授
委員	石川禎浩	京都大学人文科学研究所教授
委員	下田正弘	東京大学大学院人文社会系研究科教授
委員	岩波敦子	慶應義塾大学理工学部教授
委員	福永伸哉	大阪大学大学院人文学研究科教授

社会福祉関係6名		
委員長	水田邦雄	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会理事長
委員	芳賀信彦	国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局長
委員	妻鹿ふみ子	東海大学健康科学部健康マネジメント学科教授
委員	曾根直樹	日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究科准教授
委員	泉 陽子	東北大学東北メディカル・メガバンク機構教授
委員	鈴木俊彦	東京大学公共政策大学院客員教授

文化財保存修復関係3名		
委員長	小松大秀	公益財団法人永青文庫館長、秋田市立千秋美術館館長
委員	岩佐光晴	成城大学文芸学部教授
委員	林 温	慶應義塾大学文学部名誉教授

(敬称略、就任順)

2021年度 決算報告書

貸借対照表

2022年3月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産	569,602,642	730,484,097	△ 160,881,455
2. 固定資産	33,339,358,026	33,467,146,168	△ 127,788,142
(1) 基本財産	29,892,620,663	30,198,507,573	△ 305,886,910
(2) 特定資産	3,433,841,312	3,254,628,100	179,213,212
(3) その他固定資産	12,896,051	14,010,495	△ 1,114,444
資産合計	33,908,960,668	34,197,630,265	△ 288,669,597
II 負債の部			
1. 流動負債	341,416,528	530,911,032	△ 189,494,504
2. 固定負債	14,872,000	11,602,000	3,270,000
負債合計	356,288,528	542,513,032	△ 186,224,504
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	10,442,388,000	10,644,142,000	△ 201,754,000
2. 一般正味財産	23,110,284,140	23,010,975,233	99,308,907
正味財産合計	33,552,672,140	33,655,117,233	△ 102,445,093
負債及び正味財産合計	33,908,960,668	34,197,630,265	△ 288,669,597

正味財産増減計算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	584,075,329	571,884,336	12,190,993
② 特定資産運用益	101,786,359	86,238,850	15,547,509
③ 運用財産運用益	6,309	6,781	△ 472
④ 受取寄附金	0	500,000,000	△ 500,000,000
⑤ 雑収益	8,575,281	2,427,027	6,148,254
経常収益計	694,443,278	1,160,556,994	△ 466,113,716
(2) 経常費用			
① 事業費	632,706,332	1,201,065,329	△ 568,358,997
② 管理費	34,338,340	34,371,693	△ 33,353
経常費用計	667,044,672	1,235,437,022	△ 568,392,350
評価損益等調整前 当期経常増減額	27,398,606	△ 74,880,028	102,278,634
評価損益等計 当期経常増減額	71,910,302	919,730,780	△ 847,820,478
当期経常増減額	99,308,908	844,850,752	△ 745,541,844
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
(2) 経常外費用	1	0	1
当期経常外増減額	△ 1	0	△ 1
当期一般正味財産増減額	99,308,907	844,850,752	△ 745,541,845
一般正味財産期首残高	23,010,975,233	22,166,124,481	844,850,752
一般正味財産期末残高	23,110,284,140	23,010,975,233	99,308,907
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	△ 201,754,000	173,042,000	△ 374,796,000
指定正味財産期首残高	10,644,142,000	10,471,100,000	173,042,000
指定正味財産期末残高	10,442,388,000	10,644,142,000	△ 201,754,000
III 正味財産期末残高	33,552,672,140	33,655,117,233	△ 102,445,093

キャッシュ・フロー計算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 事業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 事業活動収入			
① 基本財産運用収入	584,075,329	574,424,736	9,650,593
② 特定資産運用収入	101,786,359	83,698,450	18,087,909
③ 運用財産運用収入	6,309	6,781	△ 472
④ 寄附金収入	0	500,000,000	△ 500,000,000
⑤ その他の事業活動収入	8,375,281	1,227,027	7,148,254
事業活動収入計	694,243,278	1,159,356,994	△ 465,113,716
2. 事業活動支出			
① 事業費支出	816,311,331	922,683,088	△ 106,371,757
② 管理費支出	33,253,398	38,234,550	△ 4,981,152
③ その他の事業活動支出	8,026	39,625	△ 31,599
事業活動支出計	849,572,755	960,957,263	△ 111,384,508
事業活動によるキャッシュ・フロー	△ 155,329,477	198,399,731	△ 353,729,208
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 投資活動収入	256,100,949	585,062,037	△ 328,961,088
2. 投資活動支出	261,652,449	494,009,877	△ 232,357,428
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,551,500	91,052,160	△ 96,603,660
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0
IV 現金及び現金同等物の増減額	△ 160,880,977	289,451,891	△ 450,332,868
V 現金及び現金同等物の期首残高	728,957,919	439,506,028	289,451,891
VI 現金及び現金同等物の期末残高	568,076,942	728,957,919	△ 160,880,977

主要年度日誌

年月日	摘要
2021年 9月	2021年度自然科学研究、人文科学研究、社会福祉事業・研究、文化財保存修復事業助成金贈呈式は、コロナ禍の影響で開催見合わせ(贈呈書、助成金贈呈パンフレットを助成金受領者宛て送付)
9. 3	第53回臨時理事会(決議の省略) 新型コロナ関連特別助成(社会福祉関連)実施の件ほか
9.17	第26回臨時評議員会(決議の省略) 新型コロナ関連特別助成(社会福祉関連)実施の件ほか
9.28	「新型コロナ感染症関連特別助成(社会福祉関連)」公募受付開始
10.20	「新型コロナ感染症関連特別助成(社会福祉関連)」公募を締め切る 応募件数56件、金額111百万円
11. 2	2022年度人文科学第1回選考委員会 審査方針、応募要領等の決定
11. 5	2022年度自然科学第1回選考委員会 審査方針、応募要領等の決定
11. 8	2022年度文化財保存修復第1回選考委員会 審査方針、応募要領等の決定
11. 9	2022年度社会福祉第1回選考委員会 審査方針、応募要領等の決定
11.15	「新型コロナ感染症関連特別助成(社会福祉関連)」中央共同募金会との共同助成審査会 助成金贈呈先43件推薦を決定
11.29	第54回臨時理事会(決議の省略) 「新型コロナ関連特別助成(社会福祉関連)」助成先決定(助成金贈呈先43件)の件ほか
12.15	2022年度人文科学研究助成、文化財保存修復事業助成公募受付開始
12.23	2022年度社会福祉事業・研究助成公募受付開始
2022年 1. 6	2022年度自然科学研究助成公募受付開始
1.12	2022年度人文科学研究助成公募を締め切る 応募件数 211件、金額 558百万円 2022年度文化財保存修復事業助成公募を締め切る 応募件数 32件、金額 87百万円
1.20	2022年度社会福祉事業・研究助成公募を締め切る 応募件数 153件、金額 656百万円
2. 3	2022年度自然科学研究助成公募を締め切る 応募件数 1,050件、金額 7,321百万円
2.18	第55回理事会(決議の省略) 2022年度(2023年3月期)事業計画・収支予算承認ほか
3. 4	第27回評議員会(決議の省略) 2022年度(2023年3月期)事業計画・収支予算承認ほか
3.16	2022年度文化財保存修復第2回選考委員会 助成金贈呈先12件推薦を決定
3.17	2022年度社会福祉第2回選考委員会 助成有力候補選出、候補先面接等の分担・日程を決定
3.22	2022年度人文科学第2回選考委員会 助成有力候補選出、候補先面接等の分担・日程を決定
3.25	2022年度自然科学第2回選考委員会 具体的選考手順、審査分担の決定
3.31	2021年度(2022年3月期)期末決算
4.12	2022年度人文科学第3回選考委員会 面接等に基づき、助成金贈呈先31件推薦を決定
4. 6 ~ 21	社会福祉助成有力候補者の面接選考
5.14 ~ 15	2022年度自然科学第3回選考委員会 助成候補の審議検討、助成有力候補を選出
5.25	2022年度社会福祉第3回選考委員会 面接等に基づき、助成金贈呈先30件推薦を決定
5.30 ~ 31	2022年度自然科学第4回選考委員会 助成有力候補者の面接選考、助成金贈呈先67件推薦を決定
6. 3	第56回理事会(決議の省略) 2021年度(2022年3月期)事業報告・決算報告承認ほか
6.21	第57回理事会 ○2022年度助成先決定 ・第53回(2022年度)自然科学研究助成金贈呈先67件の承認 ・第51回(2022年度)人文科学研究助成金贈呈先31件の承認 ・第53回(2022年度)社会福祉事業・研究助成金贈呈先30件の承認 ・第4回(2022年度)文化財保存修復事業助成金贈呈先12件の承認 ○2023年度選考委員選出(自然科学11名、人文科学5名、社会福祉6名、文化財保存修復3名) ○新型コロナ関連特別助成(社会福祉関連:第3回)実施の承認
6.21	第28回評議員会 ○2021年度(2022年3月期)事業報告・決算報告承認 ○評議員17名(新任6名、重任11名)選任 ○理事3名(新任3名)選任 ○新型コロナ関連特別助成(社会福祉関連:第3回)実施の承認

三菱財団基金拠出会社

三菱重工業株式会社

株式会社三菱UFJ銀行

三菱商事株式会社

三菱UFJ信託銀行株式会社

明治安田生命保険相互会社

東京海上日動火災保険株式会社

三菱電機株式会社

ENEOSホールディングス株式会社

キリンホールディングス株式会社

三菱地所株式会社

三菱自動車工業株式会社

AGC株式会社

三菱マテリアル株式会社

三菱UFJ証券ホールディングス株式会社

三菱ふそうトラック・バス株式会社

日本郵船株式会社

三菱ガス化学株式会社

株式会社ニコン

三菱倉庫株式会社

三菱ケミカルグループ株式会社

三菱製鋼株式会社

三菱製紙株式会社

三菱化工機株式会社

株式会社ピーエス三菱

株式会社三菱総合研究所

MAアルミニウム株式会社

郵船ロジスティクス株式会社

三菱電線工業株式会社

株式会社島津製作所

株式会社GSユアサ

旭ファイバーグラス株式会社

大日本塗料株式会社

三菱UFJニコス株式会社

三菱HCキャピタル株式会社

アストモスエネルギー株式会社

三菱ロジスネクスト株式会社

日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ株式会社

三菱鉱石輸送株式会社

三菱総研DCS株式会社

三菱ケミカル株式会社

以上40社
(2022年7月現在)



公益財団法人 **三菱財団**

〒100-0005

東京都千代田区丸の内2丁目3番1号

三菱商事ビルディング21階

電 話 (03) 3214-5754

F A X (03) 3215-7168

E-mail info@mitsubishi-zaidan.jp

三菱財団 ホームページ

<https://www.mitsubishi-zaidan.jp>

三菱グループ ホームページ 助成活動紹介サイト

[https://www.mitsubishi.com/ja/
profile/csr/philanthropy/](https://www.mitsubishi.com/ja/profile/csr/philanthropy/)

公益財団法人 三菱財団
THE MITSUBISHI FOUNDATION

